要保管

自転車取扱説明書

●この度はお買い上げいただき、誠にありがとうございます。
●この商品を正しく安全に使用していただくために、お使いになる前に必ずこの取扱説明書をよくお読みのうえ、正しくお使いください。
●お読みになったあとは、いつでも見られるところに大切に保管し、必要なときにお読みください。

目次

お買い上げありがとうございます。

この説明書は全車種共通となっております。
(図は代表車種を記載させていただいておりますので、若干の仕様の違いがございます。)

●お買い求めになった自転車に当てはまらない説明内容も含まれております。
●間違った取り扱いや調整は事故につながる恐れがありますので、
警告・禁止・注意・強制事項を必ず守ってください。
●乗車前の「日常点検」と「2ヶ月以内・1年ごとの定期点検」を
必ず実行してください。(点検費用はお客様負担となります。[有償])
●取り扱いがわからないときは販売店にご相談ください。
●子供または幼児が使用する場合においては保護者の方が使用上の
注意事項を教えてあげてください。

●自転車は組み立て品につき、未完成の状態でのお届けとなっております。未完成部分はお客様にて組み立てが必要となります。組み立てにはある程度の技術が必要となります。本書をよくお読みの上、手順に従って組み立ててください。
●ブレーキや変速機につきましては、輸送中や組み立て時に調整がずれることがあり、完全な調整ができていない場合がございます。
●ペダルは左右でネジ山の向きが異なりますので左右を間違えないようご注意ください。
●キャリパーブレーキが使用されている車種は、Vブレーキ、ディスクブレーキを使用している車種と比べると構造上効きが滑らかでロックしにくいという特性を持っていますので制動距離は長くなります。
勾配の大きな下り坂など、スピードが出やすい道の走行時にはご注意ください。
●自転車の推奨適応体重は65kg以下(子供車は45kg以下)です。
●万が一、不具合があった場合、ご使用後の商品につきましては交換対応致し兼ねますので、
必ず乗車前点検を行ってください。

●事前連絡なしでお客様の方で修理されたものに関しましては一切の保証を致し兼ねます。[保証規定B-31]
●本書をよくお読みのうえ、保証規定を確認了承していただいてから組み立て調整をしていただき、ご乗車ください。

この自転車は一般道路用です。
オフロードや競技用には絶対にご使用にならないでください。

本書をいつでも再読できるように大切に保管してください。
※製品改良のため、予告なくデザイン及び仕様を変更することがあります。

警告表示について

お使いになる人や他の人への危害、財産への損害を未然に防止するにあたり、必ずお守りいただくことを次のように説明しています。

■表示内容を無視して誤った使い方をしたときに生じる危害や損害の程度を、次の表示で区分し説明しています。

表示	内容
⚠危険	この表示の欄は、「死亡または重傷などを負う可能性が想定される」内容です。
⚠警告	この表示の欄は、「死亡または重傷などを負う可能性が想定される」内容です。
⚠注意	この表示の欄は、「傷害を負う可能性または物的損害のみが発生する可能性が想定される」内容です。

■お守りいただく内容の種類を、次の絵で区分し、説明しています。

絵表示	内容
⃠	この絵表示はしてはいけない「禁止」内容です。
(!)	この絵表示は、必ず実行していただく「指示」内容です。

各部のなまえ

フレーム各部の名称

スポーツ車

サドル
グリップ
ハンドルバー
ブレーキレバー
シートポスト
変速ワイヤー
シートピン
ブレーキワイヤー
後ブレーキ
前ブレーキ
シフトレバー
リアリフレクター
フロントホーク
(フリー)
スプロケット
ハブ
クランク
ペダル
タイヤ
バルブ
チェーン
スタンド
ニップル
リム(車輪)
スポーク
リアディレイラー

各部のなまえ

軽快車（シティサイクル）

グリップ
グリップシフター
ブレーキレバー
カゴ
ブレーキワイヤー
変速ワイヤー
サドル
リアリフレクター
シートピン
シートポスト
泥除け
(フリー)
スプロケット
前ブレーキ
後ブレーキ
リム（車輪）
クランク
ペダル
タイヤ
ニップル
フロント
ホーク
リアディレイラー
ハブ
チェーン
スポーク
スタンド
バルブ

折りたたみ自転車

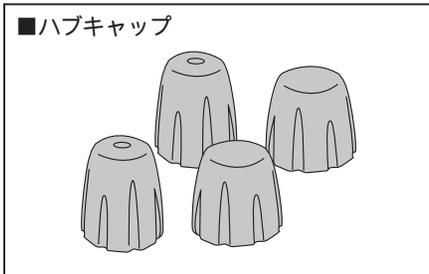
グリップ
グリップシフター
ブレーキレバー
ブレーキワイヤー
ハンドルポスト
サドル
変速ワイヤー
シートピン
シートポスト
リアキャリア
折りたたみレバー
前ブレーキ
リアリフレクター
フロントホーク
後ブレーキ
ハブ
スポーク
クランク
(フリー)
スプロケット
ペダル
リアディレイラー
泥除け
ニップル
スタンド
リム（車輪）
バルブ
チェーン
タイヤ

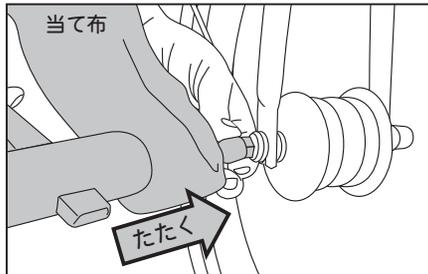
組立前のご確認

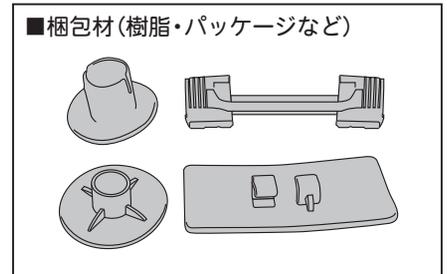
ダンボールから取り出した状態は７０％～９５％での未完成の状態です。
まず説明書、付属工具などが入っているかを確認してください。フレームや部品等の破損が見られる際は、販売店へご連絡ください。
※車種により付属工具は異なります。また、作業内容により付属していない工具が必要になる場合がございますのでご了承ください。

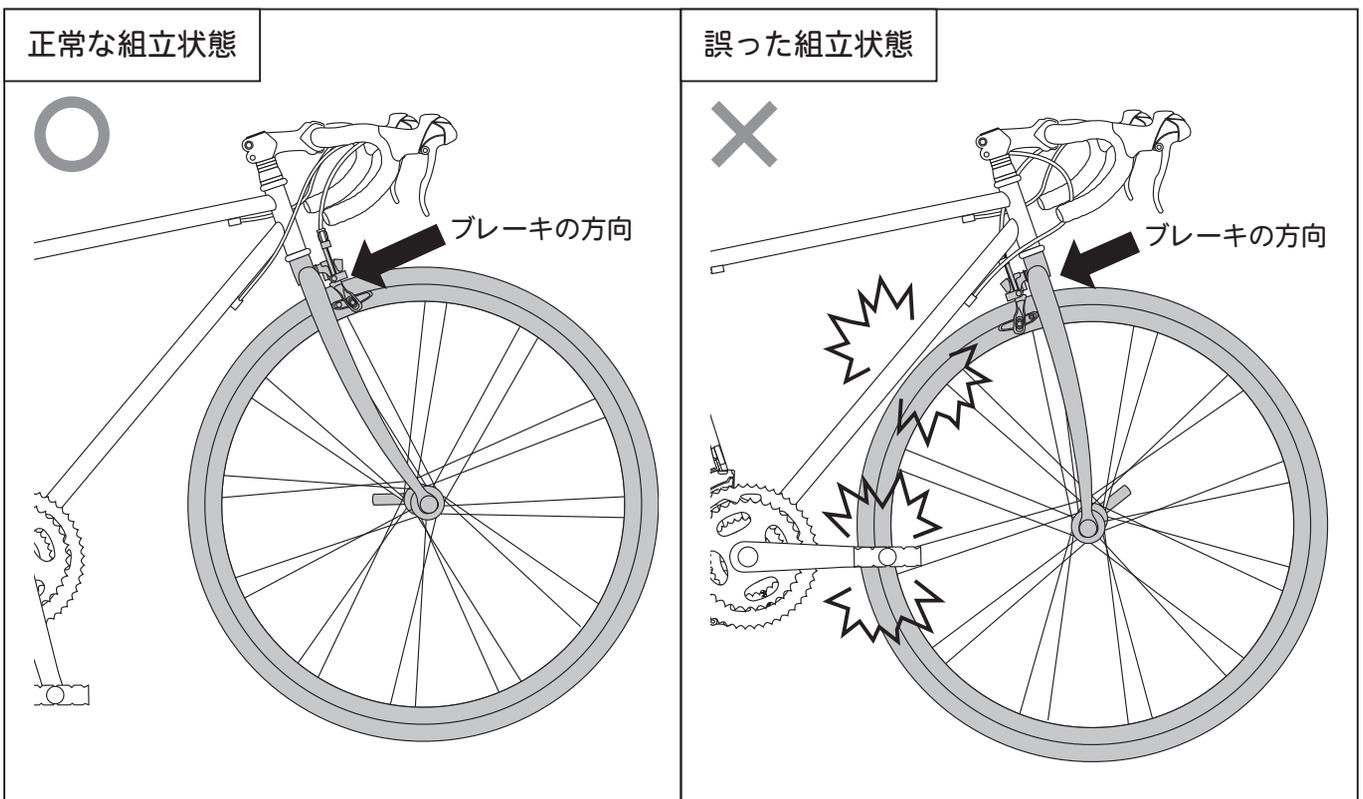
各作業、組立方法については弊社ホームページで動画を見ることが可能です。
http://www.e-otomo.co.jp/support/

ハブキャップ・梱包材について

説明書等に同梱されている樹脂製のキャップは車輪用のハブキャップとなります。ハブキャップは、車輪軸部のハブナットにはめ込む仕様となっていますが、走行時にはずれたりしないよう取り付けはきつめになっています。
取り付けが難しい場合は、布等を当てていただきハンマー等で叩いてはめこんでください。
※車輪側に既に取り付けられている車種や付属していない車種もございます。

■ハブキャップ

※通常、ハブキャップは4つ付属しています。

必ず当て布を当てて、ハンマーで叩いてください。ヒビ・亀裂によりキャップが割れる恐れがあります。

■梱包材（樹脂・パッケージなど）

到着時点では「梱包材」が破損している場合があります。梱包材は必要ないものとなりますので、商品に異常がなければそのまま破棄してください。

タイヤの向きについて（必ずご確認ください）

⚠危険	一部の車種において、前ホークの向きを逆向きにして梱包している車種があります。 前ホークが逆さまに取り付けられていると、前輪がフレームやペダルに接触する可能性があり大変危険です。必ず前ホーク・タイヤを正常な向きに直してから、組み立てを始めてください。

組立前のご確認

タイヤの取扱・バルブの種類について

バルブの形式と空気の入れ方

ご購入いただいた自転車のバルブの種類をご確認ください。
バルブの形式には「英式」「米式」「仏式」があります。また、ポンプの口金形式はメーカーによって異なりますのでご注意ください。

英式	米式	仏式(変換アダプターの項を参照)
プランジャー		
ポンプ口金	ポンプ口金	ポンプ口金
●キャップを外しポンプの口金をプランジャーに押し付けて空気を入れる。 ●空気圧を確認後、口金を外してキャップを付ける。	●キャップを外しボディにポンプの口金をはめて空気を入れる。 ●空気圧を確認後、口金を外してキャップを付ける。	●キャップを外し、先端のナットをゆるめます。ナットを数回押し空気の抜けを確認する。ポンプの口金をはめ込み、空気を入れる。 ●空気圧を確認後口金を外し、しっかりとナットを締めキャップを付ける。

タイヤの空気圧について

タイヤの空気圧が少ないと、接地面積が広くなって抵抗が大きくなるほか、パンクやタイヤ・リムの損傷の原因になります。タイヤに表示されている空気圧の範囲でご使用ください。

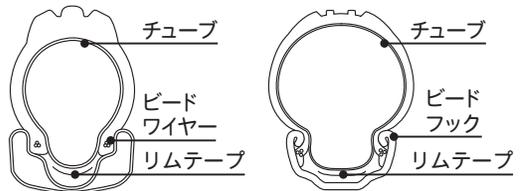
表示例・・[〇〇〇kPa、〇〇kgf/cm²、〇〇PSI]

(注)換算率・・・1kPa=0.01kgf/cm²=0.145PSI

※タイヤゲージがない場合は自転車に乗車した接地長で判断してください。接地面9 ～ 10cm程度が適当です。

WOタイヤとHEタイヤ

●WOタイヤ
ビードワイヤーがリムの全長より短く、その張力で固定するタイプ。

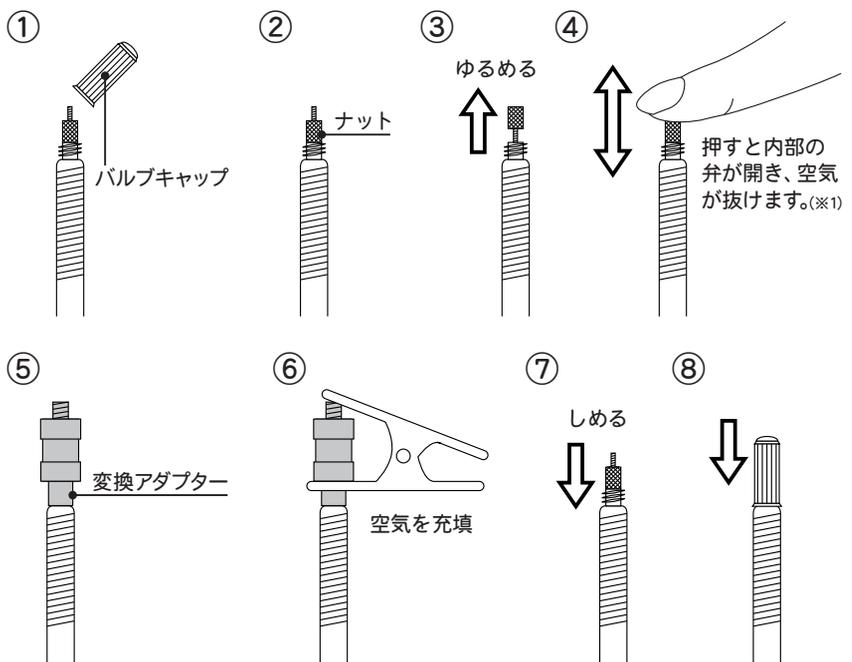
●HEタイヤ
ビードフックという引っかかりで固定するタイプ。

バルブ変換アダプターについて

自転車の種類により、スポーツ車によく使用される仏式バルブを採用しております。仏式バルブに空気を入れる際には専用の空気入れが必要です。(仏式バルブタイプのチューブは通常のチューブよりも高い空気圧を必要とする場合が多いので、できれば空気圧計付きのタイプをおすすめします。)
ただし、お手元に専用空気入れがない場合はバルブ変換アダプターを使用することにより英式バルブ用の空気入れを使用することができます。(変換アダプターを使用した場合、指定の空気圧に満たない場合もあるので注意が必要です。)

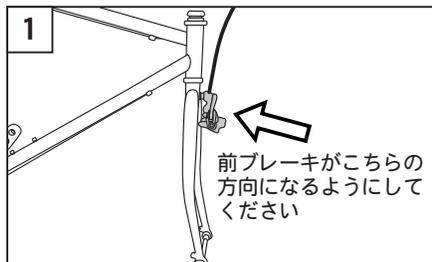
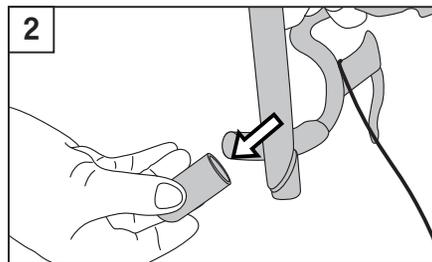
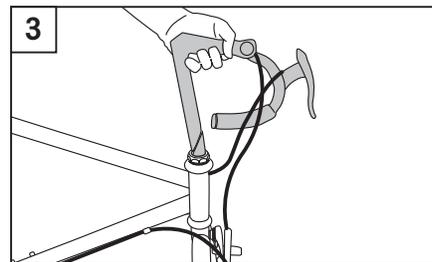
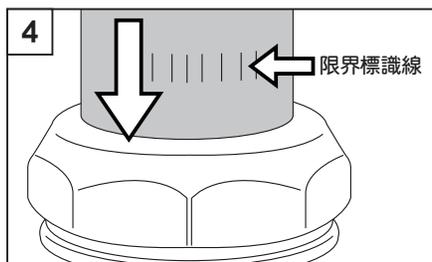
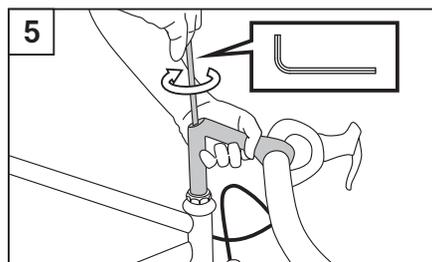
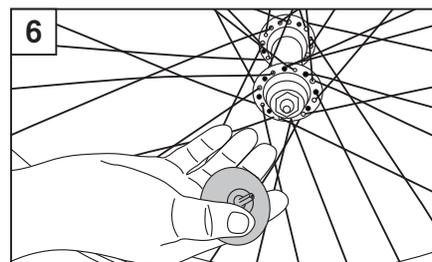
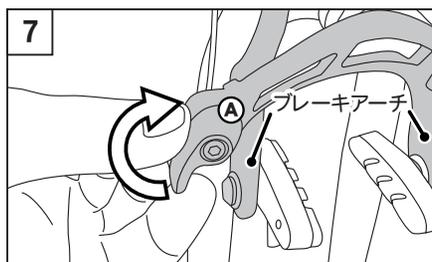
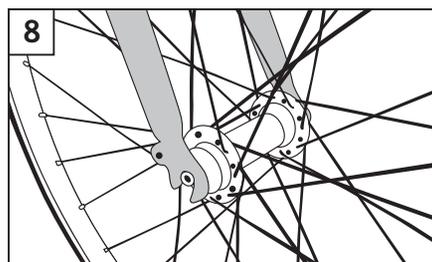
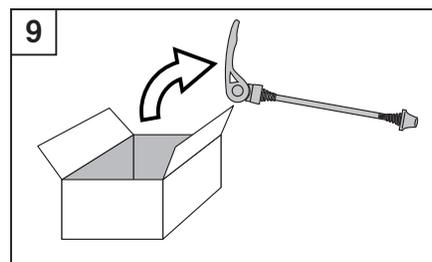
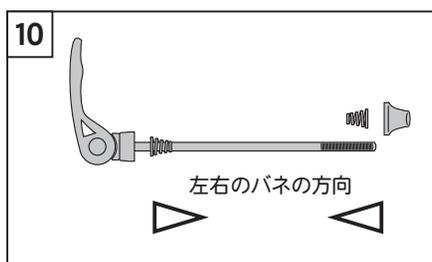
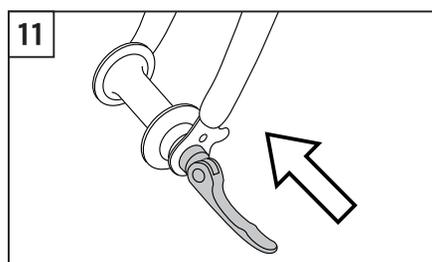
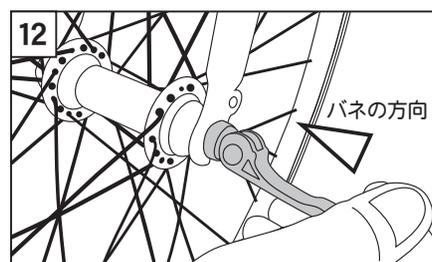
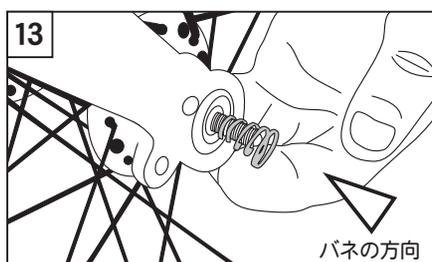
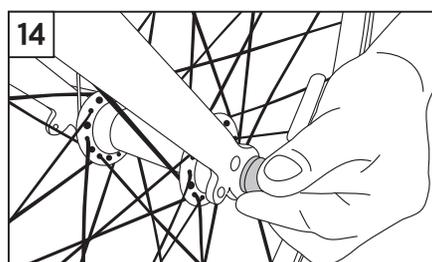
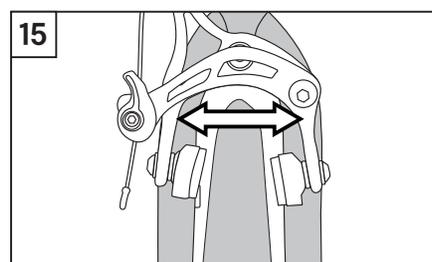
変換アダプターの使い方

①バルブキャップを外します。
②先端にナットがついています。
③ナットをゆるめます。
④ナットの先端部を数回押します。(この作業により、内部の弁が開き空気を入れることが可能になります。ナットを押すたび空気が抜けることを確認してください。)
⑤変換アダプターを取り付けます。
⑥しっかりと空気を入れてください。
⑦空気を入れたあと、変換アダプターを外し、ゆるめたナットをしっかり締めてください。
⑧バルブキャップをはめてください。

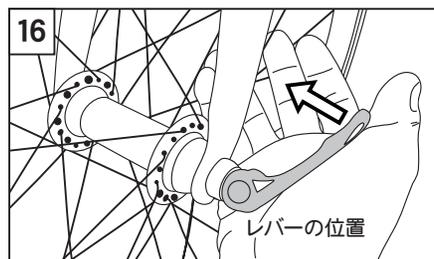
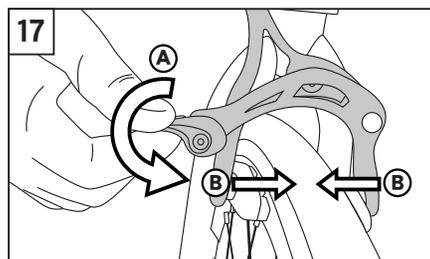
■変換アダプター

仏式バルブ仕様車には普通タイプ(英式バルブ)用の空気入れが使用できるよう、変換アダプターが付属しています。
取扱説明書の入っている袋の中、もしくは車輪本体に「1つ」付属しており、前後付け替えて、使用するものとなります。

(※1) このとき、空気が抜けない場合は弁がひっかかっている可能性があります。先端が折れないよう気をつけながら少しだけ左右に揺らしてください。

自転車の組立

クイックリリースの組立方法

前ホークを図の方向に合わせてください。

ハンドルの下部に付いているキャップ等は取り外してください。

組み立て時に傷がつかないようにハンドルを仮止めします。(変速レバーを前もってステムに差し込んでおくと便利です。)

ハンドルは限界標識線が見えない位置まで差し込んでください。

図の工具(付属の6mm六角レンチ)でハンドルを仮止めしてください。

前車輪の樹脂キャップを取り外してください。キャップの芯の部分が中に残らないよう、引き抜くように外します。(P9参照)

Aのレバーを図の方向に回してください。ブレーキアーチが外方向に少し開きます。

前ホークに車輪の軸部を引っ掛けるようにして置いてください。

付属している小箱からクイックリリースレバーを取り出してください。

クイックリリースレバーの構成は図のようになっています。

クイックリリースレバーを自転車の左側(自転車に向かって右側)から差し込んでください。このとき、バネの方向に注意してください。

レバーを図のような角度に保ちながら、反対側にバネ・ナットを入れていきます。

前ホークの右側から方向に注意してバネを入れてください。

さらに、ナットを指先で締められるところまで締めてください。

タイヤが前ホークの中心になるように車輪をセットしてください。

自転車の組立

クイックリリースの組立方法-つづき

レバーを内側に倒し、車輪がしっかりと取り付けられているか確認してください。もしゆるかったりレバーを倒すのが固かった場合はナットの締め具合(ゆるめる、締める)で調整してください。
レバーは前ホークに沿わせるようにセットしてください。

Aのレバーを矢印方向に戻してください。レバーが戻らない場合はBをつまみながらレバーを戻してください。

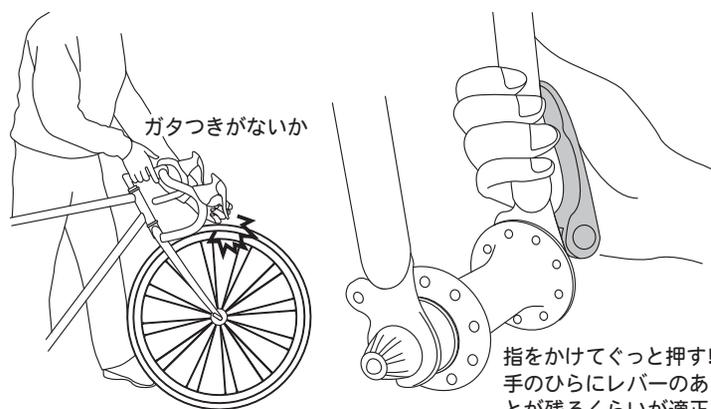
⚠注意	これまでの手順で前車輪が取り付けられましたが、ハンドル(変速レバーを取り付けてください)はまだ仮固定の状態です。必ずハンドルをしっかりと締めて(20N・m)ください。

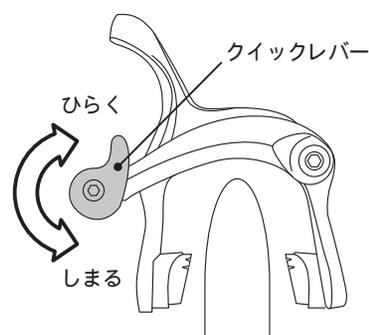
クイックリリース式車輪の固定確認

乗車前には必ずタイヤが正しく固定されているか確認してください。前輪を持ち上げ、車輪を上から叩いて車輪がずれたり、グラグラしないか確認してください。

チェック項目
□クイックリリースレバーがフロントフォークに沿って閉じている。
□クイックリリースレバーの「CLOSE」の刻印が外側に見えている。
□クイックリリースレバーが簡単に開かない。
□車輪にガタつきがない。

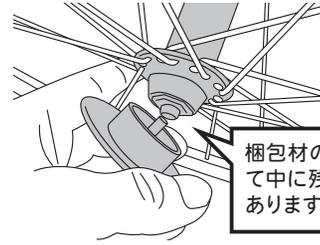
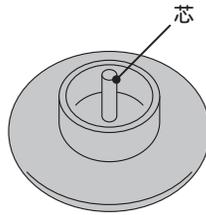
ガタつきがないか

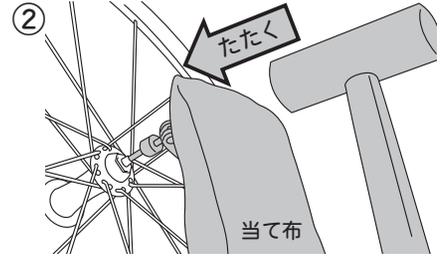
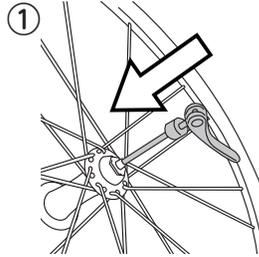
指をかけてぐっと押す!
手のひらにレバーのあとが残るくらいが適正です。

キャリパーブレーキのロック解除

車輪を取り外すときは、ブレーキのクイックレバーを開いて取り外してください。
車輪を装着したときは、クイックレバーをしっかり閉めてください。

⚠警告	クイックリリースはワンタッチで車輪を外せる便利な機構ですが、調整と締め付け力が適切でないと、ホイールがゆるんだり外れたりすることがあり危険です。 乗車前には必ずきちんと取り付けされているか確認のうえご乗車ください。

クイックリリースの組立方法-つづき

前輪の梱包材について

前輪には図のような梱包材が付いています。
取り外す際に、梱包材の芯が折れて中に残ってしまった場合は、下記の手順で取り出してください。

芯の取り出し方法

①芯が詰まった反対側から、クイックリリースレバーを差し込みます。
②レバー部に傷がつかないよう布等をあてハンマーで叩いて、詰まった芯を取り出してください。

自転車の組立

フレーム組立の手順

自転車本体を箱から出し、梱包材を全て取り外してください。
折りたたみ自転車は、まずフレームの組み立てから行ってください。フレーム組み立て後、スタンドを立てると自立します。
※図の自転車は代表車種です。実際のものとは仕様が異なる場合があります。**折りたたむ場合は逆の手順で行ってください。**

下方向でロックするタイプ　※ギヤ側真横からフレームを見た図

●折りたたまれた状態

①レバーを引き上げながら車体を伸ばします。正しくセットされるとレバーが下がり、フレームがロックされます。

②固定レバーを向かって右側に回転させます。
③固定レバーを下方向に回転させ、しっかりと固定させます。

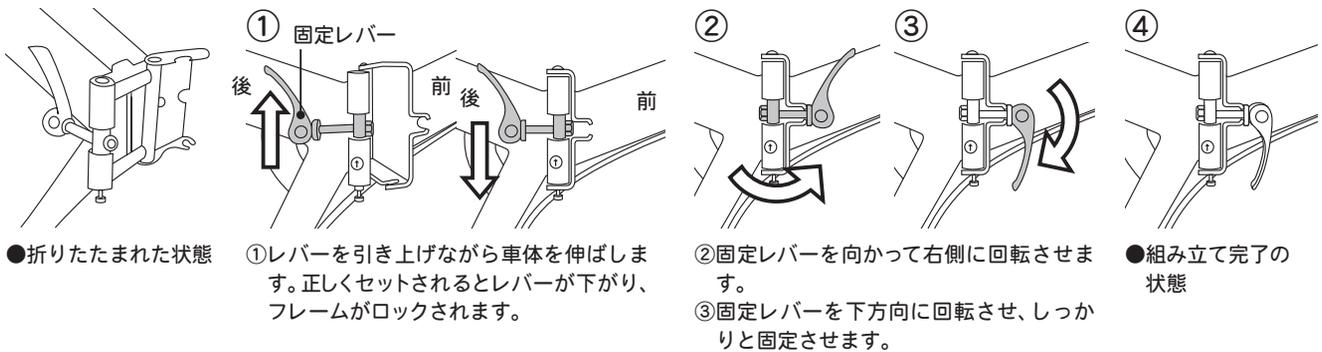
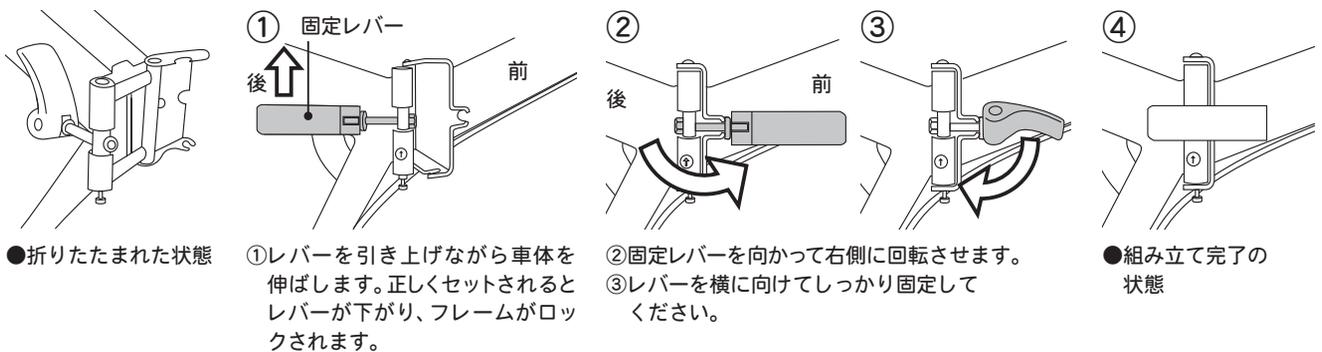
●組み立て完了の状態

横方向でロックするタイプ　※ギヤ側真横からフレームを見た図

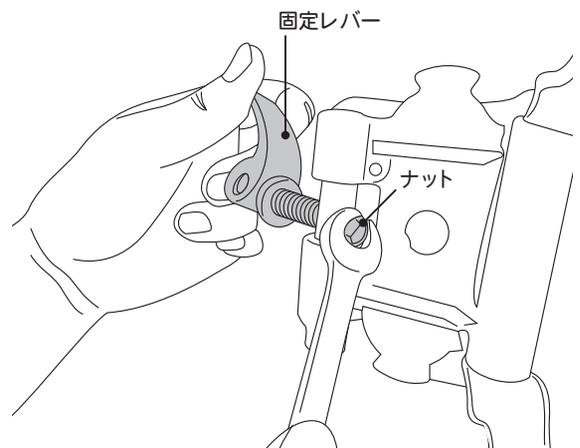
●折りたたまれた状態

①レバーを引き上げながら車体を伸ばします。正しくセットされるとレバーが下がり、フレームがロックされます。

②固定レバーを向かって右側に回転させます。
③レバーを横に向けてしっかり固定してください。

●組み立て完了の状態

折りたたみレバーが固い、またはゆるすぎるとき

レバーの固さが適正でないと、走行中にゆるんだり外れる可能性があり大変危険です。レバーの固さは、ナットで調整することができます。

レバー稼動部に潤滑性の油を注すことで、動きがスムーズになり、強度も増します。（潤滑油は商品に付属していません。）

⚠注意	乗車する際には毎回、固定レバーが確実にロックされているか確認してください。 ハンドルの向きに気をつけて、ブレーキワイヤー（変速機能があれば変速ワイヤーも含む）がハンドルの前側になるようにハンドルを差し込んでください。ワイヤーが絡んだり、巻きついている場合は、ハンドルを回転させたり、ハンドルを抜いて正常な状態になるように差し直してください。

自転車の組立

ハンドルの取付・組立方法

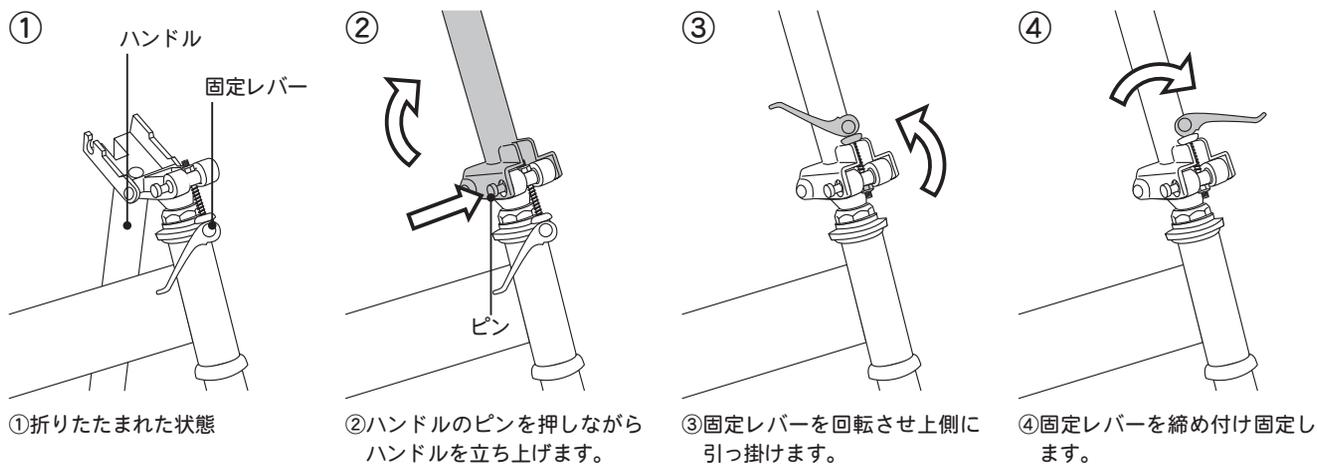
折りたたみハンドルタイプ

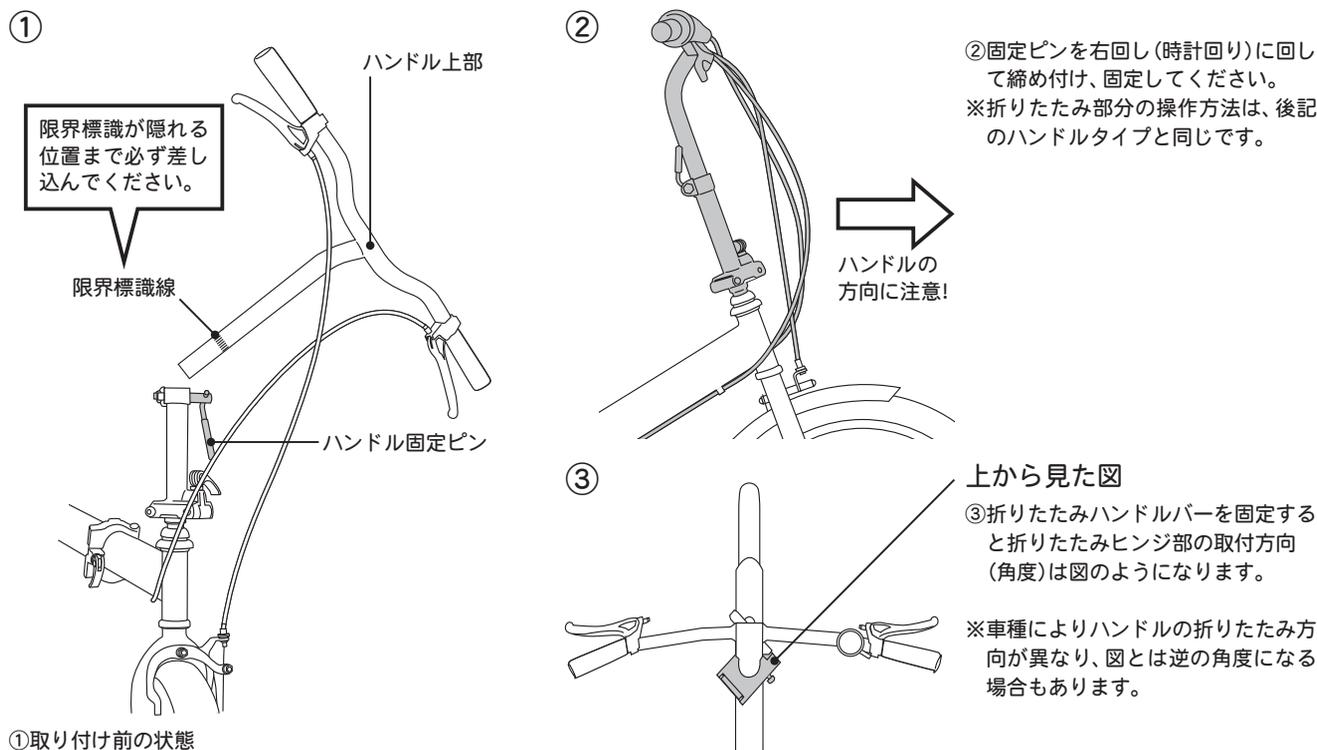
※折りたたみハンドルタイプは、ハンドルの高さ調整はできません。

①折りたたまれた状態

②ハンドルのピンを押しながらハンドルを立ち上げます。

③固定レバーを回転させ上側に引っ掛けます。

④固定レバーを締め付け固定します。

接続折りたたみハンドルタイプ

※ハンドルから出ているワイヤーが、全てハンドルとフレームの前側になるようにハンドルを差し込んでください。(変速機付の自転車は変速ワイヤーも同様です。)

①取り付け前の状態

②固定ピンを右回し(時計回り)に回して締め付け、固定してください。
※折りたたみ部分の操作方法は、後記のハンドルタイプと同じです。

③折りたたみハンドルバーを固定すると折りたたみヒンジ部の取付方向(角度)は図のようになります。

※車種によりハンドルの折りたたみ方向が異なり、図とは逆の角度になる場合もあります。

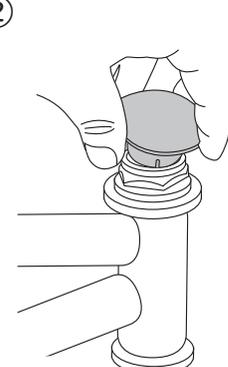
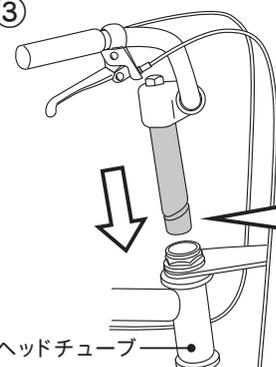
⚠注意	乗車する際には毎回、ハンドルの固定確認を行い、各部のガタ・ゆるみがないか、確実に固定されているか確認してください。 ガタ・ゆるみのある場合や、固定されていない場合は、再度締め付けを行ってください。

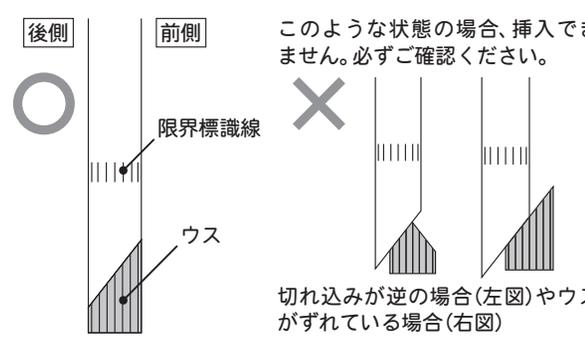
自転車の組立

ハンドルの固定方法（ボルト固定・レバー固定・ナット固定）

同じ箇所にあるボルトの役目が違うため、お客様の自転車が下図と同じような構造であることを確認してから作業を始めてください。
※アヘッドタイプの車種はクランプボルトを使用して固定します。（P14参照）

ボルト固定タイプ　　レバー固定タイプ　　ナット固定タイプ

①ハンドルポスト下側のキャップを取り外してください。（梱包材ですのでそのまま破棄していただいて結構です。）
※ボルト固定タイプ、レバー固定タイプ、ナット固定タイプの構造は同じものとなります。

②本体側に梱包材がついている場合は取り外してください。

③ヘッドチューブに対して真っすぐにハンドルを差し込みます。

右横側から見た際にハンドル底部とウスが一直線（円柱）になる状態が正しい状態となります。

このような状態の場合、挿入できません。必ずご確認ください。

切れ込みが逆の場合（左図）やウスがずれている場合（右図）

ボルト固定タイプ

④

タイヤ

しまる　ゆるむ

六角レンチ

フレーム

レバー固定タイプ

ナット固定タイプ

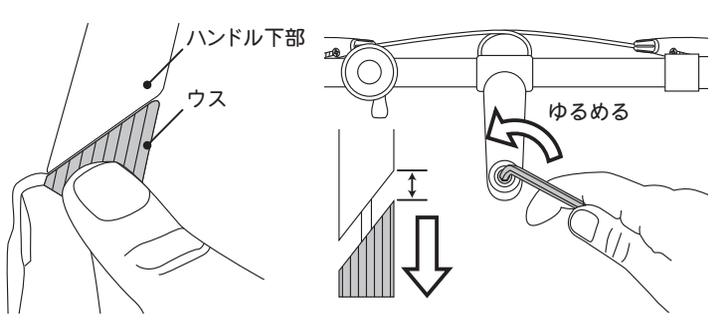
上から見た図

ハンドル固定ネジは
●六角レンチを使用するもの
●レバータイプになっているもの
●ボルト状でスパナを使用して固定するもの
など、車種により仕様が異なります。

車種にあわせた工具をご使用ください。

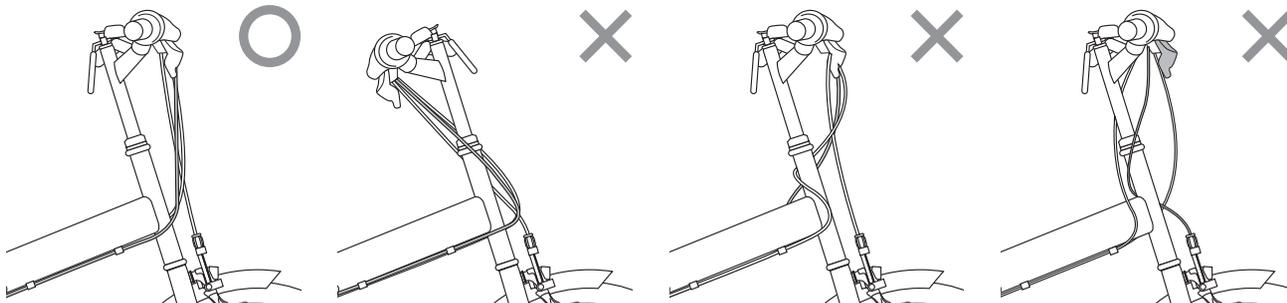
④ハンドル固定ボルトを右回し（時計回り）に回してハンドルを固定します。
走行時にハンドルが動くと大変危険ですので、ハンドル固定ネジはしっかりと締めてください。

ハンドルが差し込みにくいときは

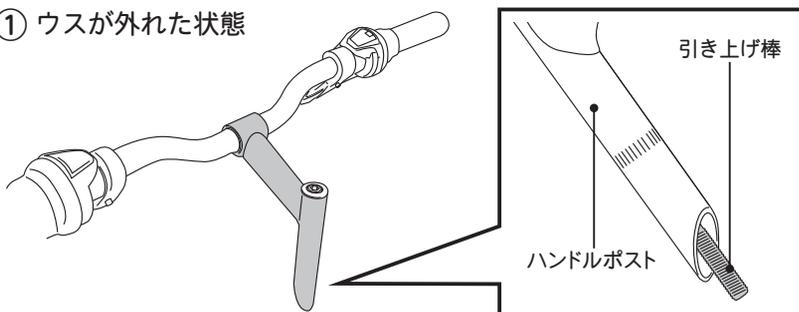
ウスを手で押さえながら、ハンドル固定ネジを左回し（反時計回り）に回してウスの位置を下げてください。
ウスとハンドル下部の間が空き、ハンドルを差し込みやすくなります。

自転車の組立

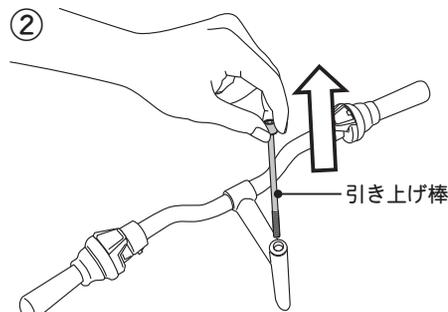
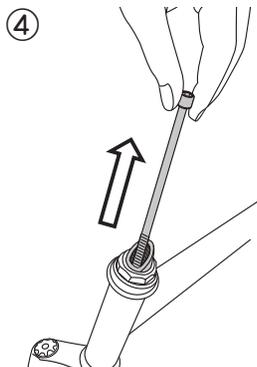
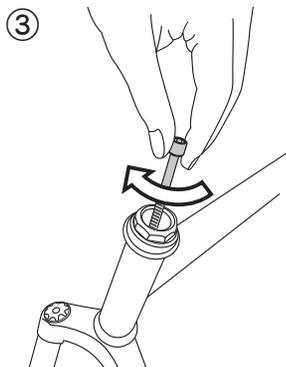
ハンドルの固定方法（ボルト固定・レバー固定・ナット固定）-つづき

ワイヤー類の取回しについて

ブレーキワイヤーやシフトワイヤーが車体やワイヤー同士等に絡み合わないようにご注意ください。ワイヤーに不自然な絡まりがあると、内部インナーに干渉し作動時の動きを妨げることになり、正常な動作が行われないため大変危険です。

ハンドルを固定できない場合の対処方法

ハンドルが固定できない時の原因のひとつとして、ハンドルをゆるめて外した際に、ハンドル固定ネジをゆるめすぎるとウスが外れてヘッドチューブの中に残ってしまう（落ちてしまっている）ことがあります。
このような場合は、ハンドル引き上げ棒のみをステムから取り出し、狙いを定めてヘッドチューブに差し込み、ウスを取り出してください。

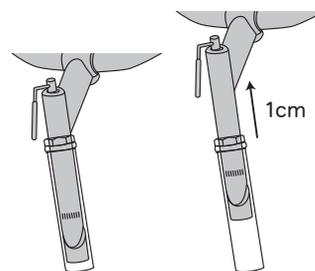
① ウスが外れた状態

①ハンドルの引き上げ棒からウスが外れて固定ができない状態です。

②

②ハンドルポストから引き上げ棒を抜き取ります。
引き上げ棒底部にはネジが切られています。

③引き上げ棒のみをハンドルポスト差し込み口に差し込み、ウスのネジ穴と引き上げ棒のネジが合うように右回し（時計回り）で回します。

④ウスが捕まえられたら、引き上げ棒を引き上げてウスを取り出します。ウスを取り出したあと引き上げ棒を取り外し、再度ハンドルポストを通した状態でウスを引き上げ棒の底面に取り付け、ハンドル固定の作業に入ってください。

⚠注意

ハンドルポストは限界標識線が隠れる位置まで必ず差し込んでください。（限界標識線が見える状態で固定すると、破損の原因に繋がる可能性があります。限界標識線が見える位置で固定していて破損した場合は組立方法に起因する不具合となり保証対象外となります。）
［保証規定B-2］

ハンドルポストは一番下げた状態にしないでください。（右図）
ハンドルポストを一番下まで下げた状態で固定すると、固定力が弱まる場合があります。一番下までは下げず、底から1cmほど上げた位置で固定してください。ただし、限界標識線を越えない（見えるところまで上げない）ようご注意ください。

自転車の組立

ハンドルの固定方法（アヘッドステム）

スポーツタイプ

①

BMXタイプ

①

①前輪が逆になって梱包されている車種もあります。前輪を正しい方向に向けてから作業を行ってください。（P5参照）
※前ブレーキが進行方向側にある状態が正しい状態となります。
※ブレーキワイヤー等が絡まらないよう、ハンドルを取り付けてください。

②

②ハンドルバー固定用ボルトを左回し（反時計回り）に回してクランプを取り外しハンドルバーを取り付けます。この際、ボルトは交互に均等に締め付けてください。

※必ず垂直にボルトを締め付けてください。
斜めに取り付けるとネジ山を破損する場合があります。

③

③上下の隙間が均等になるように注意して締め付けてください。

④ 正面から見た図

④ハンドルバーを固定する際はワイヤー類（ブレーキワイヤー・変速ワイヤー）に絡まりが無いことを確認してください。

⑤

⑤両手で下向きに強い力を加えてもハンドルバーが回転しないことを確認してください。

⑥

⑥縦に２本並んでいるクランプボルトを交互に締め付け、ハンドルステムを固定します。

⑦ 背面から見た図

⑦ハンドル固定と同様に、隙間が均等になるように注意して締め付けてください。

⑧

⑧ハンドルがしっかりと固定されているか、ハンドル取り付けにガタがないかを確認してください。ハンドルにガタがある場合は、クランプボルトをゆるめた状態にしてから、上部アンカーボルトを締め込んで調整してください。

自転車の組立

ハンドルの固定方法（アヘッドステム）-つづき

<table>
<tr>
<td>⚠注意</td>
<td>上下のクランプボルトは均一に力をかけるように注意してください。締め付け加減にバラツキがあると、ねじ穴の損傷や不完全な固定の原因となり、大変危険です。（⑥参照）

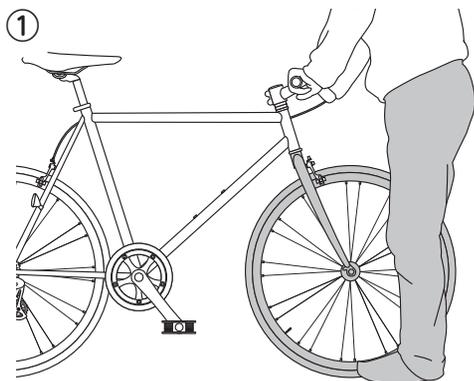
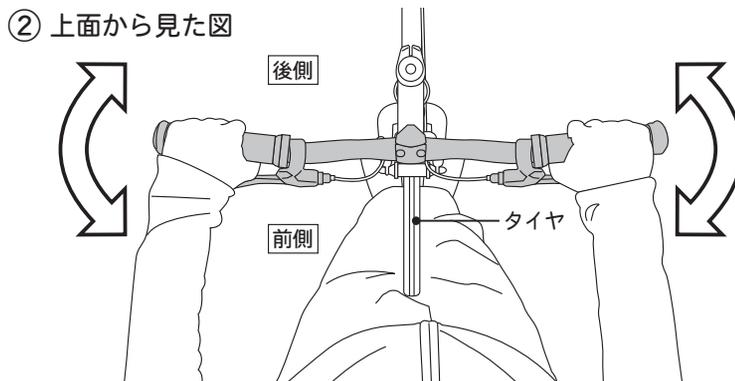
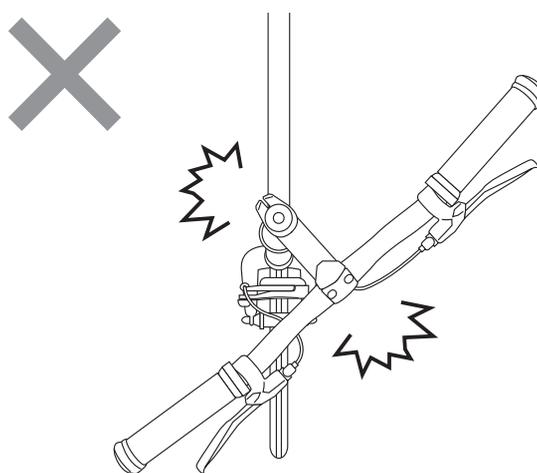
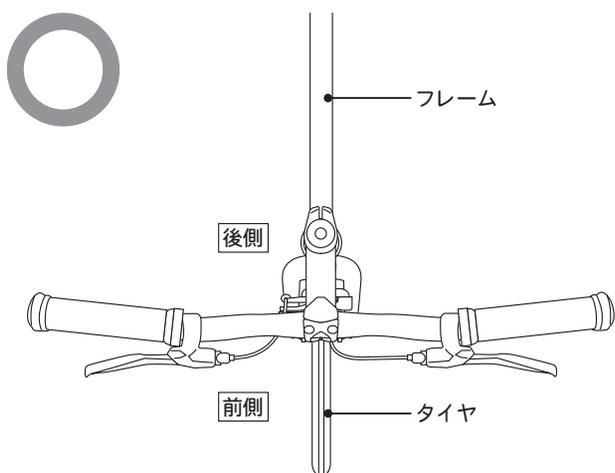
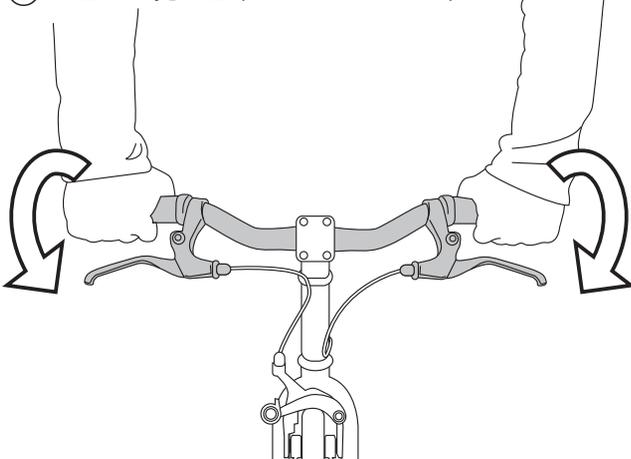
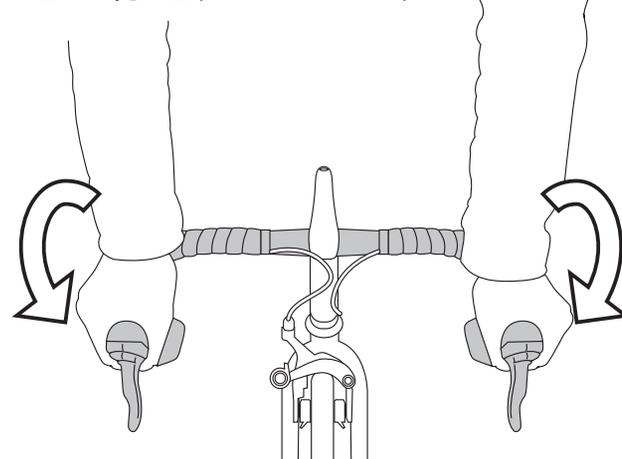
ハンドルを固定するためのネジはクランプボルトとなります。上部にあるアンカーボルトは、商品にガタがあったときのみ使用する調整用のネジとなります。アンカーボルトは締め付け過ぎると破損してしまう恐れがありますので、絶対に締め過ぎないよう注意してください。（⑥⑦⑧参照）

アンカーボルト調整をする時は、必ずクランプボルトをゆるめてから作業してください。（⑧参照）

アンカーボルトは締め付け過ぎると破損してしまうおそれがありますので、絶対に締め過ぎないよう注意してください。
　締め付けトルク目安：2.5（N・m）[25Kgf・cm]

締め過ぎにより、アンカーボルトが破損した際は保証対象外となります。[保証規定B-2]
部品代金、修理代金が有償となりますので、ご注意ください。</td>
</tr>
</table>

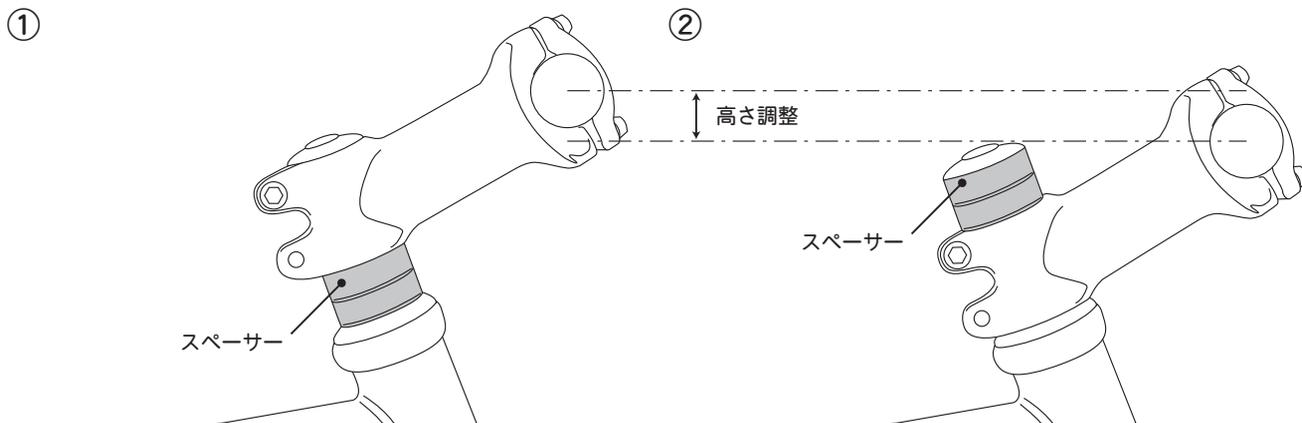
自転車の組立

ハンドルポストの固定確認

①車輪を両足でしっかりと挟んでください。

②車輪を両足で挟んだまま、前輪が動かないか矢印のようにハンドルを切ってください。

ハンドルバーが横を向いてしまったり、上下にガタつきがある場合は、しっかり固定がされていない**非常に危険な状態**です。動かないよう確実に固定し直してください。

③ハンドルバーを取り付けたタイプは、ワイヤー類(ブレーキワイヤー・変速ワイヤー)に絡まりがないことを確認し、ハンドルバーを中心にボルトをしっかり固定したあと、図のように両手で下向きに力を加えてもハンドルバーが回転しないことを確認してください。

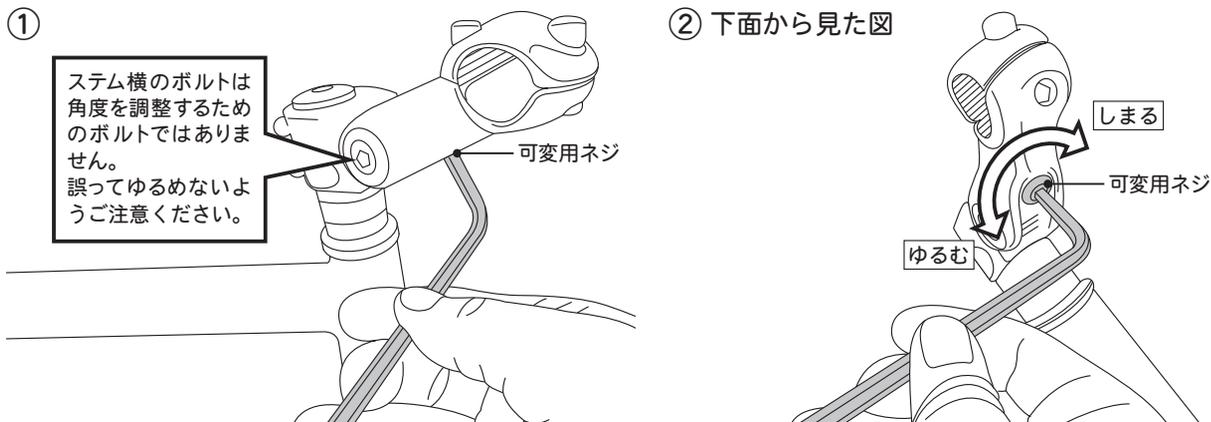
⚠注意	乗車する際には毎回、ハンドルの固定確認を行い、各部のガタ・ゆるみがないか、確実に固定されているか確認してください。 ガタ・ゆるみのある場合や、固定されていない場合は、再度締め付けを行ってください。

自転車の組立

ハンドルの高さ・角度調整(アヘッドステム)

ハンドルポストの高さ調整(車種により設定が無い場合があります。)

一般自転車のように容易に調整はできませんが、スペーサーの位置を入れ替えることで高さの調整が可能です。アヘッドステムの高さ調整については自転車安全整備士、自転車組立整備士、自転車技士もしくはそれと同等の技能を有する方が行ってください。

ハンドルステムの角度調整(車種により設定が無い場合があります。)

①

ステム横のボルトは角度を調整するためのボルトではありません。
誤ってゆるめないようご注意ください。

可変用ネジ

② 下面から見た図

しまる

可変用ネジ

ゆるむ

ステムの下面にある可変用ネジを左回し(反時計回り)でゆるめ、角度を調整したあとに再度、右回し(時計回り)で固定します。
※ハンドルの重みを支える重要なネジになりますので、角度調整後は必ずしっかりと締め付けてください。

サドルの高さ調整

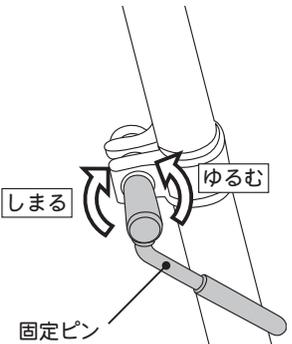
サドル下のシートピンの形状によって締め付け方法・使用工具が異なります。お客様の自転車が下図といずれかと同じ構造であることを確認してから作業を始めてください。

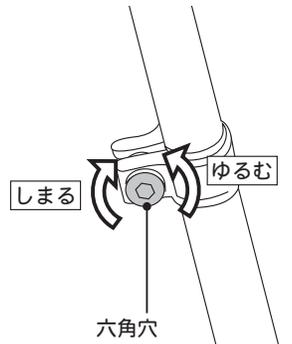
自転車の組立

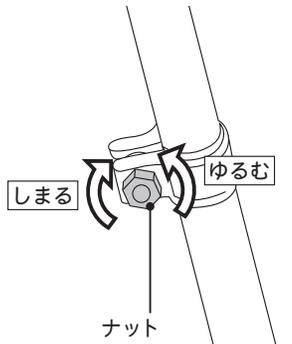
サドルの高さ調整-つづき

クイックレバータイプ

クイックレバーを「ゆるむ」の位置にしてください。サドルの高さを調整し、「しまる」の位置へ戻して固定してください。
クイックレバーが固すぎるもしくはゆるすぎる場合はレバー反対側の調整ネジを回して調整してください。

固定ピンタイプ

シート固定ピンを左回し(反時計回り)に回してゆるめてください。
サドルの高さを調整し、シート固定ピンを右回し(時計回り)に回して固定してください。

六角穴タイプ

六角穴を六角レンチで左回し(反時計回り)に回してゆるめてください。
サドルの高さを調整し、六角レンチで右回し(時計回り)に回して固定してください。

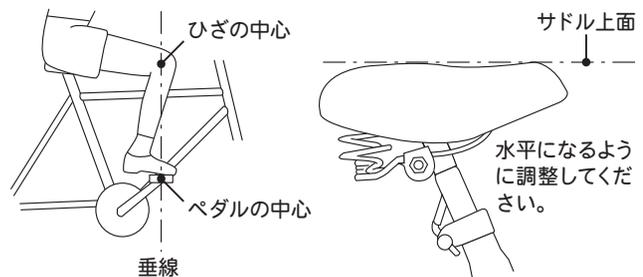
ナットタイプ

ナットをスパナで左回し(反時計回り)に回してゆるめてください。
サドルの高さを調整し、ナットをスパナで右回し(時計回り)に回して固定してください。

⚠注意

サドルを最も上げた状態でも限界標識線が隠れるようにしてください。限界標識線以上にシートポストを上げて乗車すると破損の恐れがあり、大変危険です。(限界標識線が見える状態で固定すると、破損の原因に繋がる可能性があります。限界標識線が見える位置で固定していて破損した場合は組立方法に起因する不具合となり保証対象外となります。)[保証規定B-2]
乗車する際には毎回、各部のガタ・ゆるみがないか、確実に固定されているか確認してください。
ガタ・ゆるみのある場合や、固定されていない場合は、再度締め付けてください。

サドルの前後位置の調整

サドルの適正な前後位置

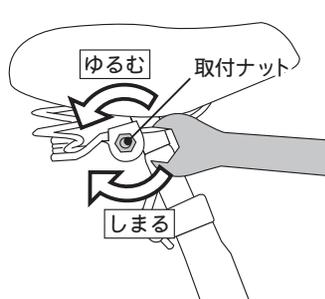
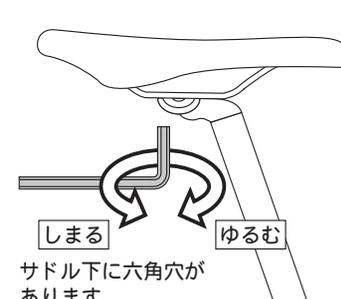
サドルの前後位置は、ペダルを斜め前の一番力のかかる位置にして足を乗せたとき、ひざの中心からの垂線がペダルの中心を通るようにするのが標準です。
また、角度はサドル上面がほぼ水平になるように調整してください。

前後位置の調整

サドルの前後位置は、サドル取付ナット(ボルト)をゆるめて調整します。調整後はサドル前先端をフレームの中心に合わせて、取付ナット(ボルト)をしっかり締め付けてください。

ナットタイプではスパナ、六角穴タイプでは六角レンチが必要となります。

ナットタイプ

ゆるむ
取付ナット
しまる

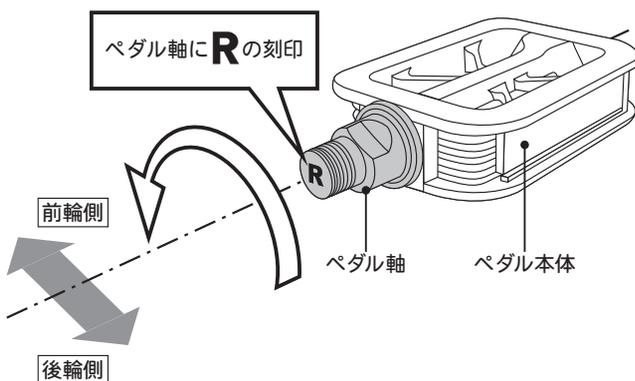
六角穴タイプ

しまる
ゆるむ
サドル下に六角穴があります。

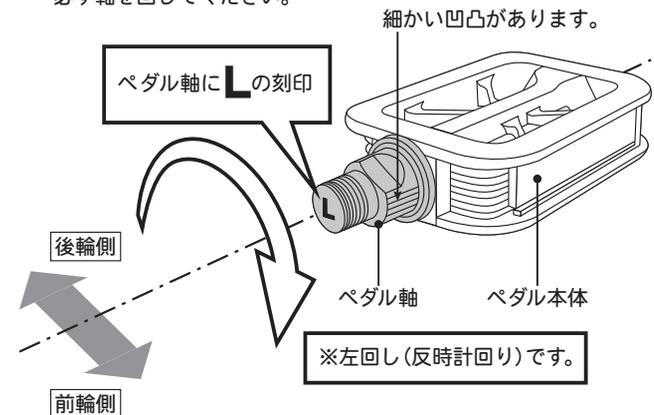
自転車の組立

ペダルの取付方法

ペダルには右用（Ｒと刻印）と左用（Ｌと刻印）があります。
右側のペダルは右回し（通常のネジと同じく時計回り）になりますが、左側のペダルは走行中に脱落しないよう左回し（反時計回りにペダル軸を回転させて取り付ける構造）になっており、それぞれ取り付けの回転方向が異なります、ご注意ください。

① 右側用ペダル（クランクに対して時計回りで取付）

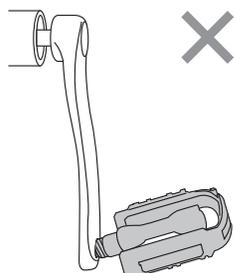
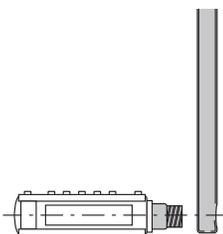
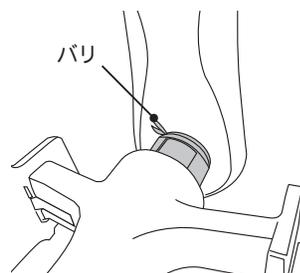
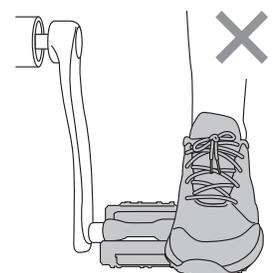
右回し（時計回り）にペダルの軸のみを回してください。
ペダル本体（足を乗せる部分）を回しても取り付けはできません。
必ず軸を回してください。

② 左側用ペダル（クランクに対して反時計回しで取付）

左回し（反時計回り）にペダルの軸のみを回してください。
ペダル本体（足を乗せる部分）を回しても取り付けはできません。
必ず軸を回してください。

最初は手でペダルの軸をクランクのネジ穴にねじ込み、軽く２～３回転以上回してください。
この際、グリス、オイル等（商品には付属しておりません）をお持ちであれば、先にネジ山に被せていただくと作業がしやすくなります。ペダルがクランクに対してまっすぐ（直角）に入っていることを確認し、付属のレンチを使用して、確実にペダルをクランクに固定してください。

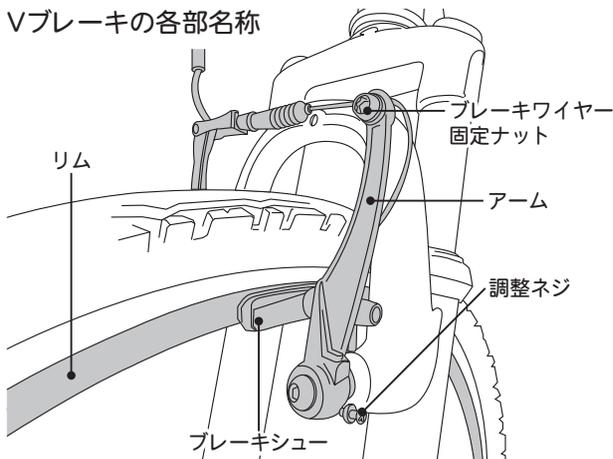
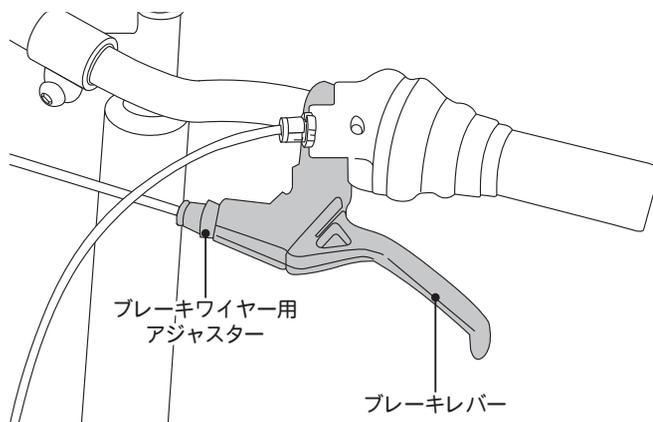
⚠注意

ペダルを無理矢理クランクにねじ込まないでください。
無理矢理ペダルをねじ込んで自転車を走行させると大変不安定になるほか、クランクのネジ山が削れてペダルが脱落してしまう可能性があります。
ねじ込みの最後は付属工具にてしっかり締めてください。締め付けがゆるいと走行時にネジがゆるみ、ペダルが脱落する可能性があります。走行時にペダルが脱落すると大変危険なうえ、クランクの修理も不可能となってしまいます、ご注意ください。
※誤った組立方法に起因する破損は、保証対象外となりますのでご注意ください。[保証規定B-13]

締めこんだ際にバリが発生したときは速やかにバリを取り除いてください。
※「バリ」を取り除く際は、鋭利になっている場合もあるので怪我をしないようにお気をつけください。

ペダルの端に荷重をかけて走行しないでください。
ペダルの端に過度な荷重をかけると破損に繋がる可能性があります。ご使用の際は、ペダル面へ均等に且つ取り付け軸付近に荷重をかけるようにして走行してください。

斜めに取り付けたり無理矢理ねじ込まないでください。

クランクに対してまっすぐにペダルを取り付けてください。

ペダル取り付け時に発生する「バリ」は速やかに取り除いてください。

図のようにペダルの端に荷重をかけて走行しないでください。なるべく取り付け軸付近に足を乗せてください。

Vブレーキの調整方法

Vブレーキの各部名称

Vブレーキの調整ネジを右回り（時計回り）で締めこむと、締めこんだ側のブレーキのバネの反発力が強くなりリム（車輪）からブレーキシューが離れるようになります。

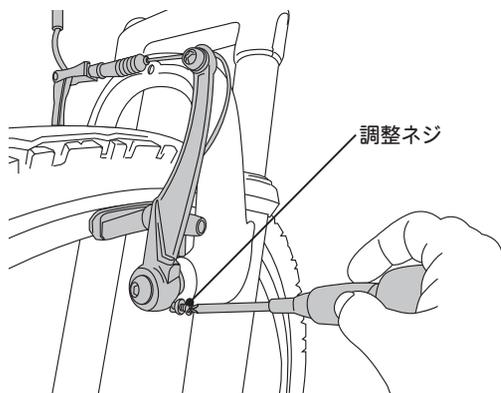
ブレーキレバーの遊びについて

ブレーキワイヤー用
アジャスター
ブレーキレバー

①ブレーキレバーを力一杯握り、ワイヤーの初期伸ばしを行います。
②初期伸ばし終了後、ブレーキレバーの遊びを確認します。目安はブレーキレバーの幅が握った状態で1/3程度がベストです。

① ブレーキシューが片当たりしているとき（調整ネジを使用します。）

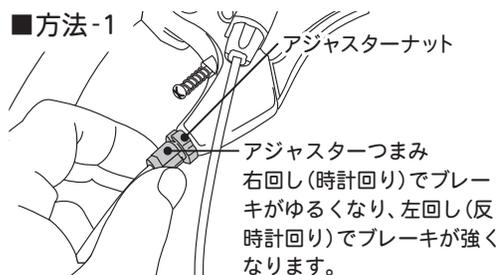
①当たっている側のブレーキの調整ネジをプラスドライバーで右回し（時計回り）に締めます。
②バネの反発力の確認と動きを安定させるため、調整後ブレーキレバーを数回握りブレーキを稼動させてください。
③それでも動きが鈍いときは、当たっていない側（反対側）のブレーキの調整ネジを左回し（反時計回り）にゆるめます。

※動きが鈍い方（リムに当たっている側）のブレーキは右回し（時計回り）に締めます。動きが良い方（リムに当たっていない側）のブレーキは左回し（反時計回り）にゆるめます。左右のバランスをとることによって調整します。

② ブレーキシューが両方ともリムに当たっているとき、もしくはブレーキレバー自体が固いとき（ブレーキワイヤーアジャスターまたはブレーキワイヤー固定ナットを使用します。）

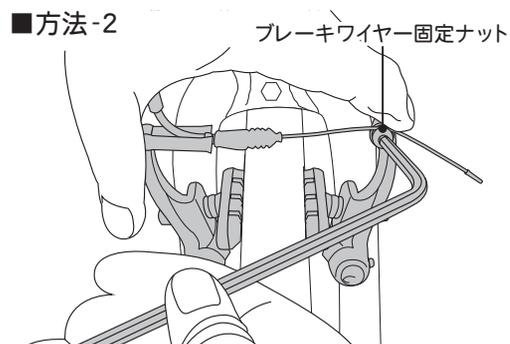
●ブレーキがかかっている状態の可能性があります。
●ハンドルの取り付けや組み立て時（折りたたみ自転車等）に、ブレーキワイヤーに負担がかかっている可能性があります。
●ハンドルから繋がっているブレーキワイヤーに不自然なゆがみや絡まっている箇所が無いかをご確認ください。

■方法-1

①ブレーキワイヤー用アジャスターナットを左回し（反時計回り）でゆるめます。（アジャスターナットをゆるめることにより、つまみをまわすことができるようになります。）
②ブレーキワイヤー用アジャスターつまみを右回し（時計回り）に締めます。
※新車の時点では既に締め込まれていることがあります。

■方法-1

■方法-2

①ブレーキ本体の両アームを左手人差し指と親指で軽く挟み込み、この状態でブレーキワイヤー固定ナットを左回し（反時計回り）で少しゆるめます。
②六角レンチ（5mm）でブレーキワイヤー固定ナットをゆるめると、ブレーキ本体が両側ともリムから離れるようになります。適度な位置にブレーキシューとリムの位置を調整し（シューとリムの間を広げます。）、位置を合わせた状態のままで、右回し（時計回り）で、ブレーキワイヤー固定ナットを締め付けてください。

■方法-2

自転車の組立

Vブレーキの調整方法-つづき

③ レバーがやわらかすぎる場合や、ブレーキの効きが悪いとき(ブレーキワイヤーアジャスターまたはブレーキワイヤー固定ナットを使用します。)

■方法-1

①ブレーキワイヤー用アジャスターナットを左回し(反時計回り)でゆるめます。(アジャスターナットをゆるめることにより、つまみをまわすことができるようになります。)

②ブレーキワイヤー用アジャスターつまみを左回し(反時計回り)にゆるめます。
ゆるめればゆるめるほど、ワイヤーの張りが強くなりブレーキが強くなります。

■方法-2

①ブレーキワイヤー固定ナットをゆるめると、ブレーキ本体が両側ともリムから離れるようになります。

②適度な位置にブレーキシューとリムの位置を調整し(シューとリムの間を近づけます)、位置を合わせた状態のままで、右回し(時計回り)で、ブレーキワイヤー固定ナットを締め付けてください。

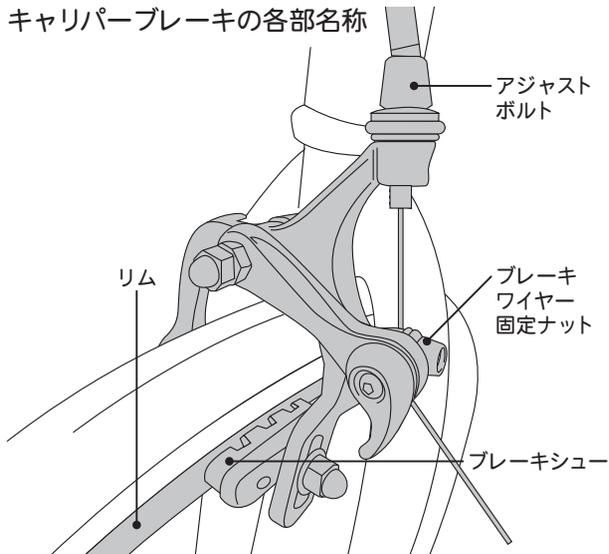
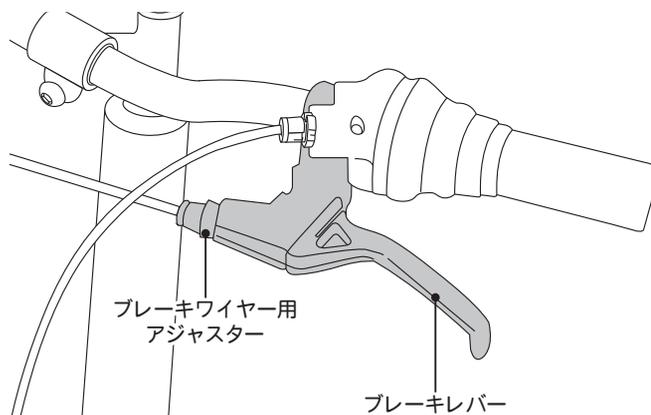
■方法-1

■方法-2

⚠警告	ブレーキの調整作業は、ある程度の経験と知識が必要となります。 作業に自信のない方は弊社、または自転車販売店(有料)へご相談ください。

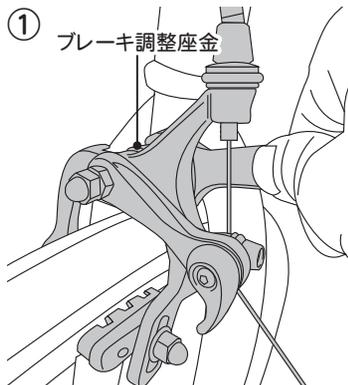
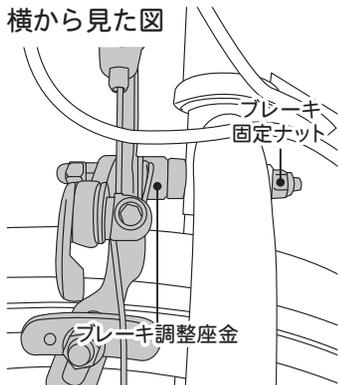
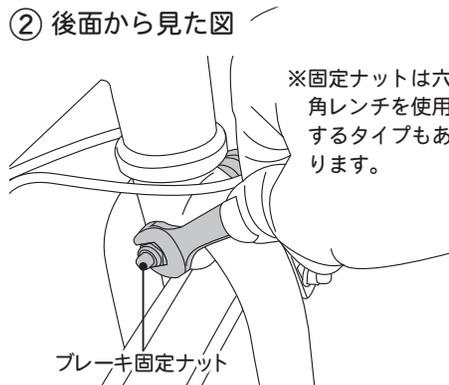
⚠注意	ブレーキワイヤー固定ナットは、ゆるめるとブレーキが効かなくなります。 また調整後、締め付けがあまいと、ブレーキ作動時にワイヤーがゆるみ正常な作動をしなくなる恐れがあります。

キャリパーブレーキの調整方法

キャリパーブレーキの各部名称

ブレーキレバーの遊びについて

①ブレーキレバーを力一杯握り、ワイヤーの初期伸ばしを行います。
②初期伸ばし終了後、ブレーキレバーの遊びを確認します。目安はブレーキレバーの幅が握った状態で1/3程度がベストです。

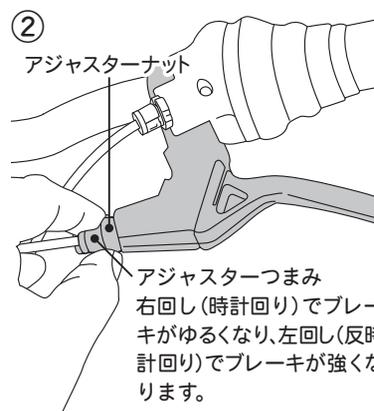
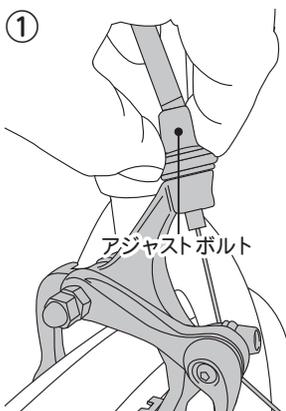
① ブレーキシューが片当たりしているとき

●ブレーキ本体を固定している支点がずれている可能性があります。

①ブレーキ調整座金にレンチをはめ、左右に動かしてブレーキシューとリムの隙間が左右均等になるように調整してください。
②ブレーキ調整座金がカゴ等により遮られるため、調整が不可能な場合は、ブレーキ本体固定ナットを左回し(反時計回り)にして、ブレーキ本体の固定を一旦ゆるめブレーキシューがリムに当たらない位置に調整してから、ナットを右回し(時計回り)に回してブレーキ本体を固定してください。
※ブレーキ調整座金が無い車種もございます。

② ブレーキシューが両方ともリムに当たっているとき、もしくはブレーキレバー自体が固いとき

●ブレーキがかかっている状態の可能性があります。
●ハンドルの取り付けや組み立て時(折りたたみ自転車等)に、ブレーキワイヤーに負担がかかっている可能性があります。
●ハンドルから繋がっているブレーキワイヤーに不自然なゆがみや絡まっている箇所が無いかをご確認ください。

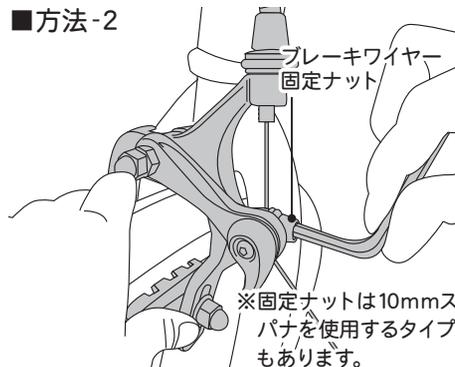
■方法-1

①アジャストボルトを右回し(時計回り)に締めます。
②ブレーキワイヤー用アジャスターナットを左回し(反時計回り)でゆるめます。(アジャスターナットをゆるめることにより、つまみをまわすことができるようになります。)ブレーキワイヤー用アジャスターつまみを右回し(時計回り)に締めます。
※新車の時点では既に締め込まれていることがあります。
※①または②の片方しか付いていない車種もあります。

自転車の組立

キャリパーブレーキの調整方法-つづき

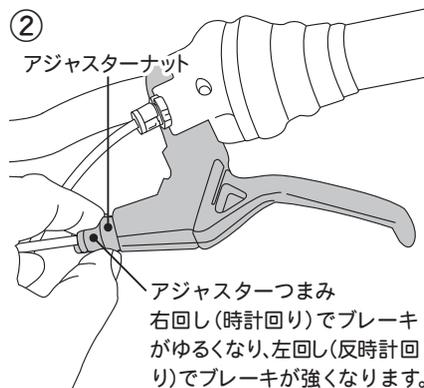
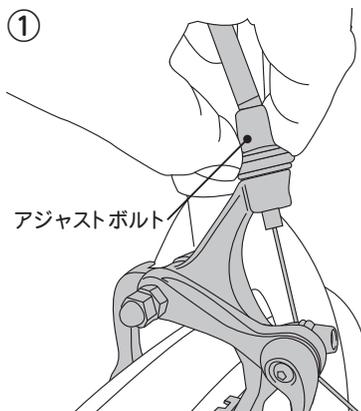
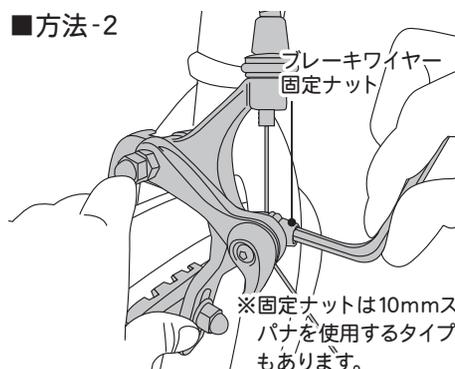
② ブレーキシューが両方ともリムに当たっているとき、もしくはブレーキレバー自体が固いとき

■方法-2
ブレーキ本体の両アームを左手人差し指と親指で軽く挟み込みこの状態でブレーキワイヤー固定ナットを左回し（反時計回り）で少しゆるめます。
ブレーキワイヤー固定ナットをゆるめると、ブレーキ本体が両側ともリムから離れるようになります。
適度な位置にブレーキシューとリムの位置を調整し（シューとリムの間を広げます）、位置を合わせた状態のままで、右回し（時計回り）で、ブレーキワイヤー固定ナットを締め付けてください。

■方法-2

③ レバーがやわらかすぎる場合や、ブレーキの効きが悪いとき

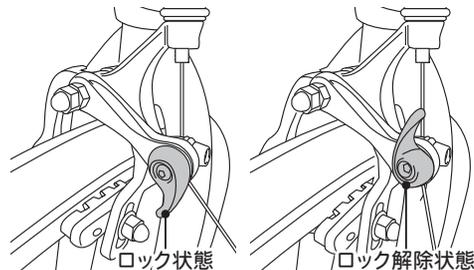
■方法-1
①アジャストボルトを左回し（反時計回り）にゆるめます。
②ブレーキワイヤー用アジャスターナットを左回し（反時計回り）でゆるめます。（アジャスターナットをゆるめることによりつまみをまわすことができるようになります。）ブレーキワイヤー用アジャスターつまみを左回し（反時計回り）にゆるめます。
※①または②の片方しか付いていない車種もあります。

①

②

■方法-2
ブレーキワイヤー固定ナットをゆるめると、ブレーキ本体が両側ともリムから離れるようになります。
適度な位置にブレーキシューとリムの位置を調整（シューとリムの間を狭みます。）し、位置を合わせた状態のままで、右回し（時計回り）で、ブレーキワイヤー固定ナットを締め付けてください。

キャリパーブレーキが使用されている車種は、Vブレーキ、ディスクブレーキを使用している車種と比べると構造上効きが滑らかでロックしにくいという特性を持っていますので制動距離は長くなります。勾配の大きな下り坂など、スピードが出やすい道の走行時にはご注意ください。

■方法-2

⚠警告	ブレーキの調整作業は、ある程度の経験と知識が必要となります。 作業に自信のない方は弊社、または自転車販売店（有料）へご相談ください。

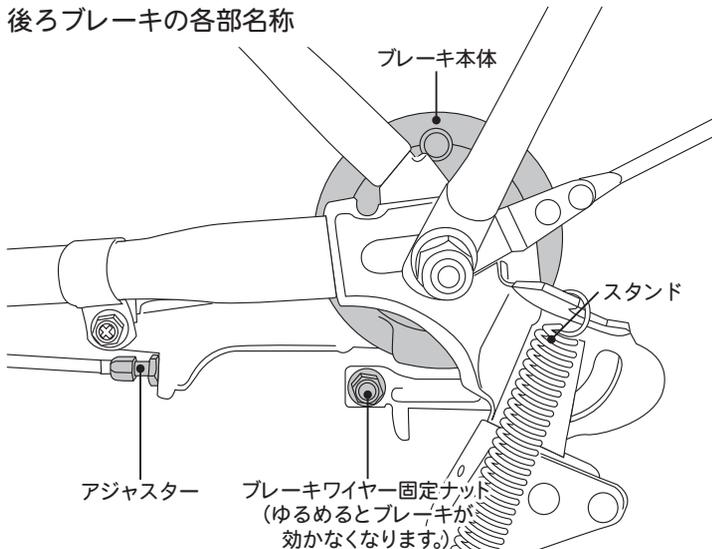
⚠注意	ブレーキワイヤー固定ナットは、ゆるめるとブレーキが効かなくなります。また調整後、締め付けがあまいと、ブレーキ作動時にワイヤーがゆるみ正常な作動をしなくなる恐れがあります。 車種によっては、ブレーキロックがついているものがございます（右図）。乗車時にはレバーが解除状態になっていないことを確認してください。

バンドブレーキ(ドラムブレーキ)・ローラーブレーキの調整方法

後ろブレーキの各部名称

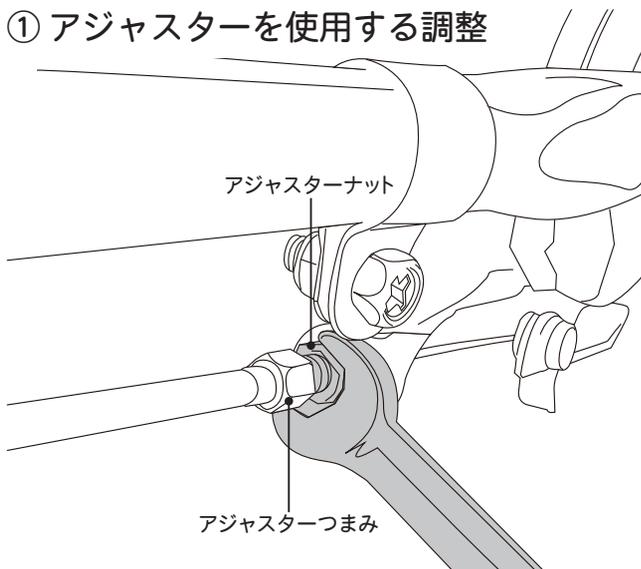
ブレーキ本体

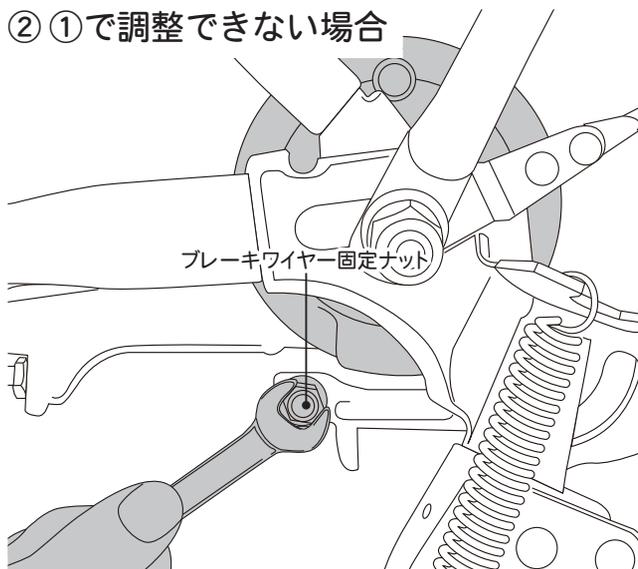
スタンド

アジャスター

ブレーキワイヤー固定ナット
(ゆるめるとブレーキが
効かなくなります。)

後ろブレーキの調整について

後ろブレーキであるバンドブレーキ(ドラムブレーキ)、ローラーブレーキはそれぞれ構造が似ているため、同様の調整方法でブレーキの調整が可能です。
下記の説明をよくお読みのうえ、正しい方法で調整を行ってください。

① アジャスターを使用する調整

①アジャスターナットを左回し(反時計回り)でゆるめるとつまみを手で回すことが可能になります。
②アジャスターつまみを右回し(時計回り)に回すと、ブレーキがゆるみ、左回し(反時計回り)に回すとブレーキが締まります。
③調整後はアジャスターナットを右回し(時計回り)に回して締めてください。

② ①で調整できない場合

①ブレーキワイヤー固定ナットを左回し(反時計回り)でゆるめるとワイヤーの張りを調整できます。
②ワイヤーを引っ張るとブレーキが固くなり、ゆるめるとブレーキがやわらかくなります。
③調整後はブレーキワイヤー固定ナットを右回し(時計回り)に回して締めてください。

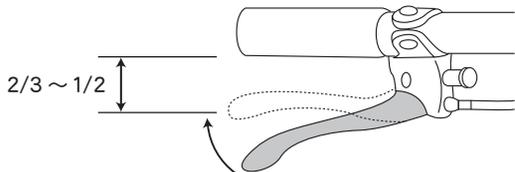
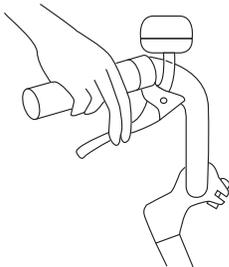
⚠警告	ブレーキの調整作業は、ある程度の経験と知識が必要となります。 作業に自信のない方は弊社、または自転車販売店(有料)へご相談ください。

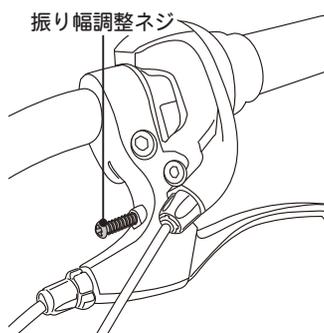
⚠注意	ブレーキワイヤー固定ナットは、ゆるめるとブレーキが効かなくなります。 また調整後、締め付けがあまいと、ブレーキ作動時にワイヤーがゆるみ正常な作動をしなくなる恐れがあります。

自転車の組立

ブレーキ・ブレーキレバーの調整について

■ブレーキの開き

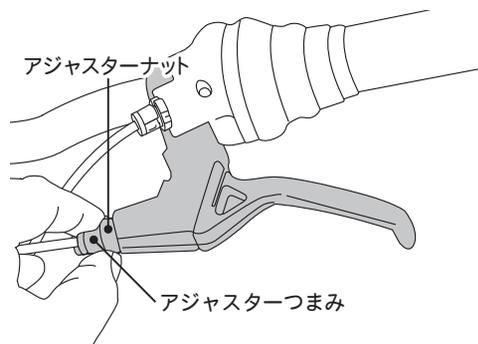
ブレーキは自転車を安全に乗るために一番大切な装備です。いつも最高の性能が発揮できるように乗車の前には必ず点検してください。ブレーキレバーを操作し、レバーの開きが2/3～1/2くらいでブレーキが効くように調整してください、

ブレーキレバーとグリップの間隔は、ブレーキをかけていない状態で、グリップを握ったまま2本または3本の指の第一関節でブレーキレバーを巻き込むことのできる幅に調整します。

■ブレーキレバーの振り幅調整

振り幅調整ネジは、レバーの握り幅を調整するためのネジとなります。ネジを締めることによって、握り幅(グリップとレバーの距離)を狭くすることが可能です。
ネジを締めた際は、ワイヤーの調整が必要となります。(ネジを締めた分だけ、ワイヤーをゆるめる必要があります。)

※ネジが付いていない車種もあります。

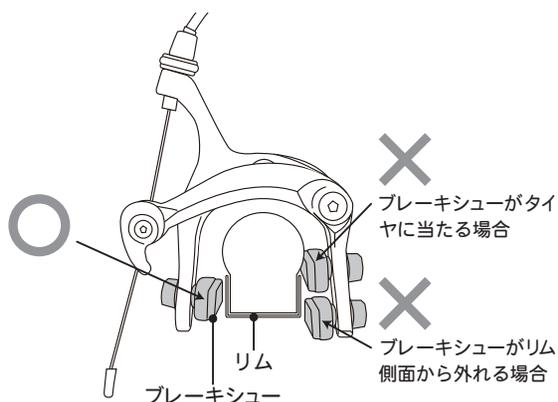
■ブレーキワイヤーの交換時期

ブレーキワイヤーは1年ごとに交換してください。
また、1年以内であってもサビやほつれなど異常を確認したときはすみやかに交換してください。

■ブレーキレバーの遊びと調整

長時間使用しますと、ブレーキワイヤーの伸びなどによりブレーキの効きが悪くなります。その場合、下図のアジャスターつまみを一時的にゆるめ、ブレーキレバーの遊びを調整したあとアジャスターナットを締めます。このとき、ブレーキシューとリムの隙間は左右2mm程度が適切です。

■ブレーキシューについて

乗車前に必ず前ブレーキシューがリム面に合っているか確認してください。ブレーキシューがリム面に合っていないと、ブレーキが効かないだけでなく、ブレーキシューの片減りを起こしたり、タイヤに接触している場合は急制動がかかり大変危険です。
※ブレーキシューとリムの隙間は左右2mm程度が適切です。

また、ブレーキシューが磨耗して溝の残りが1mmになったときはブレーキシューを交換してください。

⚠警告	ブレーキやブレーキワイヤーの調整作業は、ある程度の経験と知識が必要となります。 作業に自信のない方は弊社、または自転車販売店(有料)へご相談ください。 キャリパーブレーキが使用されている車種は、Vブレーキ、ディスクブレーキを使用している車種と比べると構造上効きが滑らかでロックしにくいという特性を持っていますが制動距離は長くなります。勾配の大きな下り坂など、スピードが出やすい道の走行時にはご注意ください。

⚠注意	お子様がご乗車される際は、お子様が十分にブレーキングできることを確認されたうえでご使用ください。ブレーキレバーの開きが広すぎてブレーキングが十分に行えない場合は絶対に乗車しないでください。 弊社取り扱いの自転車は16インチ以下の小径車においても大人の方が乗車できるよう企画・設計されています。そのためブレーキレバーの開きも大人用に設定されています。(子供車・幼児車を除く)

自転車の組立

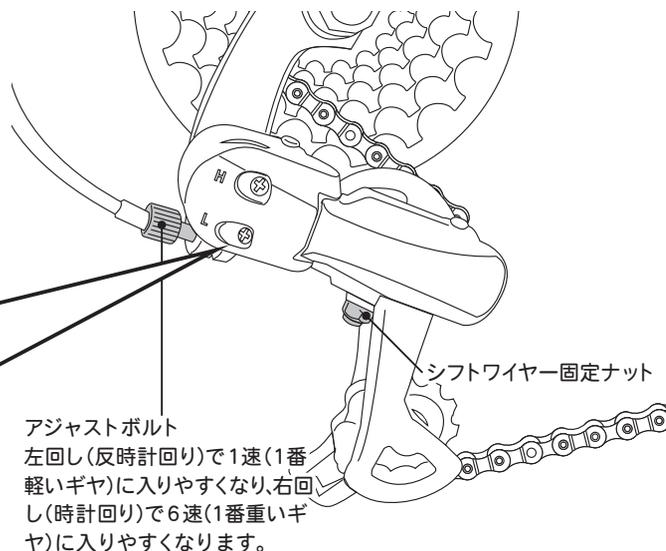
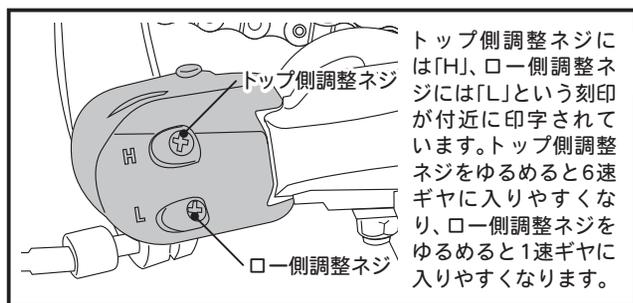
後変速機（リアディレイラー）について

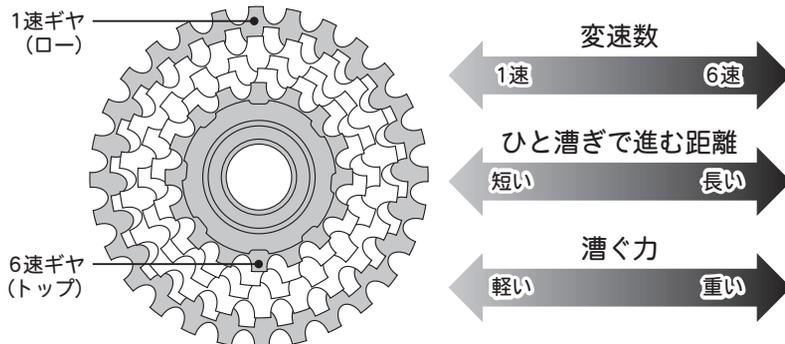
変速がうまく切り替わらない。乗車時にガラガラと異音がする、入らないギヤがある等の現象がみられる時は変速機（ディレイラー）の調整をしてください。
※変速が使用されていない車種もございます。
※変速機の型式によって、調整方法が異なる場合があります。また、この項目では後変速が6段の場合の説明を記載しています。

後変速機の構造について

後変速機（リアディレーラー）は、ハンドル側にある後用シフターとワイヤーで繋がっています。ワイヤーを引っ張るほど、1速（1番軽いギヤ）に動く仕組みとなっており、ワイヤーに負担が無い状態のときは、6速（1番重いギヤ）に入っているようになっています。
※後変速が6段の場合
※トップノーマルタイプの場合（1番小さいギヤがトップになるタイプ。弊社製品は全てトップノーマルタイプです。）

トップ側調整ネジには「H」、ロー側調整ネジには「L」という刻印が付近に印字されています。トップ側調整ネジをゆるめると6速ギヤに入りやすくなり、ロー側調整ネジをゆるめると1速ギヤに入りやすくなります。

アジャストボルト
左回し（反時計回り）で1速（1番軽いギヤ）に入りやすくなり、右回し（時計回り）で6速（1番重いギヤ）に入りやすくなります。

スプロケットの構造について

スプロケット（変速ギヤ）の構成は、内側（歯数の多いギヤ）が1速（1番軽いギヤ）となり、外側（歯数の少ないギヤ）が6速（1番重いギヤ）となります。
1速の場合ひと漕ぎで進む距離が1番「短い」ですが、漕ぐ力が1番「軽い」ものとなります。
6速の場合ひと漕ぎで進む距離が1番「長い」ですが、漕ぐ力が1番「重い」ものとなります。
※後変速が6段の場合

① ワイヤーの初期伸びについて

新品のワイヤーが自転車に組み付けられ、テンションをかけられることによりワイヤーに「伸び」が生じ、変速の入りが悪くなる症状を「初期伸び」といいます。（新品商品でもっとも可能性の高い現象となります。）ワイヤーが伸びているために、正しい力がディレーラーに伝わらず、変速が正常に作動しないという現象です。ワイヤーの張りを整えることで正常に作動するようになります。

スタンド方向に自転車を傾け後輪を浮かせた状態にし、片手でクランクを回し、もう一方の手でシフター（ハンドル側）を操作するようにして作業します。
変速をするときは、必ずクランクを回転させながら行ってください。

■方法-1

①チェーンを「6速」に入れます。（ワイヤーへの負担が1番少ない状態となります。）前側にも変速がある車種は、前側のチェーンを一番よく使うギヤに入れてください。
②実際の動きを確認しながら、変速を「6速→5速」に入れます。この際にチェーンがスムーズに「5速」に変わらない、変わりにくいようであれば、「初期伸び」の可能性があります。
③変速を「6速」に戻します。
④アジャストボルトを左回し（反時計回り）に様子を見ながら半回転ずつ回してください。
⑤「5速」にスムーズに変わるようになれば、今度は「5速→6速」への変速がスムーズに行われるかの確認をしてください。問題がなければ調整は終了です。
⑥「6速」に変わらない、変わりにくいようであればアジャストボルトを回しすぎている可能性があります。その際は、アジャストボルトを右回し（時計回り）に回し調整してください。

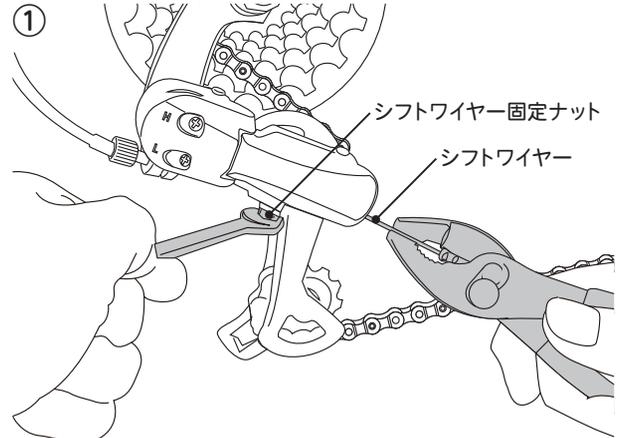
■方法-1

後変速機（リアディレイラー）についてｰつづき

① ワイヤーの初期伸びについて

●方法ｰ1で修正できない場合は、ワイヤーを引っ張って調整します。

■方法ｰ2

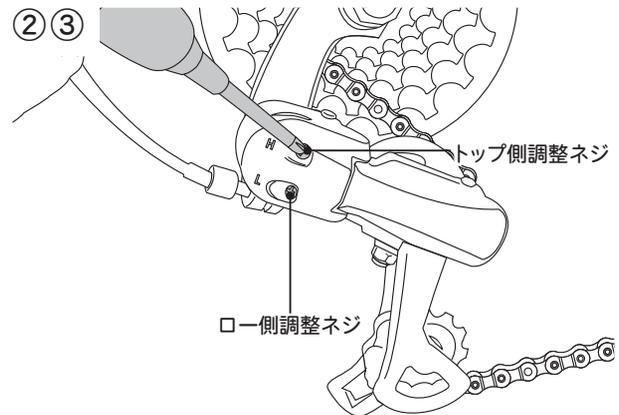
①ナットをゆるめた際に、ワイヤーが外れないようペンチ等で、ワイヤーを押さえた状態にしてシフトワイヤー固定ナットをレンチで左回し（反時計回り）にしてゆるめます。
②ワイヤーを引っ張り、張りを強くした状態にしてから右回し（時計回り）でシフトワイヤー固定ナットを締め付けてください。

② アジャストボルトによる調整を行っても、1速（1番軽いギヤ）または6速（1番重いギヤ）にチェーンが入らないとき

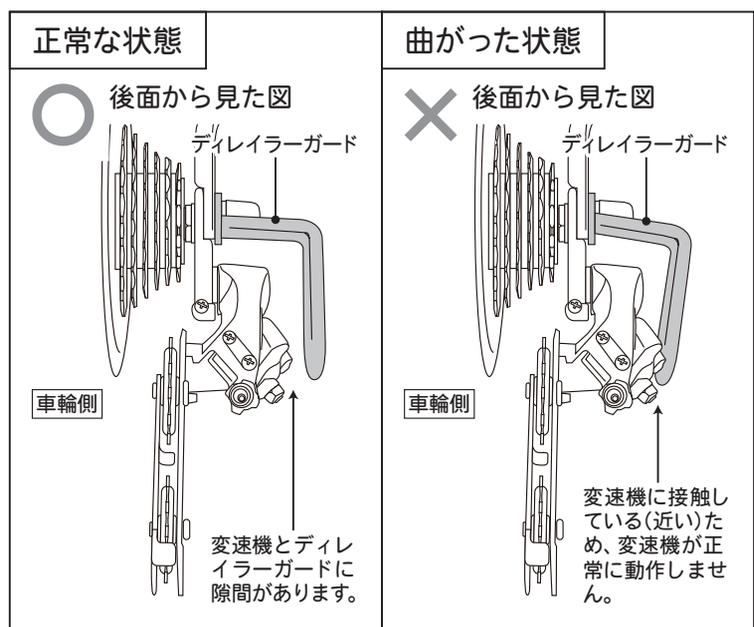
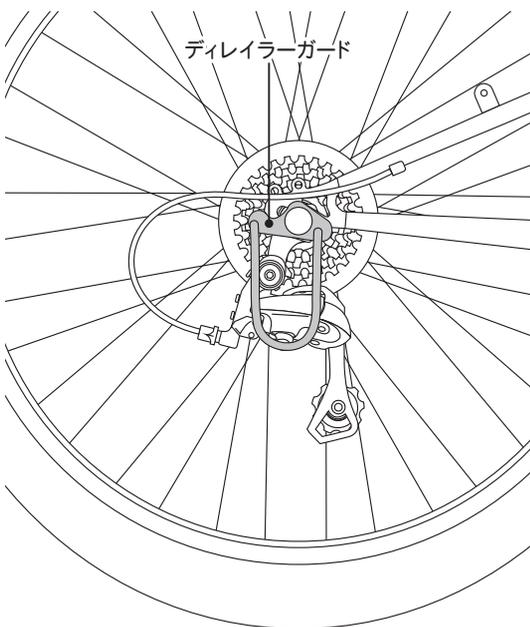
●調整ネジをゆるめることによって稼動範囲を広げます。

■1速（1番軽いギヤ）にチェーンが入らないとき

ロー側調整ネジ（「L」という表示がネジ付近に印字されています）を左回し（反時計回り）でゆるめます。
※1速に入らない症状の5割以上はワイヤーの張りが原因です。
アジャストボルトの調整でも改善されない場合のみ作業を行ってください。

■6速（1番重いギヤ）にチェーンが入らないとき

トップ側調整ネジ（「H」という表示がネジ付近に印字されています）を左回し（反時計回り）でゆるめます。

ディレイラーガードについて

車種によってはディレイラーの曲がり、変形などを防ぐためのディレイラーガードが付いているものがあります。運送中や転倒などによりディレイラーガードが曲がってしまうと、変速機が外側に動かなくなり、変速が正常に動作しなくなる場合があります。
ディレイラーガードが曲がってしまっている場合は、正常な位置に調整してください。

後変速機（リアディレイラー）について-つづき

③ チェーンが外れてしまうとき

●変速時にチェーンがフリースプロケットを飛び越えて、外れてしまうようなときは調整ネジを調整することによって、変速機の稼動範囲を設定できます。調整ネジは、変速機が稼動する範囲を設定するネジで、締めると稼動範囲が狭くなり、ゆるめると稼動範囲が広がります。

■チェーンが内側（車輪側）に外れてしまうとき

ロー側調整ネジ（「L」という表示がネジ付近に印字されています）を右回し（時計回り）で締めます。

■チェーンが外側に外れてしまうとき

トップ側調整ネジ（「H」という表示がネジ付近に印字されています）を右回し（時計回り）で締めます。

外装式変速機はワイヤー等がむきだしになっているため、細かな調整が必要なものとなります。
契約製造工場にて最終検査、各部調整後に梱包をしておりますが、「運送時の振動」や「初期伸び」等のためお客様に調整をしていただかなければならない場合があります。
これらは製品特性上発生し得る現象であり、製品不良には該当しないものとなり調整は保証対象外となります。[保証規定B-12]

⚠注意	トップ側調整ネジ、ロー側調整ネジはゆるめすぎるとチェーンが外れる原因となります。作業時は1/8回転ずつ回しながら、常に様子を確認しながら作業を行ってください。

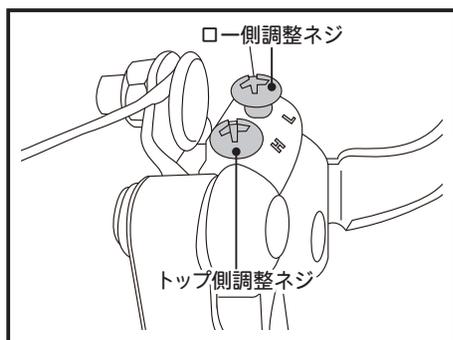
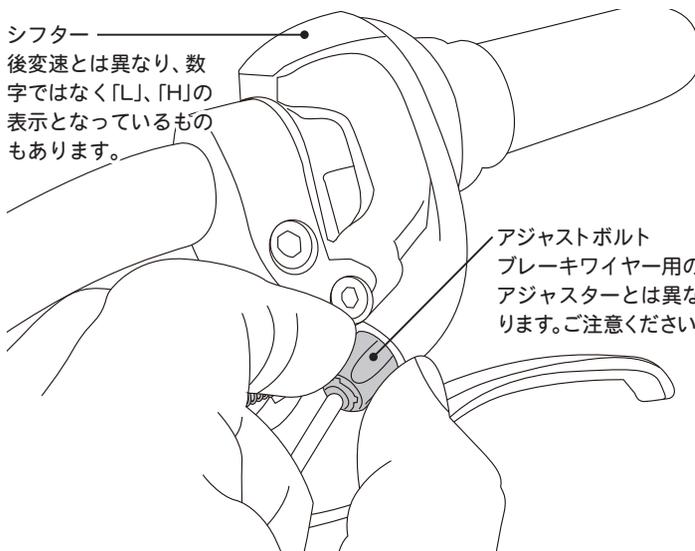
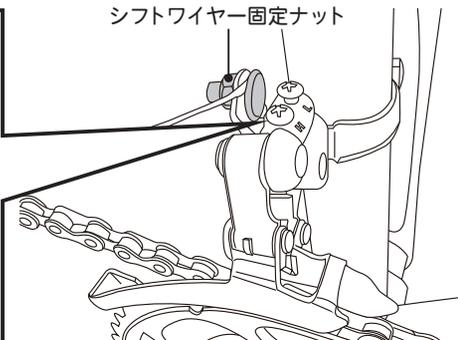
自転車の組立

前変速機（フロントディレイラー）について

変速がうまく切り替わらない。乗車時にガラガラと異音がする、入らないギヤがある等の現象がみられる時は変速機（ディレーラー）の調整をしてください。
※変速が搭載されていない車種もございます。
※変速機の型式によって、調整方法が異なる場合があります。また、この項目では前変速が2段の場合の説明を記載しています。

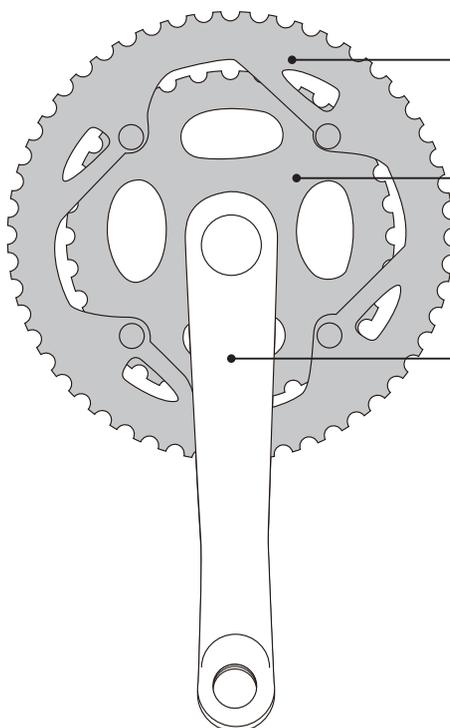
前変速機の構造について

前変速機（フロントディレイラー）は、ハンドル側にある前用シフターとワイヤーで繋がっています。ワイヤーを引っ張るほど、1速（1番重いギヤ）に動く仕組みとなっており、ワイヤーに負担が無い状態のときは、2速（1番軽いギヤ）に入るようになっています。

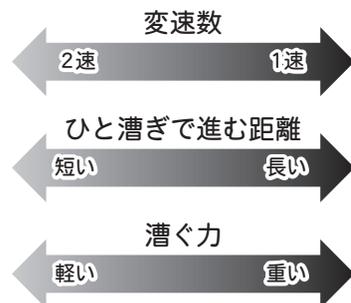
※前変速が2段の場合（前3段の場合は3段目が1番軽いギヤとなります。）
※前トップノーマルタイプの場合（1番大きいギヤがトップになるタイプ。弊社製品は全てトップノーマルタイプです。）
※フロントディレーラーのアジャストボルトはハンドル側に付いているものとそうでないものがあり、車種によって異なります。
※前用シフターは、後用と違いカチカチと細かく動くタイプになっているものがあります。これはフリクションタイプというもので、調整がしやすいようにディレーラーの固定位置が細かく設定できるようになっているものとなります。

トップ側調整ネジには「H」、ロー側調整ネジには「L」という刻印がネジ付近に印字されています。
トップ側調整ネジをゆるめると1速（1番重いギヤ）に入りやすくなり、トップ側調整ネジをゆるめると2速（1番軽いギヤ）に入りやすくなります。
※後側に比べ前側は変速することによって、荷重が大きく変わります。

ギヤクランクの構造について

ギヤクランク（前スプロケット）の構成は、外側（歯数の多いギヤ）が1速（1番重いギヤ）となり内側（歯数の少ないギヤ）が2速（1番軽いギヤ）となります。
1速の場合ひと漕ぎで進む距離が1番「長い」ですが、漕ぐ力が1番「重い」ものとなります。
2速の場合ひと漕ぎで進む距離が1番「短い」ですが、漕ぐ力が1番「軽い」ものとなります。

※前変速が2段の場合（前3段の場合は3段目が1番軽いギヤとなります。）
※フロントのトップ（1番重いギヤ）とロー（1番軽いギヤ）は、リアと反対の構造になります。

変速数
2速 1速

ひと漕ぎで進む距離
短い 長い

漕ぐ力
軽い 重い

自転車の組立

前変速機(フロントディレイラー)について-つづき

① ワイヤーの初期伸びについて

新品のワイヤーが自転車に組み付けられ、テンションをかけられることによりワイヤーに「伸び」が生じ、変速の入りが悪くなる症状を「初期伸び」といいます。(新品商品でもっとも可能性の高い現象となります。)ワイヤーが伸びているために、正しい力がディレーラーに伝わらず、変速が正常に作動しないという現象です。ワイヤーの張りを整えることで正常に調整することができます。

スタンド方向に自転車を傾け後輪を浮かせた状態にし、片手でクランクを回し、もう一方の手でシフター(ハンドル側)を操作するようにして作業します。変速をするときは、必ずクランクを回転させながらで行ってください。

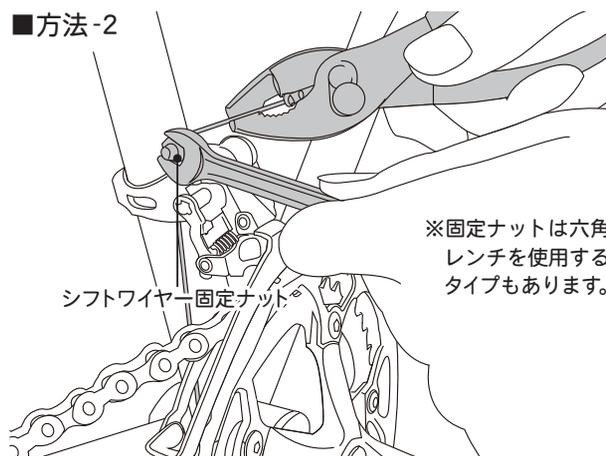
●車種によりアジャストボルトが付いていない車種もあります。
その場合は方法-2の作業を行ってください。

■方法-1

①チェーンを「2速」(1番軽いギヤ)に入れます。(ワイヤーへの負担が1番少ない状態となります。)
②後側のチェーンは中間あたりに入れてください。(6段変速であれば3、4段目あたりとなります。)
③実際の動きを確認しながら、変速を「2速→1速」に入れます。この際にチェーンがスムーズに「1速」に変わらない、変わりにくいようであれば、「初期伸び」の可能性があります。
④チェーンを「2速」に戻します。
⑤アジャストボルトを左回し(反時計回り)に様子を見ながら半回転ずつ回してください。
⑥「1速」にスムーズに変わるようになれば、次に「1速→2速」への変速がスムーズに行われるかの確認をしてください。問題がなければ調整は終了です。
※ギヤクランクが3段の場合上記と同じ要領で「1速」までスムーズに変速が行われることをご確認ください。
⑦「2速」に変わらない、変わりにくいようであればアジャストボルトを回しすぎている可能性があります。その際は、アジャストボルトを右回し(時計回り)に回して調整してください。

●方法-1で修正できない場合は、ワイヤーを引っ張って調整します。

■方法-2

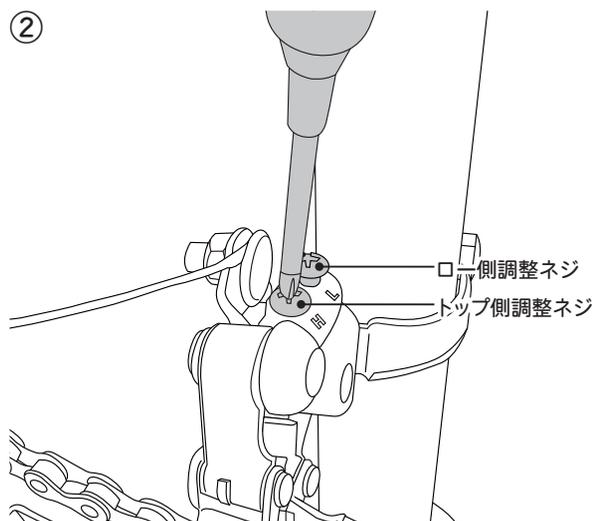
①ナットをゆるめた際に、ワイヤーが外れないようペンチ等で、ワイヤーを押さえた状態にしてシフトワイヤー固定ナットをレンチで左回し(反時計回り)にしてゆるめます。
②ワイヤーを引っ張り、張りを強くした状態にしてから右回し(時計回り)でシフトワイヤー固定ナットを締め付けてください。

② アジャストボルトによる調整を行っても、1速(1番重いギヤ)または2速(1番軽いギヤ)にチェーンが入らないとき

●調整ネジをゆるめることによって稼動範囲を広げます。

■1速(1番重いギヤ)にチェーンが入らないとき

トップ側調整ネジ(「H」という表示がネジ付近に印字されています)を左回し(反時計回り)でゆるめます。
※1速に入らない症状の5割以上はワイヤーの張りが原因です。
アジャストボルトの調整でも改善されない場合のみ作業を行ってください。

■2速(1番軽いギヤ)にチェーンが入らないとき

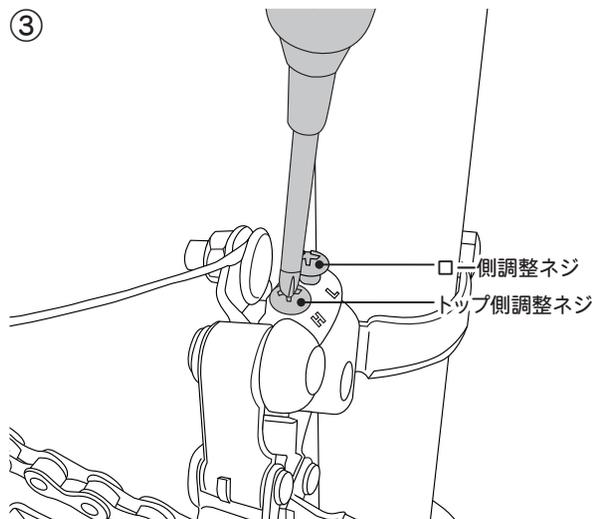
ロー側調整ネジ(「L」という表示がネジ付近に印字されています)を左回し(反時計回り)でゆるめます。
※フロントのトップ(1番重いギヤ)とロー(1番軽いギヤ)は、リアと反対の構造になります。(1速の場合が1番重たく、ひと漕ぎの距離が長くなります。)

前変速機（フロントディレイラー）について-つづき

③ チェーンが外れてしまうとき

●変速時にチェーンがギヤクランクを飛び越えて、外れてしまうようなときは調整ネジを調整することによって、変速機の稼動範囲を設定できます。調整ネジは、変速機が稼動する範囲を設定するネジで、締めると稼動範囲が狭くなり、ゆるめると稼動範囲が広がります。

■チェーンが内側（車輪側）に外れてしまうとき

ロー側調整ネジ（「L」という表示がネジ付近に印字されています。）を右回し（時計回り）で締め込みます。

■チェーンが外側に外れてしまうとき

トップ側調整ネジ（「H」という表示がネジ付近に印字されています。）を右回し（時計回り）で締め込みます。

③

外装式変速機はワイヤー等がむきだしになっているため、細かな調整が必要なものとなります。
契約製造工場にて最終検査、各部調整後に梱包をしておりますが、「運送時の振動」や「初期伸び」等のためお客様に調整をしていただかなければならない場合があります。
これらは製品特性上発生し得る現象であり、製品不良には該当しないものとなり調整は保証対象外となります。[保証規定B-12]

⚠注意	トップ側調整ネジ、ロー側調整ネジはゆるめすぎるとチェーンが外れる原因となります。作業時は1/8回転ずつ回しながら、常に様子を確認しながら作業を行ってください。

自転車の組立

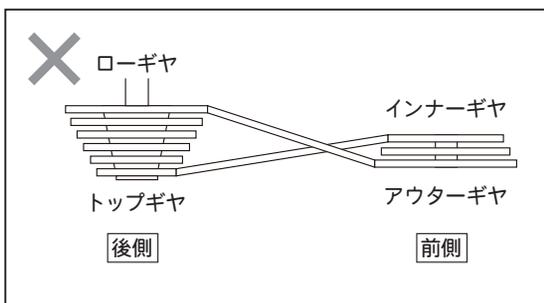
変速機（ディレイラー）の調整と取扱について

ディレイラーは、坂道や風向きなどの走行条件の変化に応じてギヤ比を変え、ペダリングの速さ、踏力を一定にして疲れを少なくする装置です。シフトレバーを操作することにより、チェーンを掛け変えてギヤ比を変えます。この項目では一般的なディレイラーについて説明していますが、特殊なディレイラー使用車種については、各ディレイラーの専用説明書をよくお読みのうえ、正しい方法でお取り扱いください。

■操作上の注意

●ペダルを止めたまま、またはギヤクランクを逆回転させながらシフトするとディレイラー・チェーンを痛め、故障の原因になります。

●ペダルを強く踏みながらシフトしたり、一気に2段以上シフトすると、チェーン・ギヤの寿命が短くなりますので避けてください。

●下図のようにチェーンが斜めになる使用（アウターギヤとローギヤ及びインナーギヤとトップギヤの組み合わせ）は、チェーン及びディレイラーに負担がかかりますので、避けてください。

■変速シフターの種類

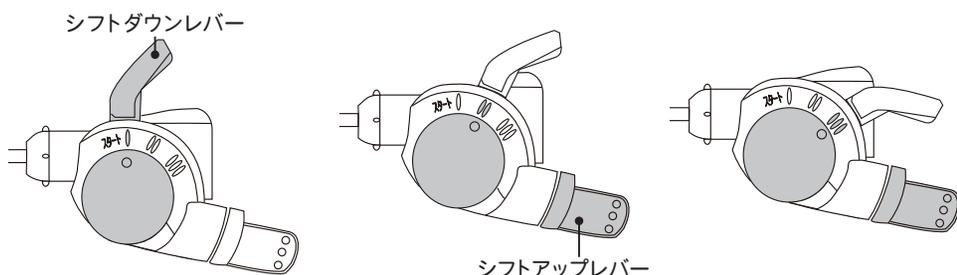
サムシフター型	サムシフタープラス型	グリップシフター型	ダブルレバー（EZレバー）
レバーの押し引きでシフトアップ、シフトダウンの操作	ボタンを押してシフトアップ、レバーを押してシフトダウン	グリップでシフトアップ、シフトダウン。※車種によりシフトアップ、シフトダウン操作が逆になる場合があります。	2つのレバーでシフトアップ、シフトダウン。※車種によりシフトアップ、シフトダウン操作が逆になる場合があります。

■内装3段変速の使い方・取扱上の注意事項

●IIIからII、IIからIに変速操作をするときはペダルの踏力を弱くするか、回転を止めてから行ってください。足を滑らす等の危険があります。

●ベルクランク部分には、絶対に足をかけないでください。

●シフトワイヤーはカゴブラケットや前カゴのワイヤー掛けには絶対に通さないでください。

●変速がスムーズに行われなくなったときは、販売店にご相談ください。

スタートするとき等ペダルが重く感じるときは、シフトダウンレバーで変速の表示をIにしてください。

軽い荷物を積んだときや平坦な道などではシフトアップレバーを押して、IIの表示になるようにしてください。

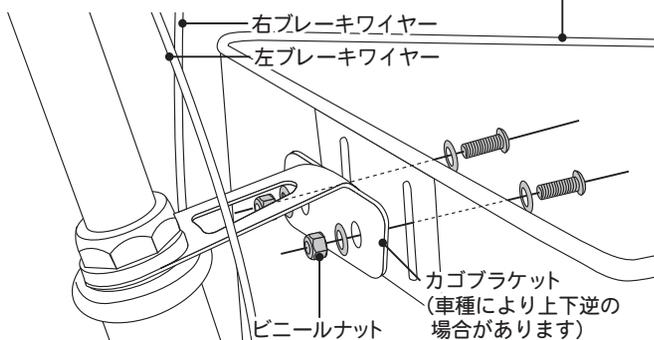
追い風やペダリングに余裕のあるときは、もう一度シフトアップレバーを押すと変速表示がIIIになります。

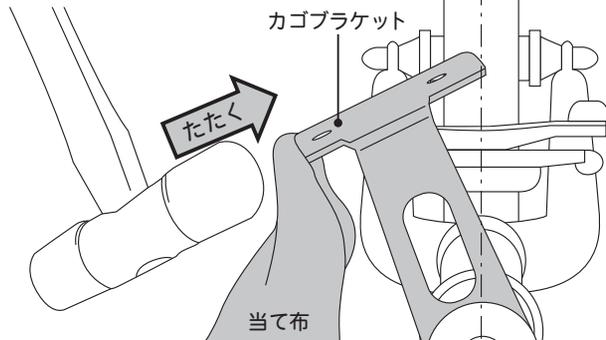
自転車の組立

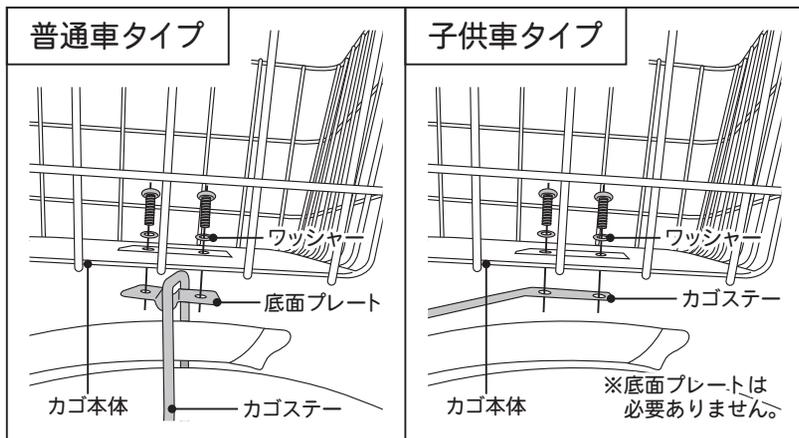
カゴの取付方法

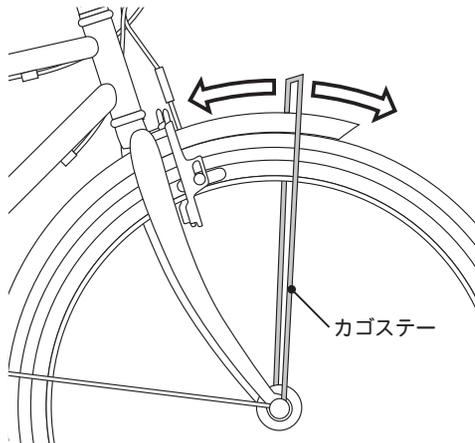
① 付属部品の確認

はじめに付属品を確認してください。
カゴはハンドル側(側面)を下側(底面)の2箇所で取り付ける構造になっています。
※右記の取付部品は代表図です。子供用自転車には底面プレートが必要ない場合があります。車種により仕様が異なる場合があります。
※カゴネジが既に自転車に仮止めされているものもあります。

② ハンドル側(側面)取付部

②ネジをワッシャーに通し、カゴ側面部の穴にネジを内側から差し込みます。カゴブラケットの穴にネジを通し、ワッシャーをネジに通します。その後、ビニールナットを指で仮止めしてください。
取り付け前に各ワイヤー類の取り回しをご確認ください。

カゴブラケットの曲がりについて

運送中の振動等で、カゴブラケットが曲がっている場合があります。カゴを取り付けることにより強度を保つ構造となりますので曲がっているときは傷がつかないよう当て布をあててハンマー等で叩いて位置を調整してください。

③ 下側(底面)取付部

③ネジをワッシャーに通し、カゴ底面部の穴にネジを内側から差し込み仮止めします。
カゴステーがある車種は、カゴステーを底面プレートで挟みます。
ハンドル側(側面部)、下側(底部)ともに仮止めをしてから、本締めします。
ハンドル側(側面部)、下側(底部)のネジを交互に締めていくことがコツとなります。
片方だけを完全に締めてしまうともう片方のネジが十分に締め付けられないことがありますので両方のネジを均等に締め付けてください。

カゴステーの曲がりについて

運送中の振動等で、カゴステーの位置がずれている場合があります。カゴを取り付けることにより強度を保つ構造となりますのでずれているときは手で力を加えて前後位置を調整してください。
※子供車のカゴステーは梱包のため、ゆがんでいることがありますが上記同様に調整してください。

⚠注意	カゴを取り付ける際、ブレーキワイヤー等が無理なくクロスしているか必ず確認してください。ワイヤーに不自然な絡まり等があると、誤作動の原因となります。 **ビニールナットは、「ゆるみ止め防止」のため、穴の部分にナイロンの樹脂が混入しています。これはカゴが簡単に外れないようにするための仕様となります。取り付けの際はナットを同梱のペダルレンチの小さい方の穴側で固定するか、ペンチのような工具でナットを固定したうえで、ネジが供回りしないようにして、ナットの中にある樹脂を潰すようにして、取り付けてください。** 乗車する際には毎回、各部のガタ・ゆるみがないか、確実に固定されているか確認してください。 ガタ・ゆるみのある場合や、固定されていない場合は、再度締め付けを行ってください。

自転車の組立

補助輪の取付位置・取付方法

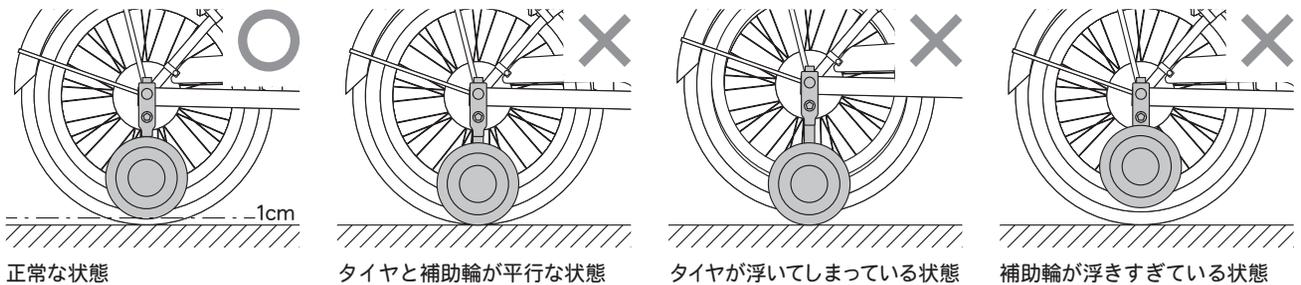
補助輪は取り付け位置、取り付け方法を適正に行わないと、走行に支障が出たり、車体が倒れやすくなる場合があります。

下図を参考に、補助輪が地面から1cm程度浮く位置に調節してください。

○ 1cm
正常な状態

×
タイヤと補助輪が平行な状態

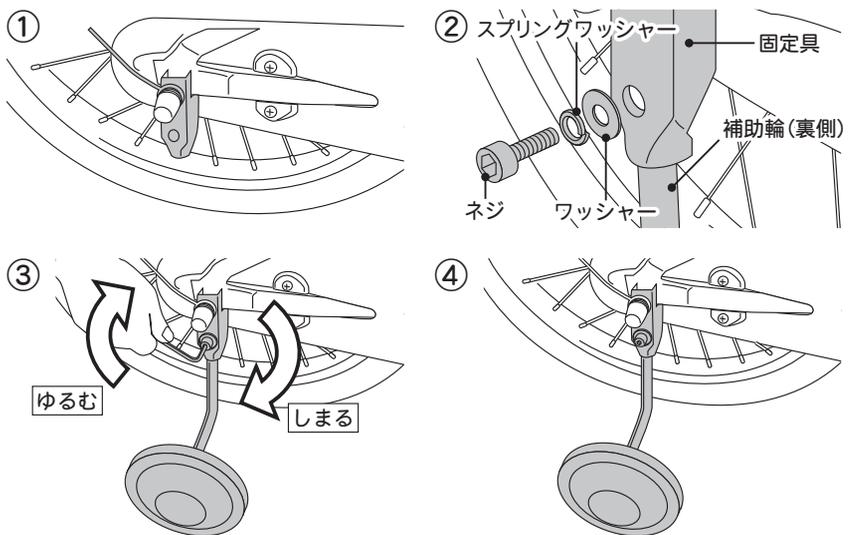
×
タイヤが浮いてしまっている状態

×
補助輪が浮きすぎている状態

六角レンチ固定タイプ

①箱から取り出した、補助輪が付いていない状態です。

②ネジにスプリングワッシャー、ワッシャーの順にはめ、固定具の裏側に補助輪を当て込み、先に用意したネジ、ワッシャー 2つを固定具の手前から差し込み、手で締めます。

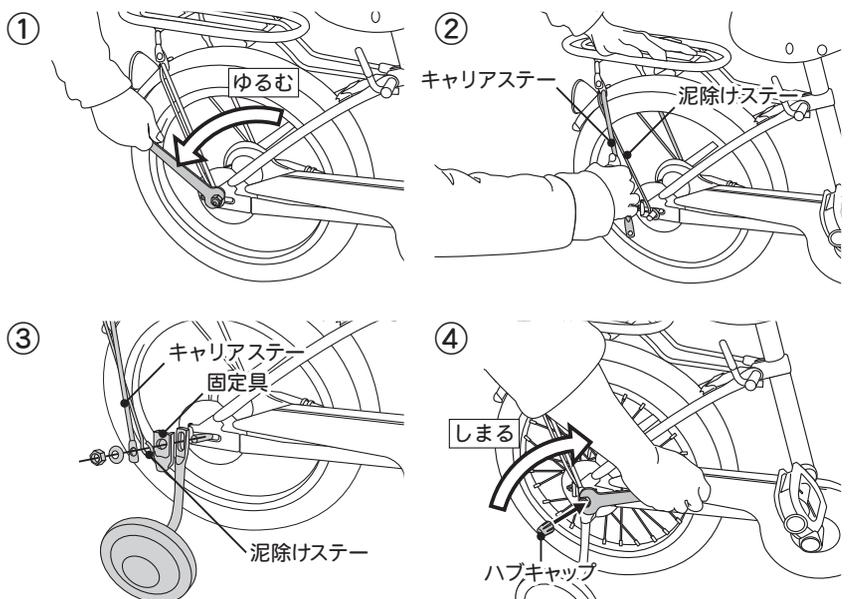
③ある程度まで手で締め、最後は確実に固定するため六角レンチを用いて締め付けます。

④確実に固定されたことを確認してください。
反対側も同手順に沿って取り付けてください。

スパナ固定タイプ

①補助輪の取り付けには後輪のナットとワッシャーを外す必要があります。付属のスパナ15mm（大口）で左回し（反時計回り）にナットをゆるめナット、ワッシャーを取り外します。

②①のあとキャリアステーと泥除けステーを取り外します。
※図のようにキャリア本体を上から押さえつけるとスムーズに取り外せます。

③内側から補助輪→固定具→泥除けステー→キャリアステー→ワッシャー→ナットの順に取り付けを行います。

④補助輪の位置を調整し、スパナを時計回りに締め付け固定します。
※確実に固定されたことを確認し、反対側も同手順に沿って取り付けます。

⚠注意	タイヤに空気を入れてから作業を行ってください。 タイヤに空気が入っていない状態で取り付けると、空気を入れたあとで高さが変わってしまいます。 乗車する際には毎回、各部のガタ・ゆるみがないか、確実に固定されているか確認してください。 ガタ・ゆるみのある場合や、固定されていない場合は、再度締め付けを行ってください。

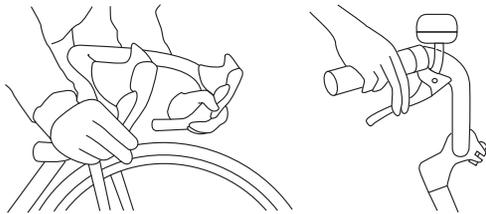
自転車の乗車前チェック

⚠警告	自転車に乗車される際は、必ず自転車をチェックしてください。 異常がある場合は即座に乗車を中止し、きちんと整備をした後にご乗車ください。 ※点検ができないお子様のために必ず保護者が行ってください。

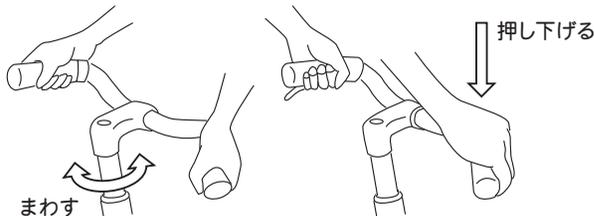
■正しい乗車姿勢がとれますか？

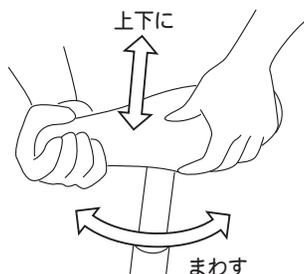
サドルに座ったとき、サドル、ブレーキレバーの位置は適正ですか?

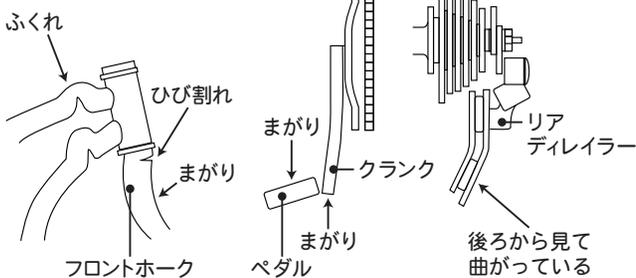
■ブレーキはよく効きますか？

左右のブレーキレバーを握って自転車を押し進めた時、ブレーキレバーとグリップの間が2/3 ～ 1/2になるまでにブレーキが効きますか。また、ブレーキレバーの取付台のゆるみやガタがないかどうか確認してください。ブレーキレバーの作動には特に注意し、ワイヤーのサビ、折れ曲がりがないか。サビや折れ曲がりがあると、ブレーキレバーの作動が重かったり、ブレーキが効かないことがあります。またブレーキの効きにも注意してください。

お子様が乗られる場合はブレーキレバーに指が届いているかどうか確認してください。また、ブレーキのかけ方を繰り返し教えてください。

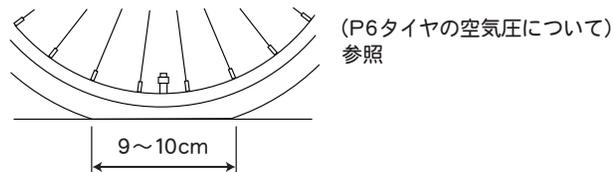
■ハンドルはしっかり固定されていますか？

がたつきがないか前輪に対して直角に取り付いているか。固定の確認は、大人の人が左右のハンドルグリップ部を持って前輪を両足にはさみ上下左右に回そうとしても動かないこと。グリップがゆるんでいないか。また、図のように両手で下に力を加えても動かないこと。必ず限界標識線が見えていないことを確認してください。

■サドルはしっかり固定されていますか？

上下、左右及び前後にガタや動きがないか。フレームと真っ直ぐに取り付けてあるか。固定の確認は、大人の人がサドルの前後を持って上下左右に力を加えて動きのないこと。
必ず限界標識線が見えていないことを確認してください。

■フレームやパーツ各部に変形やひび割れ等はないか？

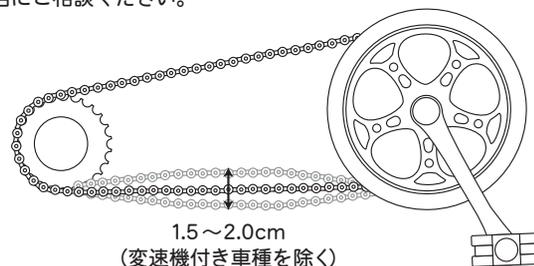
○フレームや前ホークに変形やひび割れ等はないか
○ペダル軸やギヤクランクに曲がりやひび割れ等はないか
○ディレーラー（変速機）に変形はないか
○車輪にゆがみはないか

■タイヤの空気圧は十分ですか？

乗ったとき地面との接地面の長さが9～10cmくらいになるのが標準です。空気圧が低すぎるとタイヤの損傷が早く、パンクの原因となり、また車輪の回転が重くなります。空気圧はタイヤの側面にご推奨空気圧が記載されています。また、ロードバイクのタイヤのように細いタイヤほど空気の減りが早いので、こまめに点検してください。

（P6タイヤの空気圧について）参照

■タイヤはパンクしていませんか？

乗車前にパンクしていないか確認してください。空気を入れても、正常な空気圧が得られないときはバルブがゆるんでいないか。バルブを取り外し、虫ゴムが傷んでいないか。タイヤを1回転して、釘や鋲がささっていないか。破損や切り傷がないか。パンクしているときは乗車せずに自転車販売店にて修理してください。

■チェーンの張りは正常ですか？

チェーンを張り過ぎると登り坂などでトルクがかかった場合に切れる事があり大変危険です。チェーンの張りがゆるすぎるとペダルを強く踏み込んだ時にチェーンが外れることがあり大変危険です。適切なテンションに調節が必要です。異常がある場合は速やかに販売店にご相談ください。

※図、及び内容はイメージですので実際の商品とは異なる場合があります。

自転車の乗車前チェック

■安全な服装で

車輪に巻き込まれやすい服装はしない。
○ズボンのすその汚れやチェーンの巻き込みを防止するためズボンはズボンバンドでとめてください。
○靴はかかとの低い滑らかなものを履いてください。

■乗る練習は

練習をするときは、空き地や公園などの安全な場所でしましょう。（よく練習してから一般道路でお乗りください。）

■各部のネジはゆるんでいませんか？

自転車の前輪と後輪を別々に持ち上げて（10 ～ 20cm）軽く落として異音や取り付けのずれはないかを確認します。異音がある場合はネジやナットがゆるんでいる可能性があります。

■ライトは点灯しますか？

乗車前にはライトが点灯するかを確認してください。（ライトが付属していない車種もあります。）

■必ず点検をしてください

乗る前には必ず点検をしてください。点検については本書をよく読んで点検してください。
分からない点は販売店に相談してください。

■初期点検及び定期点検は

購入後二ヶ月以内に初期点検を、その後一年ごとに定期点検を実施してください。なお、点検時以外でも異常を感じた場合は、すみやかに点検し、調整・修理をしてください。（有料）

定期点検、整備を受けていないと保証の対象外となることがあります。

乗車前の点検

安全に乗っていただくために、乗車前に次の点検を実施してください。点検・調整後は試乗を行ってください。
異常があったときや不明な点があるときは、乗車せず販売店にご相談ください。
※点検ができないお子様のために必ず保護者が行ってください。

■日常点検と調整のポイント

●リフレクター
汚れ損傷はないか
取り付け角度は適正か
（反射面の傾きは進行方向垂直に対し上下左右5度未満）

●サドルの固定
しっかり固定されているか、シートポストは限界標識線以上あがっていないか

●フレーム
変形やひび割れはないか

●グリップ
ゆるみがないか

●ハンドル
しっかり固定されているか

●ブレーキレバー
しっかり固定されているか
しっかり効くか

●ブレーキワイヤー
ほつれやサビがないか

●ヘッド
円滑に動くか
ガタついていないか

●ブレーキ本体
作動するか
ゆるみはないか

●ブレーキシュー
リムの側面に沿っていてしっかり固定されているか
磨耗していないか
傷はないか

●スポーク
折れているものはないか、曲がっているものはないか

●車輪（前後）
ゆがんで回転していないか、ゆるんでガタついてないか

●タイヤバルブ
ゆるみはないか

●チェーン
張りは適正か
サビていないか

●クランク
ガタはないか、よく回るか
曲がりやひび割れはないか

●ペダル
ガタはないか
よく回るか、曲がりはないか

●タイヤ
空気圧は大丈夫か
パンクはしてないか

●ライト
ライトが点灯するか
※付属していない車種もあります。

●ブレーキワイヤーは異常がなくても1年に1回は交換してください。
●タイヤは接地面のトレッド溝が一部でもなくなる前に交換してください。
●ブレーキシューは制動面の溝が残り1mmになる前に交換してください。

※図、及び内容はイメージですので実際の商品とは異なる場合があります。

正しい使用条件

■標準適応身長

身長にあった自転車の調整は、サドルにまたがり両足先が地面につく高さが適当です。サドルの高さを調整しても両足先が地面につかないものや、足があまるようなものは正しい調整とはいえません。右の表を参考にサドルの高さの調整目安にしてください。
わからないときは販売店に相談してください。

サドル地上高さ(cm)	適応身長(cm)	サドル地上高さ(cm)	適応身長(cm)
46	98	74	144
50	105	78	150
54	111	82	157
58	118	86	163
62	124	90	170
66	131	94	176
70	137	98	183

■正常な乗車姿勢

正常な乗車姿勢をとれるよう、ハンドルとサドルの高さを乗車する人の体格に合わせてください。疲れず、安全に走るには、乗車姿勢が基本です。サドルに座り、両足をペダル、両手をハンドルグリップに置いて次の操作ができるようにしてください。

1.ペダルの駆動操作が円滑にできる
2.ブレーキの制動操作が容易にできる
3.ハンドルの操縦が容易にできる

以上の3点ができるようサドル・ハンドルの位置を適正に調整してください。

■標準乗用速度

※スピードの出し過ぎは危険ですので安全速度を守ってください。

	スポーツ車	シティサイクル	コンパクト車	実用車	折りたたみ車 子供車	幼児車
常用速度km/h	15 ～ 25	10 ～ 20	10 ～ 15	10 ～ 15	8 ～ 18	5 ～ 8

■ヘルメットの着用

自転車に乗るときは安全のためにヘルメットを着用しましょう。幼児を同乗させたり、児童が乗車するときは必ずヘルメットを着用しましょう。自転車用ヘルメットはSGマーク付きのように、一定基準を満たしている製品を使用しましょう。

■最大積載重量

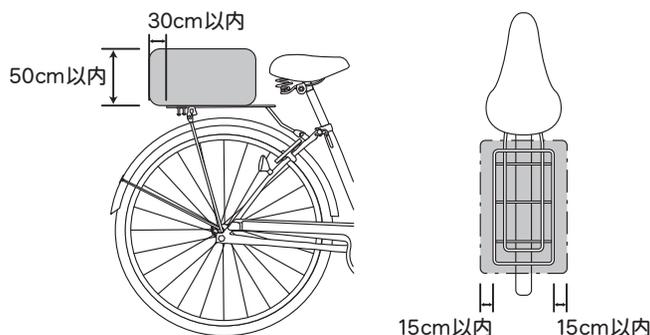
積載装置を装備した場合の最大積載重量及び積載物の大きさ(積載装置を装備していない場合は適応されません)

前カゴ、後キャリア以外の箇所に荷物を積まないでください。荷物を積む場合は規定の大きさ、重量を守って、ズレたり、ヒモがゆるんだりしないようにご注意ください。荷物がブレーキワイヤーに引っかかったり、ランプ・リフレクターがかくれないようにしてください。

※前カゴに荷物を乗せる場合は5kg以下(子供車2kg以下)
※幼児車には、荷物を積まないでください。

禁止

●積載条件を超える荷物は絶対に積まないでください。

※上記の最大積載重量は、前カゴと後キャリアに荷物を同時に載せた場合の合計した重量です。
(ただし、各都道府県の道路交通規則により多少異なります。)

リアキャリアの質量別クラスと積載重量

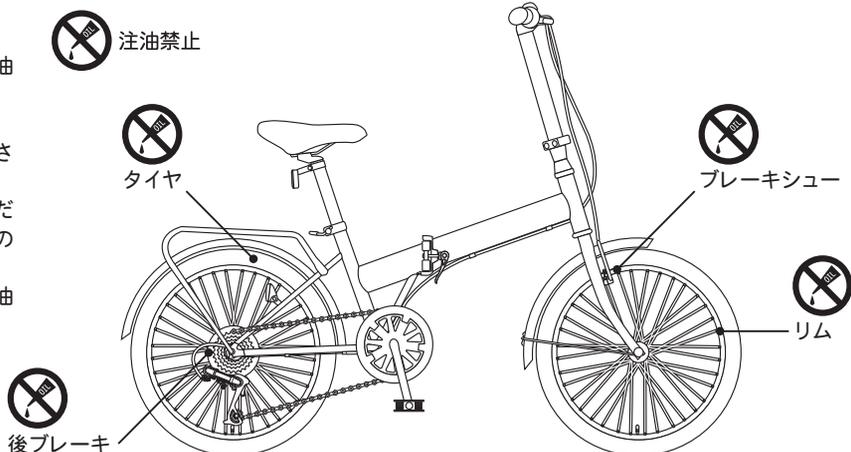
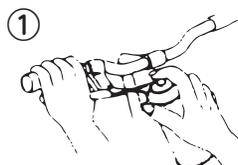
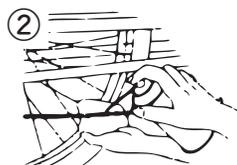
車種	実用車	シティ車			スポーツ車	コンパクト車	子供車
質量別クラス	クラスS	クラス27	クラス25	クラス18	クラス10		
最大積載重量	製造者が指定する質量	27kgまでの荷物幼児座席の質量と幼児適用体重の合計が27kgまで	25kgまでの荷物幼児座席の質量と幼児適用体重の合計が25kgまで	18kgまでの荷物幼児座席を取付けることは出来ません	10kgまでの荷物幼児座席を取り付けることは出来ません		5kgまでの荷物

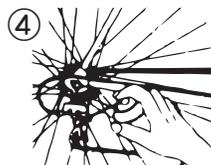
※図、及び内容はイメージですので実際の商品とは異なる場合があります。

注油・お手入れについて

フレームヘッド回転部、ギヤクランクの回転部ハンガー、ハブ、ペダルなどの回転部にはグリスがつまっていますので注油は不要です。
販売店での定期整備時にグリスアップを行ってください。

■ご注意

●リムやブレーキシューなどの制動面には油を注さないでください。
ブレーキが効かなくなり大変危険です。
●タイヤのゴム部分に油を付けないでください。ひび割れ等劣化の原因となります。
●チェーンにはアブラを付け過ぎないでください。ほこりが付き寿命が短くなりますので付け過ぎた場合は拭き取ってください。
●ブレーキレバーのワイヤー固定部への注油は怠らないでください。

注油箇所　※外装変速機の付いた自転車については③〜⑤も注油してください。

ブレーキレバー(前後)ワイヤーの可動部

クランクを回しながらチェーンに注油

ワイヤーリードの循動部

リアディレイラー(後変速機)可動部とプーリー

フロントディレイラー(前変速機)可動部

■日常のお手入れ

●乾いた布やブラシで泥、土、ほこりを落としてください。
●雨など水にぬれたときは、よく乾燥させたあと、上図の箇所に注油してください。
●塗装部(フレーム等)は乾いた布でよく拭き、自転車用のワックスをかけ、乾いた布でよく拭き取ってください。
●メッキ部(ハブ、変速機等)は乾いた布でよく拭いた後、サビ止め油もしくは機械油で拭き、余分な油を拭き取ってください。
●サビやすい場所(湿気の多い場所)に置くときはお手入れの回数を増やしてください。

■ご注意

●シンナーなどの有機溶剤は使用しないでください。
●走行中は回転部分(ギヤ、車輪、チェーン)に手を触れないでください。
●サドル、リム、グリップ、ブレーキレバーには、ワックスをかけないでください。

■お知らせ

●リムはブレーキシューとの接触により汚れる場合がありますが、性能に影響はありません。

■日常の保管

●雨のかからない乾燥した場所に保管してください。雨のかかる場所では市販のサイクルカバーを使用してください。

※長期間保管後再使用される場合は、販売店で点検整備のうえご使用ください。(有料)

■故障・事故・廃棄について

1.転倒したら
●前ホーク、ハンドルが変形することがあります。自転車を横から見て確認してください。
●ハンドル、ブレーキレバー、ペダル、ディレイラー(変速機)をぶつけ傷つけます。ハンドル、ブレーキレバーの変形や損傷には特に注意してください。

2.パンクしたら
●パンクしたまま乗り続けるとリム、タイヤチューブを破損させます。必ず降りて押して歩き、自転車店で修理してください。
●パンクの原因は
・クギ、ガラス破片などを踏んだとき
・道路の穴に落ちたり、段差などに乗り上げたとき
・空気圧が不足しているとき

3.交通事故のとき
●万一交通事故を起こした場合は、相手が歩行者、自転車、自動車を問わず応急処置のあと、すみやかに警察に通報してください。事故処理等の一切は警察官の指示に従ってください。

4.ブレーキの故障やブレーキワイヤーが切れたとき
●ブレーキが効かない状態での走行は大変危険です。必ず降りて押して歩き、自転車店で修理してください。

5.異常を感じたとき
●異常を感じたときはすみやかに自転車販売店で点検整備を受けるようにしてください。

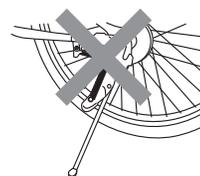
6.廃棄について
●自転車を廃棄する際は、お住まいの自治体で定められた方法に従ってください。決して不法投棄はしないでください。

※図、及び内容はイメージですので実際の商品とは異なる場合があります。

幼児用座席取付の注意事項

⚠警告

■幼児用子供乗せが可能な車種

必ず両立スタンドが装着されている自転車に装着してください。
一本スタンドの自転車に幼児用座席を取り付けることはできません。
後用の幼児用座席を利用出来るのは後キャリアのクラス区分が
クラス25、クラス27のいずれかのキャリアが装着されていること。

幼児座席を取り付ける際は、幼児座席に添付されている取扱説明書等に従って確実に取り付けてください。また、新たにリアキャリアを取り付ける場合はお客様の用途に応じて右記の表を参考にお選びください。なお、リアキャリア、幼児用座席の取り付けは販売店に依頼されることをおすすめします。

※幼児用座席の最大積載質量を超える幼児の乗車は出来ません。
※幼児用座席を装着するときは上記を確認したうえで販売店にご連絡ください。

クラス25、クラス27

片足スタンド厳禁！

車種	シティ車・軽快車	実用車
リアキャリア クラス10	最大積載量10kgまで 幼児用座席は取り付け不可	不適合 取付方法が異なる
リアキャリア クラス18	最大積載量18kgまで 幼児用座席は取り付け不可	
リアキャリア クラス25	最大積載量25kgまで 幼児用座席質量と幼児体重の合計が25kg以下であること	
リアキャリア クラス27	最大積載量27kgまで 幼児用座席質量と幼児体重の合計が27kg以下であること	

■幼児用座席取り付け上の注意

取り付ける自転車と、幼児用座席の寸法、形状が合致する物を選んで確実に装着してください。幼児用座席は、前用、後ろ用のうちどちらか一個のみの取り付けにしてください。
後幼児用座席は幼児の足が車輪に巻き込まれない位置にカバーのついた幼児用座席を必ずご使用ください。
幼児用座席及びキャリアの取り付けは販売店におまかせください。

■お子様を乗せる際の注意

幼児用座席にお子様を乗せるときは必ず幼児用座席が固定されているかご確認ください。
お子様を乗せるときは必ずシートベルトをご使用ください。
適正なヘルメットを着用してください。
前子供乗せの場合は、セーフティロックを必ずかけてください。
シートベルトの端が車輪などに巻き込まれないようにご注意ください。
お子様を乗せるのは一人までとしてください。
お子様を乗せたまま駐輪しないでください。
転倒してケガの恐れがありますので、必ずお子様を降ろしてください。
幼児用座席に幼児を乗せると、自転車のハンドルからぐらついたり、ブレーキをかけても止まりにくい場合があります。また、重い荷物を積載した場合も同様です。

幼児用座席に乗れるお子様の年齢・体重等につきましては、各都道府県の条例によって異なりますので販売店にお尋ねください。

ハンドルストッパー（くるピタ等）の取扱

⚠警告

ハンドルストッパーは駐輪時、ハンドルがふらつくのを防止し、ハンドルを固定するものです。

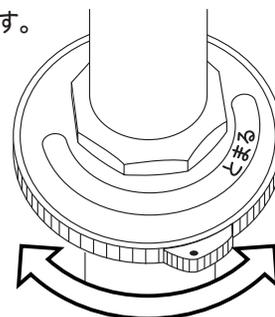
■固定する場合

ハンドルストッパーのレバーを右（「止まる」の表示方向）へ動かなくなるまで回してください。

※レバーを左に回しても解除できない場合にはハンドルを軽く左右に回しながらレバーを操作してください。

■解除する場合

ハンドルストッパーのレバーを左（「まわる」の表示方向）へ動かなくなるまで回してください。

●走行するときは必ず解除してください。

※図、及び内容はイメージですので実際の商品とは異なる場合があります。

幼児2人同乗用自転車にお乗りになる際のご注意

⚠警告

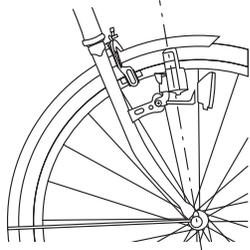
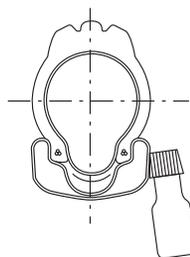
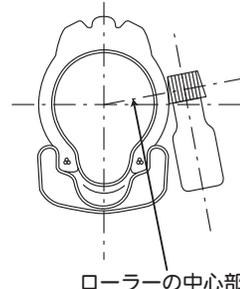
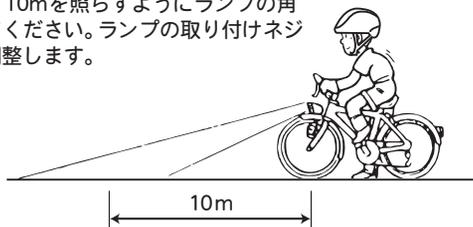
「幼児２人同乗用自転車」にお乗りになる前に、下記の注意事項をお読みになり十分理解のうえご使用ください。

1. 幼児を２人乗せると、ふらつきが大きくなり転倒する可能性が有りますので、安全な場所で十分練習してからご利用ください。特に発進時や低速で走行しているときなどハンドルが大きく振れますのでご注意ください。
2. 1人で自転車に乗っているときと比べ、幼児２人乗せた場合は全体の重量が大きくなるため、衝突した際の衝撃が大きくなり、同乗している幼児や乗員の被害も大きくなり、歩行者と衝突した場合には、歩行者の被害も大きくなりますので、走行には十分ご注意ください。
3. 自転車にお乗りになる際には、ハイヒールやサンダル及び底の滑りやすい靴は絶対にお止めください。スニーカーなどの踵が低く、滑りにくい靴をお履きください。
4. 路肩や歩道等の傾斜によりハンドルが取られ、転倒の危険性があるのでご注意ください。
5. 無理に曲がろうとすると、転倒する危険性がありますのでご注意ください。
6. 停車時及び幼児の乗降時には、必ず両立スタンド及びハンドルをロックさせてください。
7. 前の幼児座席により、前方下方の視野が制限されていますので走行には十分ご注意ください。
8. 以下のような状況になると、幼児を同乗させた状態では、自転車の立て直しが出来ずに転倒することがあります。
   a) 狭いところを押し歩いたり、歩行者や自転車と接触したり、同乗させている幼児の動き、路面の凹凸、傾斜等によりバランスを崩して反対側に転倒することがあります。
   b) ハンドルを大きく切った際に、前輪が前または後に意図しない回転をして転倒することがあります。傾斜面や路面の凹凸があるところでは、特に起こりやすくなります。
9. 押し歩き時には同乗幼児の動きや路面の凹凸、傾斜などによる僅かなバランスの崩れによって、自転車の立て直しが出来ずに転倒することがあるので、幼児を自転車から降ろして押し歩きをしてください。やむを得ず幼児を乗せて押し歩きする際は、以下の事項を考慮して慎重に押し歩きしてください。
   a) 自転車は垂直より少し手前に傾けて、ハンドルをしっかり握り、ブレーキがすぐにかけられるようにしてください。
   b) 同乗幼児が動かないように注意するとともに、路面の凹凸、傾斜等に注意して、バランスを崩さないようにしてください。
   c) 押し歩きのための十分なスペースがある場所であることを確認し、混雑した場所ではバランスを崩しやすいので幼児を同乗しての押し歩きは止めてください。

ライトの取扱について

ランプ類は走行の安全上正しい取り扱いが必要です。この事項では、一般的な発電ランプについて説明しています。電池式ライトの場合は、電池がなくなり次第新しいものと交換してください。特殊なランプを使用している車種については販売店にお問い合わせください。

■取付位置

●ダイナモの位置
ダイナモの中心線延長がハブの中心にあっているか確認してください。取り付けがゆるんでダイナモが前に傾いた状態での走行は車輪に挟まる恐れがあり危険です。販売店に相談してください。

●リムドライブの駆動状態
ローラーの先端がリムに接触し、タイヤには接触していないことを確認してください。

●タイヤドライブの駆動状態
ローラーの中心がタイヤに接触しているか確認してください。

●照射角度
自転車の前方10mを照らすようにランプの角度を調節してください。ランプの取り付けネジをゆるめて調整します。

●電球の取り替え
電球を取り替えるときには同じ仕様の電球をご使用ください。なお、特殊なライトシステムの場合は使用箇所により電熱の仕様が異なりますので、販売店で確認のうえ、交換補充するようにしてください。

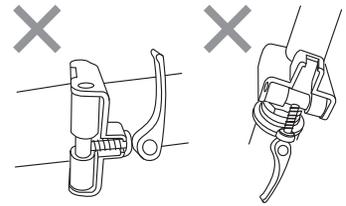
夜間および暗い所を走行するときは、必ずランプを装備し、点灯することが法律で定められています。
※ライト未装着車の場合は、必ず別にライトをお買い求めください。

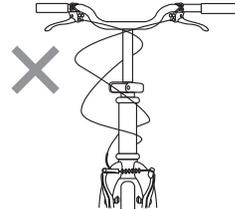
※図、及び内容はイメージですので実際の商品とは異なる場合があります。

折りたたみ自転車の警告事項

⚠警告

■組立の注意事項

- ●乗車前に必ずフレーム、ハンドルなどの固定箇所に、ガタつき等なく確実に固定されていることを確認してください。ガタつきのある場合は、ガタつきがないように調整してからご使用ください
- ●車体の折りたたみ部のクイックレバーは、下もしくは横に向けて車体を確実に固定してください。
- ●ハンドルの固定がクイックレバーの場合は、クイックレバーを前方向に倒して固定してください。
- ●前ホークの方向を確認してから乗車してください。
- ●ブレーキワイヤーが絡んだまま乗車しないでください。

■折りたたみ自転車の乗車の注意事項

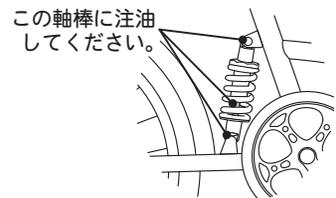
- ●折りたたみ自転車は、大人用に設計されていますが、車輪径の小さい車種においては、乗車される方の体重によって、使用タイヤの最大不可を超えてしまう場合があり、タイヤの寿命が短くなることがあります。
- ●20インチ以下の車輪径の小さい自転車は、大きい自転車と比べてふらつきが大きい等、安定性が劣りかつ運転感覚が異なります。広場など安全な場所で十分練習してからご使用ください。

スポーツ車の警告事項

⚠警告

■フロントサスペンション装着車の場合の注意事項

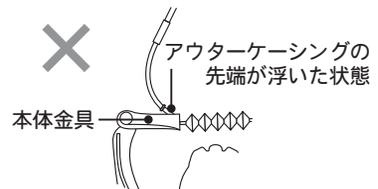
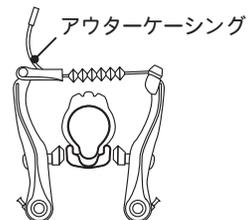
- ●急ブレーキをかけたとき、フロントサスペンションが作動し、車体が沈み込む場合があります。不慣れな方はバランスを崩して転倒する恐れがあります。
- ●ブレーキ操作は、まず後輪ブレーキをかけて、スピードを落としながら前輪ブレーキをかけて、安全に停止するようにしてください。

■リアサスペンション装着車の場合の注意事項

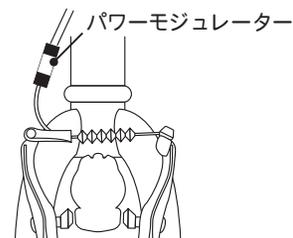
- ●出荷時のリアサスペンションのスプリングは適切な固さに調整されています。
  リアサスペンションのスプリングは、適切な硬さが必要です。
- ●車体を手で持ち上げたとき、ガタつきが感じられる場合はスプリングをゆるめ過ぎています。
  ガタつきのある状態で使用されますと、車体の変形、破損の恐れがありますので必要以上にはゆるめないでください。
- ●サスペンションからの音鳴りは異常ではありません。サスペンションの軸棒及び前後の固定軸に塗布されたグリスが消耗したために発生するきしみ音です。
  適量のスプレー系のグリスまたは機械油を適当箇所に塗りつけてください。

■V型ブレーキ装着車の注意事項

- ●V型ブレーキは他のブレーキに比べ、とても敏感でパワフルなブレーキです。急なブレーキ操作や急激な片輪ブレーキ操作は、車輪がロック状態となり、横滑りや転倒事故につながる恐れがあり、大変危険です。
- ●ご乗車に際しては、V型ブレーキの優れた性能や特性について十分に理解していただき、安全走行に留意ご使用ください。
- ●ブレーキの操作方法
  - ○ブレーキ操作はまず後輪ブレーキ（左側ブレーキレバー）をかけて、スピードを落としながら前輪ブレーキ（右側ブレーキレバー）をかけて停止するようにしてください。
- ●ブレーキのワイヤーチェック
  - ○乗車前に前後ブレーキのアウターケーシングが完全にブレーキ本体の金具にはめ込まれているか確認してください。
  - ○前後ブレーキのアウターケーシングが浮いた状態（アウターケーシングの先端が本体金具を通っていない状態）で使用されるとアウターケーシングが本体金具から外れ、ブレーキの制動が全くなくなり大変危険です。

※図、及び内容はイメージですので実際の商品とは異なる場合があります。

スポーツ車の警告事項

⚠警告

■パワーモジュレーター(シマノ製)装着車の場合の注意事項

●パワーモジュレーターは車輪のロック防止装置ではありません。パワーモジュレーターはブレーキレバーの引き量を増やすことにより、ブレーキのコントロールをしやすい状態にする装置です。
●ブレーキ操作時、パワーモジュレーターの可動範囲を超えた場合には、通常のＶ型ブレーキになりブレーキが効きすぎて車輪がロック状態になる場合がありますので、このブレーキの機能特性を十分に体験されたうえでご使用ください。

■キャリパーブレーキ装着車の注意事項

●キャリパーブレーキが使用されている車種は、Vブレーキ、ディスクブレーキを使用している車種と比べると構造上効きが滑らかでロックしにくいという特性を持っていますが制動距離は長くなります。勾配の大きな下り坂など、スピードが出やすい道での走行時には十分な距離を持ってブレーキングができるようスピードを出しすぎないようご注意ください。
●補助ブレーキ(レバー)は急激な操作には適しておりません。
スポーツ車は、変速機、ブレーキ操作等、空き地や公園など安全な場所でよく練習してから、一般道路でお乗りください。
●ロードタイプの自転車(キャリパーブレーキ、及び補助ブレーキレバー)の性能や特性、操作方法を十分に理解していただき、安全走行にご留意ください。

■各パーツの推奨固定力数値

●ハンドルバーやハンドルポストなどの固定作業では締め付けがゆる過ぎたり強すぎたりすると、走行中に外れたり破損の原因となる恐れがあります。締め付けの際は右記を参考に固定作業を行ってください。

※表の締め付けトルクはあくまで目安となります。

名称	締め付けトルク(N・m)
ハンドルバー	8
ハンドルポスト	18-25
アンカーボルト	2.5
シフター	6-8
ブレーキレバー	6-8
ブレーキワイヤー	6-8
ブレーキシュー	8-10
サドル	18-25
シートポスト固定ネジ	11-13
クランク	35-50
ペダル	33-50
フロントディレイラー	5-7
リアディレイラー	8-11
変速ワイヤー	5-7
前輪(ハブナット)	20-25
前輪(クイックリリース)	5-8
後輪(ハブナット)	30-40

※図、及び内容はイメージですので実際の商品とは異なる場合があります。

警告事項

⚠警告

禁止

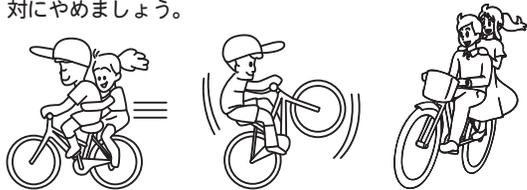
山岳・河川などでは絶対に使用しない

ハンドル・フレームなどが折損したり、ブレーキが効かなくなったりして、転倒の恐れがあります。
これらの場所、または類似する場所では走行しないでください。

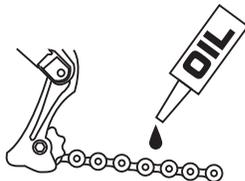
禁止

二人以上で乗ったりアクロバット的な乗り方はしない

二人乗りは法律で禁止されています。またアクロバット的な乗り方やハブステップに乗るのは大変危険ですので絶対にやめましょう。

禁止

チェーンなどの注油の必要な箇所には必ず注油すること

※注油箇所については
P38参照

禁止

乗車中は携帯電話使用禁止！

また、ヘッドホン・イヤホンを使用しながらの走行はやめましょう。周りの音が聞こえにくく大変危険です。

禁止

パンクした状態で乗らない

パンクした状態で自転車に乗ると、リムやスポークが変形したり、タイヤが外れて大変危険です。

禁止

飲酒しているときは絶対に乗らない

衝突や転倒など事故やケガの恐れがあります。

禁止

無灯火で乗らない

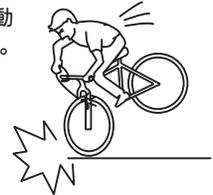
夜間、乗車の際は必ずヘッドランプを点灯してください。ヘッドランプの明かりは路面状態を見るのみでなく、他の車両や歩行者からの視認をしやすくする効果があります。（ランプ類の取り扱いについてはP40参照）

○ヘッドランプが標準装備されていない機種には別売のヘッドランプを必ず装着してください。
○ランプがつかないときは、押して歩いてください。
○ランプが破損した場合は、すぐ交換してください。

禁止

走行中ブレーキワイヤーや変速ワイヤーを引っぱったり、曲げたりしない。

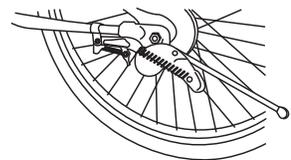
走行中にブレーキや変速機が誤作動を起こす恐れがあり、大変危険です。

禁止

歩行者に危害を及ぼす恐れのある突起物などを自転車取り付けしてはいけません。

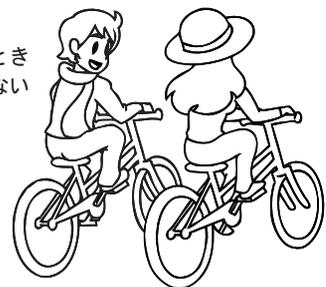
禁止

スタンドを上げるときは、必ずロックを完全に解除すること

ロックを完全に解除しないと、スタンドを上げている途中でロックがかかることがあります。

禁止

並走の禁止

二台以上で走行するときは、横に並走して走らないでください。

禁止

積載条件を超える荷物は積まない

荷物を積む場合は規定の大きさ、重量を守って、ずれたり、ヒモがゆるんだりしないようにご注意ください。バランスを崩し、転倒の恐れがあります。

※幼児車には荷物を積まないでください。

※図、及び内容はイメージですので実際の商品とは異なる場合があります。

警告事項

⚠警告

禁止

シートポスト及びハンドルポストの限界標識を越えての乗車をしない

シートポスト及び、ハンドルポストの限界標識線がフレームの中に隠れる状態でお乗りください。サドルやハンドルの折れや抜けにより転倒し、ケガをする恐れがあります。

禁止

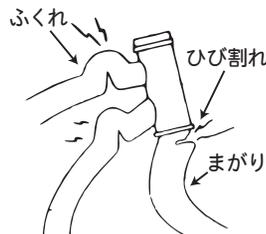
異常があるときは乗らない

点検せず異常のあるままで走行すると事故や転倒によるケガの恐れがあります。

異常を発見したら販売店にご相談ください。変形、ひび割れなど、異常のある部品は必ず交換してください。

曲がりを直しての再使用は破損の原因になりますので、絶対にしないでください。

※衝突したとき前ホークが曲がることによりショックを吸収し、乗員のケガを防止する役目をもっています。

禁止

リフレクターは汚れていたり破損したまま乗らない。また取り外して乗らない。

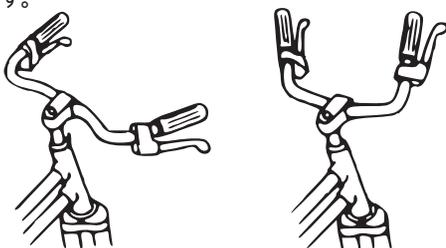
テールランプ及びリフレクターは後方の車両からの確認をするうえで大変重要です。汚れや損傷のない状態でご使用ください。

破損した場合は、すぐに交換してください。交換するときは、橙色又は、赤色のものを使用し、反射面の傾きは進行報告垂直に対して上下左右5度未満になるようにしっかり固定してください。

禁止

ハンドルの形を変えない

ハンドルを上向きや前向きにして乗ると乗車姿勢が不自然なため走行が不安定になり、転倒しケガをする恐れがあります。

禁止

車輪の脱着やサドル・ハンドルの調整後、締め付けを確認せずに乗らない

車輪やサドル・ハンドルが外れ転倒によるケガの恐れがあります。

禁止

視界の悪いときは乗らない

見通しが悪いと、衝突や転倒の恐れがあります。（このような場合は押して歩いてください。）

禁止

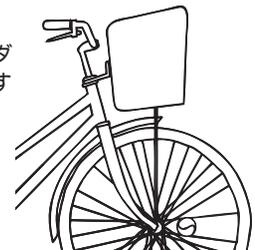
凹凸の激しい所を走らない

ハンドルがとられたりふらついたりするうえ、タイヤ・リムを損傷します。自転車を降りて押して歩いてください。

禁止

スポークの間に固形物（ボールなど）を入れて走らない

ボールが移動し、ブレーキ・ダイナモに接触し、転倒したりする恐れがあります。

禁止

走りながら足で発電ランプの操作をしない

ダイナモの手元起倒装置のない自転車のダイナモ及びバッテリーランプの起倒は必ず停止し、手で操作してください。足での操作は足や靴が車輪に巻き込み転倒する恐れがあり大変危険です。

禁止

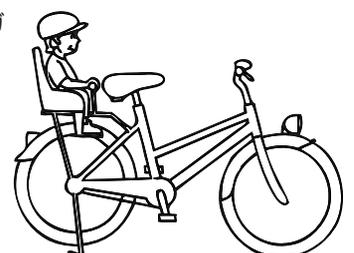
幼児を乗せたまま自転車から離れない

自転車が倒れ、ケガをする恐れがあります。

※図、及び内容はイメージですので実際の商品とは異なる場合があります。

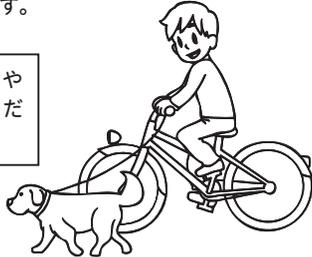
警告事項

⚠警告

禁止

手やハンドルに荷物を引っかけたりペットをつなげない

荷物やヒモが車輪に巻き込まれたり、バランスを崩し転倒し、ケガの恐れがあります。

荷物はキャリア(荷台)やバスケットに積んでください。

禁止

前カゴにペットを乗せない

ペットが急に飛び出し大変危険です。

禁止

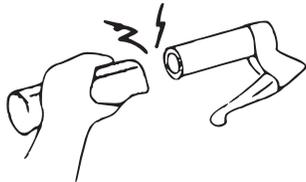
走行以外のことで使用しない

自転車を走行以外のこと(踏み台の代わりなど)に使用しないでください。転倒によるケガの恐れがあります。

禁止

ニギリのゆるんでいるものには乗らない

ニギリの弾性が低下し、回る物はハンドルから抜ける恐れがあり大変危険です。自転車販売店ですぐに取り替えてください。

禁止

自転車の改造をしない

修理や分解、部品の組み付けは販売店にご相談ください。ハブステップの装着は危険な改造です。取扱説明書に記載されている調整箇所以外の箇所を調整することはやめてください。万一、不当な改造が起因と判断される故障は保障の対象外となります。
[保証規定B-30]

禁止

ブレーキの制動面に注油しない

ブレーキに関係する箇所のうち、リム、ブレーキ、ブレーキシュー、バンドブレーキのドラム内などには**絶対に注油したり油布で拭いたりしないでください。**ブレーキが効かなくなり大変危険です。

禁止

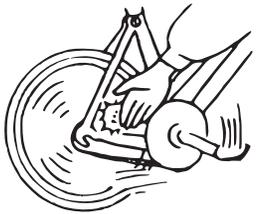
各部ベアリングを使用している箇所にグリス以外のものを塗らない

ベアリング使用箇所にスプレー式の潤滑油を吹き付けると、中のグリスが溶け出てベアリングのガタつきや破損が生じますので、絶対にしないでください。

禁止

回転部には触れない

(前・後車輪、ギヤクランク、チェーン部)が動いているときは手、足で触れないでください。特に調整やお子様が遊んでいるときなどに回転部に手や足を触れないよう注意してください。

禁止

合図をするとき以外ハンドルから手を離さない

危険回避などの急な操作が出来ずに衝突や転倒の恐れがあります。雨のときに傘をさして片手運転などはしないでください。

禁止

傘やステッキ、釣竿などを車体に差し込んだり、吊り下げたりしない

車輪をロック(固定)させたり、歩行者にケガをさせる恐れがあります。

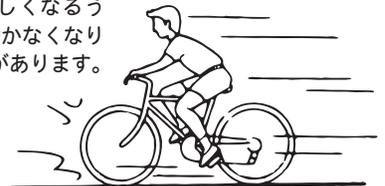
禁止

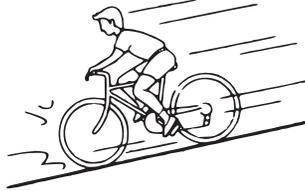
スピードを出し過ぎない

スピードを出し過ぎると、ハンドル操作が難しくなるうえ、ブレーキも効かなくなり事故を招く恐れがあります。

※図、及び内容はイメージですので実際の商品とは異なる場合があります。

警告事項

⚠警告

禁止
ぬれた道や下り坂ではスピードを出さない

ブレーキが効きにくく、スリップしやすいため思わぬ事故や転倒によるケガの恐れがあります。特に急な上り、下りは自転車を降りて押してください。

禁止
カーブではスピードを出さない

曲がりきれずに思わぬ事故を招く恐れがあります。

禁止
カーブではブレーキをかけない

横すべりをおこし転倒する危険があります。
スピードを落として走りましょう。

禁止
カーブで曲がる側のペダルを下げない

ペダルが地面に接触し、転倒する恐れがあります。

禁止
滑りやすいところでは乗らない

積雪や、凍結した道、工事用の鉄板やぬかるみ、軌道敷きなどでの運転はスリップなどをして大変危険です。自転車を降りて押して歩いてください。

禁止
スタンドを完全にはね上げていない状態で乗らない

カーブのときスタンドが地面と接触し、転倒によりケガの恐れがあります。

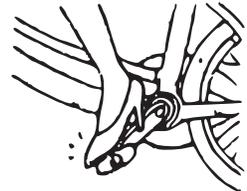
禁止
ギヤチェンジ(シフト操作)は一度に二段以上しない

一気にギヤチェンジをするとチェーンが外れることがあり大変危険です。
一段ずつチェンジしましょう。

禁止
乗るときは安全な服装で

マフラーや裾の長いスカートなどの運転しにくい服装はやめてください。長いズボンをはいて乗車する場合は、車輪やギヤにからまることがあり危険です。

禁止
滑りやすい靴やかかとの高い靴などを履いて乗らない

足がペダルから外れ、転倒によるケガの恐れがあります。

禁止
片側ブレーキはかけない

片側だけ(特に前ブレーキ)のブレーキをかけるとバランスを崩して転倒し、ケガの恐れがあります。走行中は、常にブレーキレバーをすぐ握れるようにしてブレーキは前後ともかけてください。

禁止
急ブレーキはかけない

急ブレーキをかけるとスリップして転倒する危険があります。前方に注意して安全走行してください。

お子様が乗られる場合は

ブレーキレバーに指が届いているかどうか確認してください。また、正しいブレーキのかけ方ができるまで繰り返し教えてください。

雨、強風、雪のとき

●雨のとき
服装(雨具)をととのえる。傘を持っての片手運転は絶対にやめてください。雨合羽やレインコートを着るときはスソが引っかかったりしないようにスソは必ずセーフティバンド、輪ゴムまたは、クリップなどで必ずとめてください。また、雨の日はブレーキも効きにくくスリップしやすいので、ゆっくり走りましょう。

●強風のとき
ハンドルがふらつきやすく安全に運転出来ません。
無理に乗らずに降りて押して歩きましょう。

●雪のとき
雪の日には乗らないのが一番です。降りて押して歩くように心掛けましょう。また、冬の晴れた日でも日陰の路面が凍っていたり、雪が残っていたりしますので注意が必要です。

※状況により自転車は周囲から認識されにくいことがあります。常に「周囲から認識されやすい」服装や装備でご乗車ください。

※図、及び内容はイメージですので実際の商品とは異なる場合があります。

警告事項

⚠警告

一年ごと及び異常を感じた場合には販売店で、自転車安全整備士、自転車組立整備士、自転車技士もしくはそれと同等の技能を有する者により点検を受けてください。

乗車前の確認

○前ブレーキ及び後ブレーキの動作の確認
○ハンドル、サドル及び前輪、後輪の固定の確認
○タイヤの空気圧の確認
○その他乗車前の点検の実施

自転車は車道を走行してください。

・自転車は自動車と同じく車道を通るのが原則です。
その場合、道路工事などを除き車道の左端に沿って通行しなければなりません。

●但し、以下の場合に限り歩道を通ることができます。
※自転車歩道通行可の標識がある場所。
※運転者が幼児、児童、70歳以上のお年寄り、身体障害者の場合。（幼児・児童の保護者はお子様が乗車するときは必ずヘルメットをかぶせるようにしてください。）
※道路、交通の状態から見てやむを得ない場合。

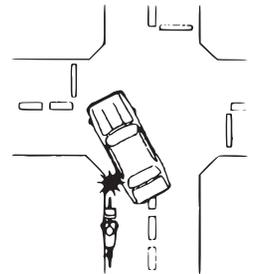
衝突や転倒した時には

衝突や転倒をした際は、必ず自転車各部を点検してください。異常がある場合は販売店に相談してください。

自動車の横を走り過ぎるときはスピードを出さない。

自動車のドアが急に開き衝突の危険性があります。

自動車の左折車に注意

車道の左端を走っている自転車が左折する自動車に巻き込まれる事故がよく起こっています。直進しようとするときは、左折車の動きに十分注意し、道路の左端を走るようにしましょう。トラックやバスの真後ろはバックミラーには入りません。信号で停止するときなど自動車の車線には入らないようにしましょう。

駐輪時の注意

●駅前や商店街など自転車を乗って行った先で自転車を放置しないようにしましょう。駐輪するときは駐輪所に駐輪しましょう。
●平坦な場所で必ずスタンドをロックし施錠しましょう。
●自転車使用後は、ブレーキに手を触れないでください。熱くなっている箇所がありますのでヤケドをする恐れがあります。

前輪ロックに注意

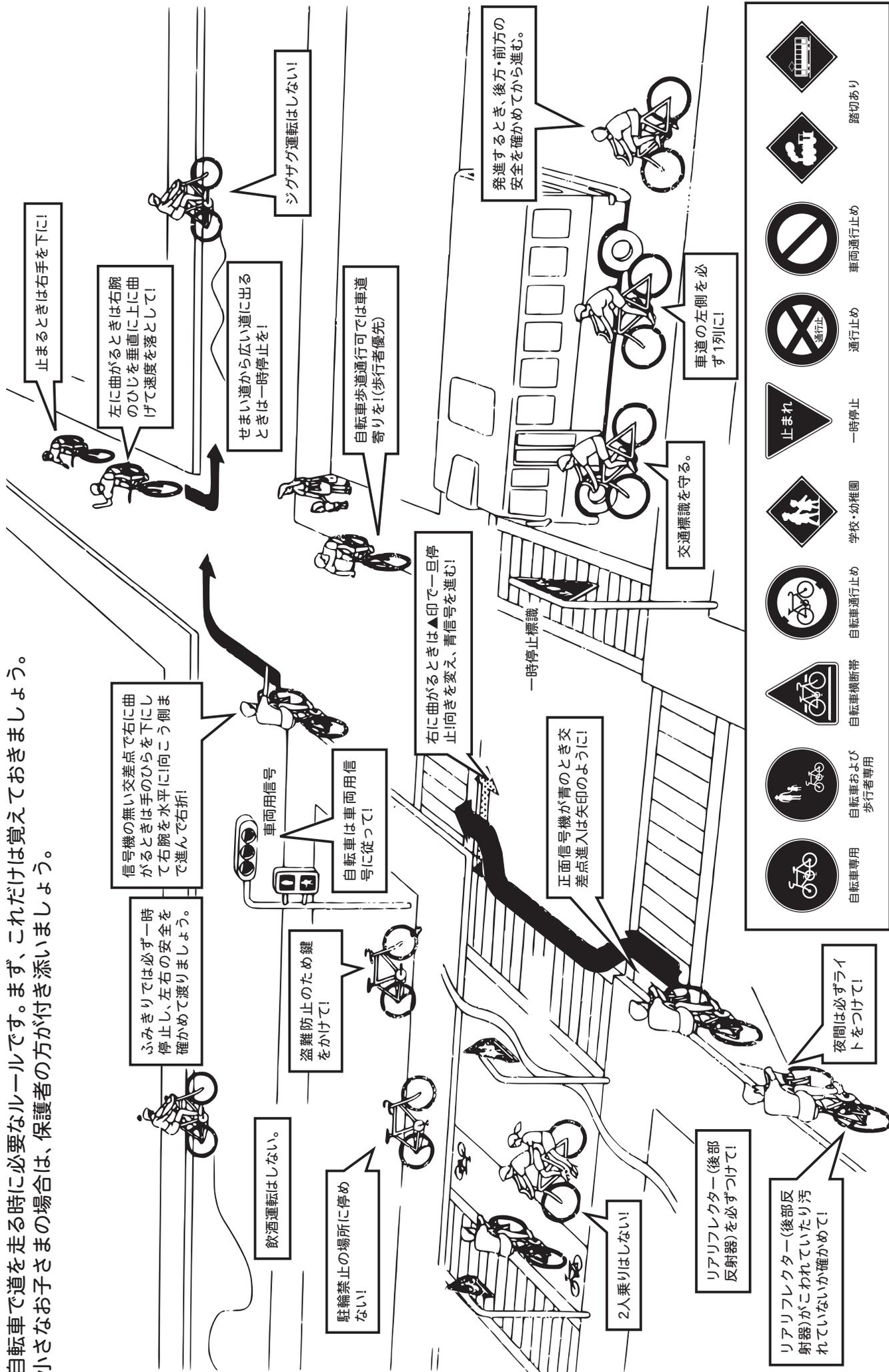
⚠警告

※前輪ロックとは、走行中に前車輪の回転が瞬間的に急停止する現象です。衝突と同じくらいの衝撃があり、前のめりに頭から転倒し大事故につながります。
前車輪がロックされる原因には以下のような場合が考えられます。

1. ハンドルにぶら下げたバッグなどが前車輪や、前車輪と車体の間に入ったとき。
2. 前カゴに入れたバンドや細長いヒモ状の物などが前車輪の間に入ったとき。
3. スピードを出していて急ブレーキをかけたとき。
4. 前子供乗せの子供の足が誤って車輪の間に入ったとき。
5. ダイナモランプを足先で蹴って倒すとき誤って足を車輪の間に突っ込んだとき。
また、そのときダイナモを倒してダイナモが車輪の間に入ったとき。
6. スポーク切れやその他の原因で、リムが横振れしタイヤが車体に接触したとき。
7. ブレーキシューのネジがゆるんでいてブレーキシューがタイヤに接触したとき。
8. 外部から異物が車輪の間に入り込んだとき。
9. 前車輪のハブ芯を止めるナットがゆるんでいて車輪が傾きタイヤが車体に接触したとき。
10. 前車輪にフロントガードなど挟み込みを防止する装置がある物では、乗車前にその装置に破損が無いことを確認してください。もし破損がある場合はすみやかに販売店で交換してください。

※図、及び内容はイメージですので実際の商品とは異なる場合があります。

交通ルールを守りましょう

自転車で道を走る時に必要なルールです。まず、これだけは覚えておきましょう。
小さなお子さまの場合は、保護者の方が付き添いましょう。

点検・チェックリスト

点検時期以外でも異常を感じた場合、点検・調整を受けてください。　　※書き方・・・良好○　不備×

	点検項目	2ヶ月以内		1年ごと		1年ごと		1年ごと		1年ごと		1年ごと	
		点検	調整	点検	調整	点検	調整	点検	調整	点検	調整	点検	調整
1	大きさは乗り手の体格に合っているか												
2	サドルにまたがって、足が地に届くか、またサドルの固定は確実か												
	●ハンドルの高さは適当か ●乗る人の上体が少し前に傾くように、サドルの前後の位置が調整されているか ●1～2は幼児。お子さまにご留意ください。												
3	フレーム・前ホークに変形や亀裂などはないか												
4	ヘッド・ハンガー小物にガタ・磨耗はないか												
5	泥除けはしっかりと取り付けてあるか												
6	キャリア(荷台)は片寄っていないか、またしっかり取り付けてあるか												
7	スタンドの取り付けと作動はよいか												
8	タイヤの空気の入り具合は適当か、タイヤはすり減っていないか												
9	ペダル軸はクランクと直角になっているか												
10	クランクに曲がりはないか、ギヤクランクは滑らかに回転しガタはないか												
11	ペダルは滑らかに回転するか												
12	車輪のふれ・スポークのゆるみ・軸部のガタはないか												
13	ブレーキゴム類、シュー・パット・ライニングなどはすり減っていないか												
14	レバーの感覚は正常で前後のブレーキはよく効くか												
15	チェーンのたるみ・張りは適当か												
16	発電ランプは点灯するか、ネジはゆるんでないか												
17	リフレクターはこわれていないか、汚れていないか												
18	ベルはよく鳴るか、ゆるんでいないか												
19	カギの取り付けと機能はよいか												
20	ギヤチェンジは正確に作動するか、またチェーンが外れないか												
21	フリーホイールの回転と注油はよいか												
22	チェーンケースの形状と取り付けはよいか												
	定期点検・調整を実施した販売店ならびに年月日	年 月 日	印	年 月 日	印	年 月 日	印	年 月 日	印	年 月 日	印	年 月 日	印

●点検整備のお願い
(定期点検・整備)

■お買い求め2ヶ月以内に第1回目を、「第2回目」はその後1年ごとに実施してください。なお、点検・整備はお早めに販売店(組立整備資格者)に依頼されることをおすすめします。(有料)
■異常を感じた場合上記の点検を実施し、調整・修理してください。

防犯登録について

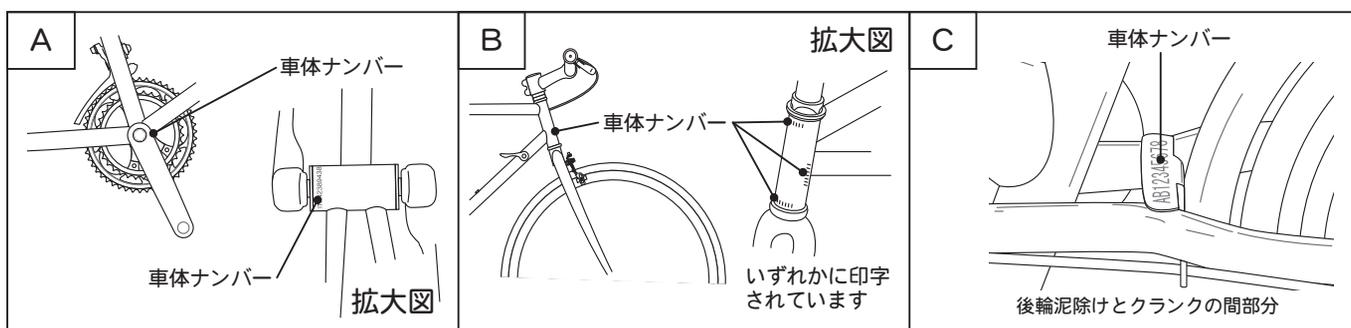
平成6年6月20日より自転車基本法(省略)が改正され、防犯登録が自転車利用者の義務となりました。防犯登録をご希望の方は、お近くの「防犯登録所(自転車販売店)」にて手続きが出来ます。

防犯登録を受ける際、必要になるもの

① お求めいただいた自転車本体
② 販売証明書(取扱説明書付属の販売証明書に必要事項を記入してください。)
③ お客様の身分証明になるもの(運転免許証・健康保険証・学生証など)

※防犯登録を受ける際は別途手数料が必要となります。(お客様のご負担になります。)
その他、防犯登録についてご不明な点がございましたら最寄りの各都道府県防犯登録協会(自転車商協同組合)にお尋ねください。

大阪自転車商防犯協力会　TEL06-6621-5350
東京自転車商防犯協力会　TEL03-3251-8446

※防犯登録を受ける際に自転車の車体ナンバーを登録します。車体ナンバーの印字箇所については下図をご参照ください。
A、B、Cいずれかの箇所に印字されています。

BAAマーク付き自転車について

BAAマークが添付された自転車は、安全で長持ちする自転車を目標に、社団法人自転車協会が定めた自転車安全基準に基づく型式検査に合格した適合車です。万が一製造上の欠陥で事故が発生した場合は製造、輸入業者の責任で補償致します。
社団法人自転車協会は直接利用者の皆様への保証を致すものではありません。

対人対物賠償責任保険

自転車が関連する交通事故は全事故の2割を占めています。万一の人身事故に備えて対人対物賠償責任保険に加入しましょう。

お問い合わせ先

株式会社オオトモ「サポートセンター」
〒559-0025 大阪府大阪市住之江区平林南1丁目5-15

電話：06-6654-3169
受付時間/10:00～12:00、13:00～16:00(土日祝祭日、弊社指定日を除く)

メール：support@e-otomo.co.jp
※メールでのお問い合わせは24時間実施しています。
お電話でのご連絡が難しい場合はメールでのご連絡をお願いします。

弊社では、相談内容の適正さを確保するため、通話内容を全て録音させていただいております。

保証規定

取扱説明書に基づく正常なご使用状態で保証期間内に故障した場合、下記内容にて保証修理、交換、補修部品の送付をお受けさせていただきます。

初期不良(製品お受け取り後1週間以内)を含み、製品に不具合があり製品保証(無償保証)を受けるためには、お買い求めになられた販売店・ご購入年月日・ご購入者様のお名前ご住所・ご連絡先などのお客様情報が必須となります。保証修理をお受けになられる場合は保証書をご提示の上、弊社製品サポートまでご連絡ください。

1. 組立について

1-1　弊社の自転車は75%～98%組み立て済み(種類によって差があります)状態での梱包・お届けとなり未完成部分はお客様にて組み立てが必要となります。組み立てにはある程度の技術が必要となります。組み立てや調整に必要な工具は、お客様でご用意していただく必要があるものもございます事をご了承ください。
1-2　組み立てに要する手間、費用等につきましては、弊社はこれらを負担する事が出来ませんのでご了承ください。
1-3　また、弊社の納入した商品に何らかの不具合があった場合につきましても、これによりお客様側で発生した組み立て費用等は弊社でこれらを補償する事が出来ませんのでご了承ください。

2. ブレーキ・変速機等の調整について

2-1　契約製造工場にて最終検査、各部調整後に梱包しておりますが、製品輸送中にブレーキや変速機のワイヤーがゆるみ調整がずれる(初期伸び)、またタイヤの空気が抜けてしまう場合がございます。これらは製品特性上発生し得る現象であり、製品不良には該当しないものとなります。お客様ご自身で調整していただくこととなりますので、ご了承ください。
2-2　調整に掛かる費用は、全てお客様のご負担となりますので予めご了承ください。
2-3　変速機の不具合において、稀にフリー(スプロケット)が動いている為、もしくは変形している為というご報告をいただくことがございますが、フリーが動くのは異常ではありません。(空転時に目立つ現象となります。)変形は、変速を速やかに行うための加工部分の誤認識の可能性があります。ほとんどの変速不具合は、ワイヤーの張り調整、調整ネジによって改善されます。保証対応時、製品不良が確認出来ない時は、A-2、B-12に該当する為、調整費、送料等をご請求させていただくこととなりますのでご注意ください。

3. 修理・メンテナンスについて

製品保証の対象とならない場合の修理、メンテナンス等は弊社では行っておりませんので製品保証の対象とならない場合の修理、メンテナンス等は、最寄りの自転車店などにご依頼ください。

4. 返品・交換について

下記のような場合はいかなる理由でございましても、返品・交換をお受けすることが出来ません。
ご開梱時に間違いが無いかを必ずご確認ください。
4-1　一度ご使用になられた場合、またはその形跡がある商品。
4-2　付属品の無い商品やラベルを剥がしている商品。
4-3　部品の不足を理由とする返品はお受けできない場合があります。
4-4　お客様の責任で、商品が破損、汚損している場合。
4-5　お客様ご自身で加工・修理された場合やその形跡がある商品。
4-6　良品の返品はお受けすることが出来ませんので予めご了承ください。
4-7　お客様のご都合による返品はお受けすることが出来ませんので予めご了承ください。
例：・サイズが合わない。
・色が気に入らない(画面上と実物では多少色具合が異なって見える場合がございますので予めご了承下さい)。
・イメージ通りでない。
・その他弊社がお客様都合と判断した場合。
4-8　自転車のフレームには配送時に傷つかないよう可能な限りの梱包をさせていただいておりますが、どうしても小さな傷や凹みが発生してしまうことがあります。これらの小傷は不可抗力となり、症状によっては不良品としての取り扱いが出来ない場合がありますので予めご了承ください。
4-9　弊社からお客様に対して直接の返品・返金は一切お受け出来ません。返品・返金に関してはお買い上げいただいた販売店にご相談ください。

5. 初期不良・部品不足・部品不良について

パーツの初期不良があった場合は、該当パーツの交換対応となります。
この場合、大変お手数をお掛けしますが、お客様自身でパーツの取り外し・取り付けをお願い致します。
5-1　初期不良対応期間はお客様が製品をお受け取り後1週間となります。製品に初期不良が見受けられた場合は弊社製品サポートまでご連絡ください。
5-2　自転車アクセサリ、自転車部品については初期不良対応のみになりますのでご了承ください。
5-3　部品不足・部品不良の場合、またそれらの部品の交換が容易で交換により機能回復可能な場合は部品のみをお送りし、お客様に該当部品の交換をお願いする場合があります。部品交換にて機能回復可能な場合、車体交換はお受け出来ませんので予めご了承ください。
5-4　修理でお預かりする場合の代車はご用意しておりませんので予めご了承ください。

6. 箱の保管について

6-1　お届けになった商品の箱は、保証をお受けになる際に必要となる場合があります。自転車に初期不良が無いことをご確認いただいた後に処分してください。
初期不良対応期間は製品お受け取り後1週間以内となります。製品の返送が必要で、お届け時の元箱をすでに処分された場合、有償になる場合や、返送を受
6-2　け付けられない場合がありますのでご注意ください。

7. 防犯登録について

7-1　初期不良がないことをご確認いただいた後に、保証書に必要事項を記入のうえ防犯登録を行ってください。
7-2　お客様の元に到着しました自転車の車体番号は、弊社では管理ができないものとなっています。そのため自転車を紛失した後にお問い合わせいただきましても、お答えする事が出来ないため、地域の指定にしたがって防犯登録にご加入していただくようお願い致します。
防犯登録に加入する事は各都道府県とも義務づけされております。地域によって加入方法、加入金額が異なりますのでお住まいの地域の防犯登録協会にご確認ください。

8. 保証最低限度額

保証金の限度額は自転車販売金額となりますので、ご了承ください。

保証規定

A. 保証の注意事項

A-1　商品の不良以外（使用方法に起因する不具合や消耗）は保証対象外となりますのでご注意ください。
A-2　万一お預かりした製品に不具合が見当たらなかった場合は送料をご負担いただく場合がございますので予めご了承ください。
A-3　工場出荷時・検品時、輸送時にタイヤに汚れが付く場合がありますので予めご了承ください。
A-4　カラータイヤや、カラーグリップは通常の黒いタイヤやグリップに比べて日焼けに弱いという特徴があり、日光にあたると徐々に変色していきます。一度変色してしまうと元の色に戻すことはできませんので、保管時になるべく直射日光の当たらない場所で保管してください。
A-5　シートの高さを調整する際に、シートクランプが締まった状態で作業をおこなうとシートポストにキズが付きますので、シートクランプがゆるんでいる状態で十分ご注意のうえ、シートの高さ調節を行ってください。
A-6　カートン箱の印刷の仕様により、衣類等に塗料が付着する場合がありますので、持ち運びの際は汚れても問題のない服装で作業を行ってください。
A-7　カートン箱を開封する際、留め金で衣服を破いたり、ケガをしないようご注意ください。
A-8　商品改良のため、予告なく価格・色・デザインなどの仕様を変更する場合がありますのでご了承ください。
A-9　表示しているサイズ・重量に関しては、多少の誤差が生じる場合がありますが製品上の特質があるためご了承ください。
A-10 この保証書は盗難保険ではありません。盗難保険及び防犯登録については販売店にご相談ください。

B. 保証の適用外

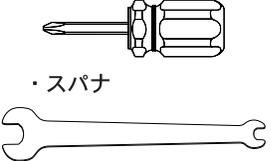
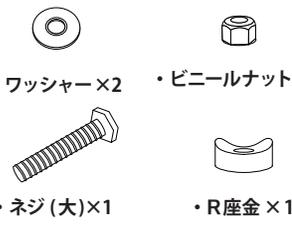
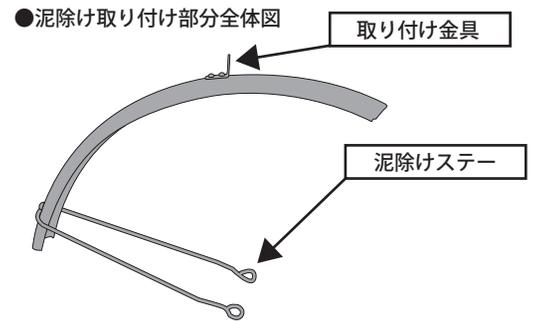
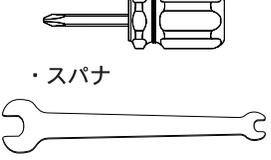
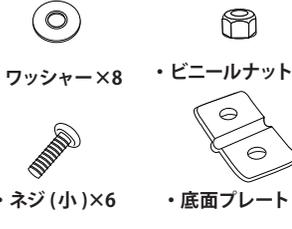
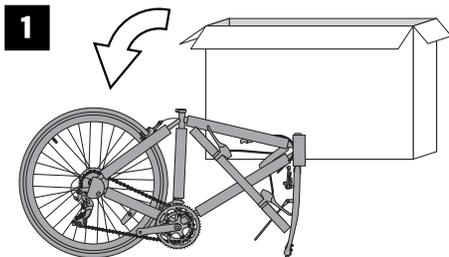
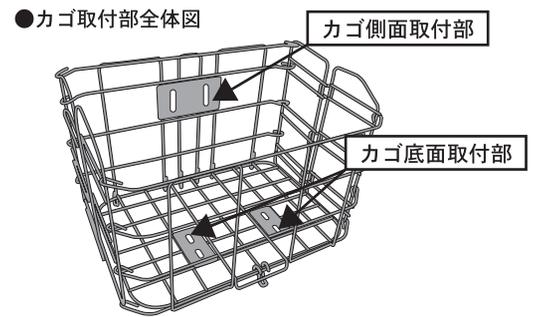
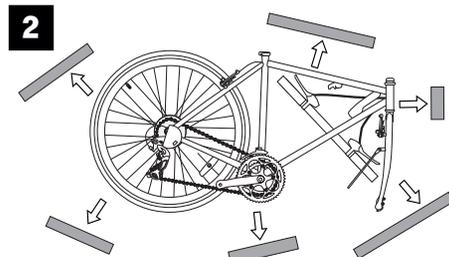
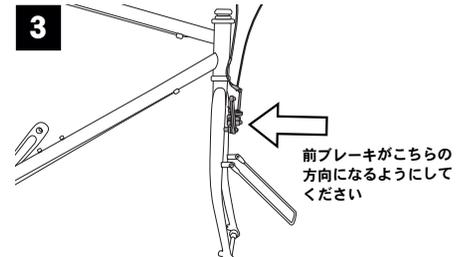
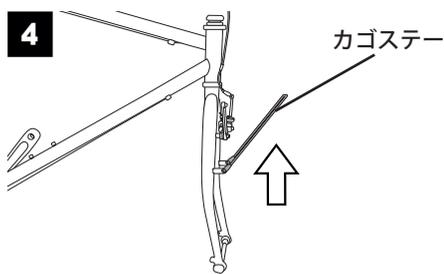
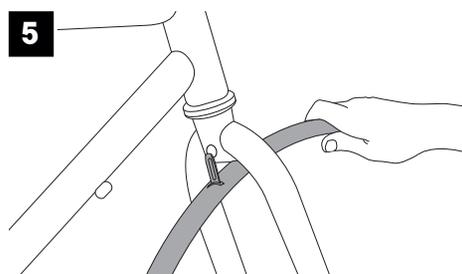
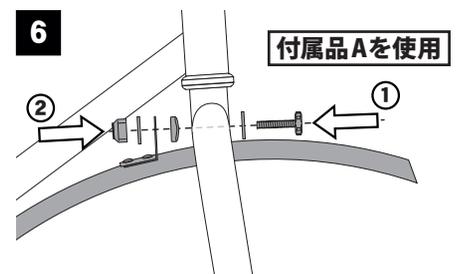
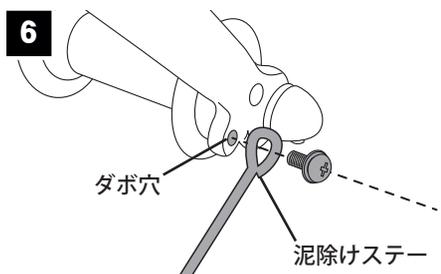
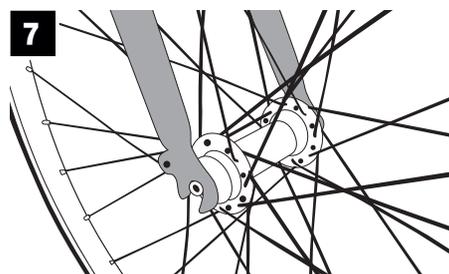
次のような場合は、保証期間内であっても保証の適用外となりますのでご注意ください。
B-1　取扱注意書に記載してある「警告及び注意」事項及び下記の注意を守らなかった為に生じた事故及び破損。
B-2　取扱説明書の組み立て手順と異なる組み立てにより生じた故障及び破損。
B-3　使用者の使用上の不注意によるもの、または使用に起因する部品の劣化。
B-4　地震・落雷・火災・水害・塩害・ガス害その他天災地変あるいは外部的要因による故障および損傷。
B-5　開梱後の輸送、移動、落下等による故障および損傷。
B-6　衝突・転倒・道路の段差等への乗り上げまたは溝落ちにて発生した故障及び破損。
B-7　２人乗りをした為に生じた故障及び破損。
B-8　法令違反行為によって生じた事故。
B-9　構造・機能を改造又は変更したために生じた故障及び破損。
B-10 手入れ及び保管場所の不備により生じた故障及び破損。
B-11 タイヤのパンクを含む消耗品により生じた故障及び破損。
B-12 ブレーキ・変速機の調整不足により生じた故障及び破損。
B-13 組み立てミスによるねじ山とねじ山の周りの潰れ（ペダル左右取付間違い、締め付けトルク不足による脱落も含みます。）。
B-14 パンク、空気不足のままの使用による不具合。
B-15 調整不十分のままの使用による不具合。
B-16 当社メンテナンススタッフが検品した際に明らかに誤使用、事故が起因となり、故障及び破損が生じたと判断した場合。
B-17 保証書の無い場合。
B-18 保証書に必要事項が記入されていない場合。
B-19 保証書の字句等を書き換えた場合、虚偽の記載があった場合、また記載の無い場合。
B-20 保守・整備の不備又は間違いや不注意、構造の理解不足によって生じた故障及び破損。
B-21 取扱説明書に定める初期点検・定期点検を行わなかった事により生じた故障及び破損。
B-22 酷使または一般的に自転車が走行しない場所や未舗装路での走行により生じた故障及び破損。
B-23 レンタルなど不特定多数で使用された場合。
B-24 再販（中古品）で購入された場合、及び譲渡されたもの。
B-25 メンテナンスの不十分・保管場所の不備及び経年劣化によって生じた塗装面・メッキ面・金属面その他これに類する不具合およびプラスチック等樹脂部品の劣化・退色。
B-26 タイヤ・チューブ・ブレーキ用ゴム等ゴム類、ペダル・ベアリング他回転部品・可動部品、チェーン等消耗品の損傷・損耗。
B-27 釘・ガラス・切削くず・石など鋭利な物体との接触、走行中の衝撃に起因するパンク及び自転車の損傷・損耗。
B-28 一般に機能上は影響が無いと思われる感覚的現象（音・振動等）や、塗膜の剥離を伴わない微細な傷。
B-29 使用者による簡単な調整で機能回復できる場合。
B-30 弊社以外で改造、分解、部品交換をされた場合。
B-31 弊社にご連絡なしに、かつ同意なしに修理された修理代金、及び他店で調整、修理された箇所やそれに起因する不具合、および調整、修理代金。
B-32 カゴ・バッグ・その他付属品、ブレーキワイヤー・ギアチェンジ用ワイヤー・ワイヤー取り付け用金具・コード類・各ゴム・樹脂類・電球・レンズ・スポーク・ニップル・スプリング・ブッシュ・ボルト類・ナット類及びお客様お取り付けの部品、身の回り品。
B-33 日本国外で購入された場合。
B-34 日本国外で使用された場合。

〈製品保証対象外例〉

●チューブが裂けた
空気圧不十分なまま走行すると、タイヤとリムの間にチューブが挟まり、チューブが裂けることがあります。このような場合は、お客様の使用方法に起因するため保証対象外となりますのでご了承ください。
●ペダルが脱落した
ペダル装着時に、締め込みがゆるい、斜めにねじ込まれている等の現象があると、走行時にネジがゆるみ脱落する可能性があります。このような場合は、お客様の組立方法に起因するため保証対象外となりますのでご了承ください。
●アヘッドパーツの破損
スポーツ車において、ハンドル形状がアヘッドタイプとなっているものは、通常の自転車と違い、固定ネジはステムの縦部に並ぶものとなっております。このタイプのハンドルステムは天面部のネジを締め付けすぎると、簡単にネジ受けが破損してしまいます。このような場合は、お客様の組立方法に起因するため保証対象外となりますのでご了承ください。
●自転車店に修理を依頼したが断られた
自転車店によっては自転の販売した自転車以外の自転車を快く思わず、修理などを拒否するお店もあります。このような場合は他のお店にご相談ください。

●不良による修理に関しては、弊社にて部品を送付し修理工賃のご負担をさせていただく場合がございますが、弊社判断による相場との大きな差額、出張費用など、工賃以外の部品代金等は補償できませんのでご了承ください。

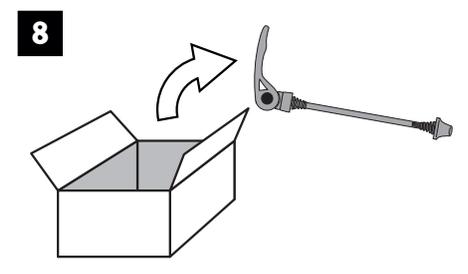
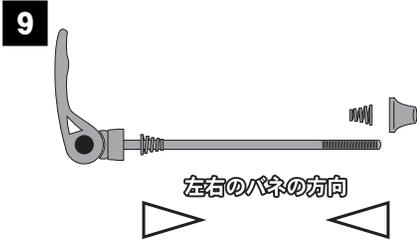
●泥除け、車輪、前カゴの取扱方法 - ①

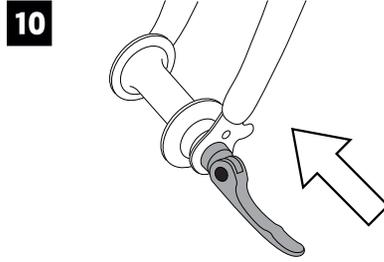
泥除け

折畳み式前カゴ (金具取り付タイプ)

自転車を箱から出してください。

梱包材を剥がしてください。

前ホークを図の方向に合わせてください。

カゴステーを矢印の方向に上げます。

図の位置に泥除けを取り付けます。付属品 A をご用意下さい。

①ボルトにワッシャーを通し、前方向から差込みます。②フォークの後ろから図の順番で、ビニールナットで「仮止め」します。ワッシャーの順番、方向に注意してください。

前フォークのダボ穴に図のようにボルトで泥除けステーを「仮止め」します。※ボルトが斜め入らないようにご注意ください。

前ホークに車輪を差し込んでください。

付属している小箱からクイックレリーズを取出してください。

裏面へ

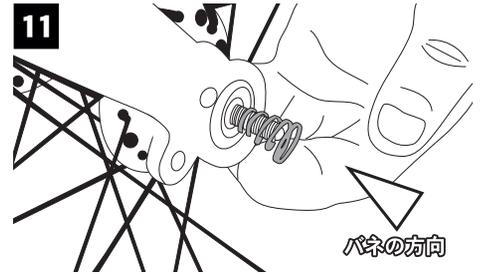
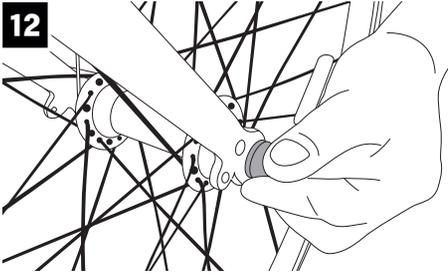
●泥除け、車輪、前カゴ取扱方法 - ②

9

クイックレリーズの構成は写真のようになっています。

10

クイックレリーズを自転車の左側（自転車に向かって右側）から差し込んでください。この時バネの方向に注意してください。

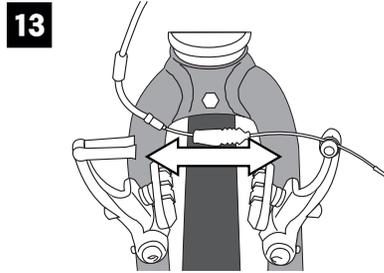
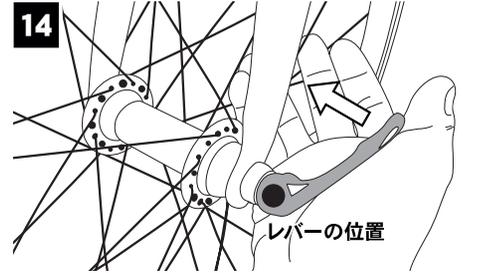
11

前ホークの右側から方向に注意してバネを入れてください。

12

更にナットを指先で締められるところまで締めてください。

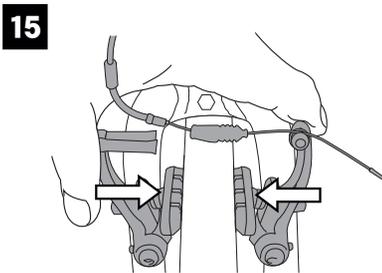
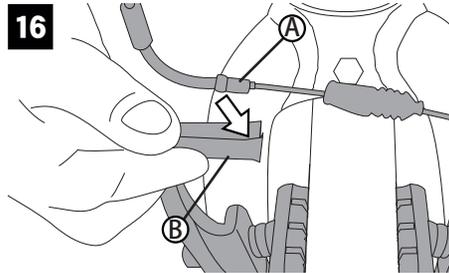
13

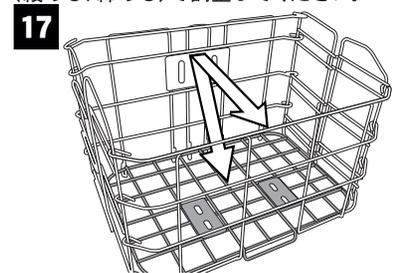
タイヤが前ホークの中心になるように車輪をセットしてください。

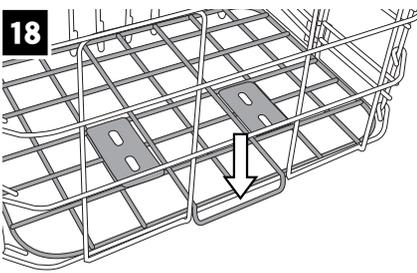
14

レバーを内側に倒し、車輪がしっかりと取付けられているか確認してください。もし緩かったりレバーを倒すのが固かった場合はナットの締め具合（緩める、締める）で調整してください。

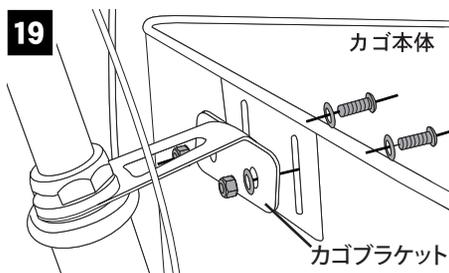
15

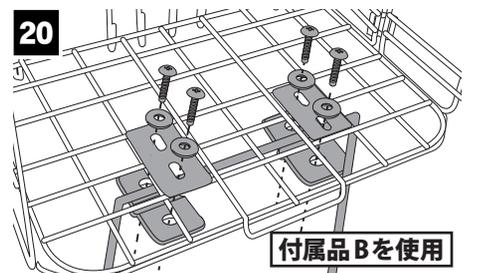
ブレーキ本体を指で押さえます。

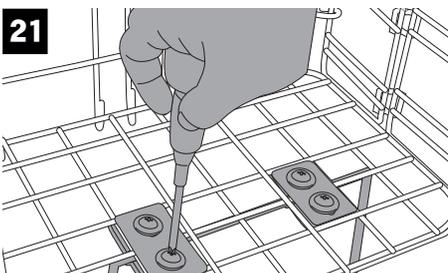
16

ⒶをⒷの内側に引っ掛けてください。
※ブレーキの調整が必要な際は、別冊のOTOMO組み立て説明書をご参照ください。

17

折りたたまれたカゴを広げ、底板を敷いてください。

18

爪が奥までしっかりと掛かっていることをご確認ください。

19

ネジをワッシャーに通し、カゴ側面部の穴にネジを内側から差込みます。カゴブラケットの穴にネジを通し、ワッシャーをネジに通します。その後、ビニールナットを指で「仮止め」してください。

20

ネジをワッシャーに通し、カゴ底面部の穴にネジを内側から差込みます。カゴ脚を底面プレートで挟み込み、「仮止め」します。

21

最後に「仮止め」をした各部の締め付けをおこなってください。

⚠注意 ご乗車の際は、各部がしっかりと固定、調整ができていることをご確認の上、ご乗車ください。組み立て、調整に不安のある方はお近くの自転車販売店にご相談ください。（組み立て工賃はお客様負担となります。）

⚠注意 本紙は、組み立ての流れを記したものです。各所の組み付け、取り付け方法の詳細は別冊の OTOMO 組み立て説明書をご参照ください。

輸入元 OTOMO 株式会社オオトモ 〒559-0025 大阪府大阪市住之江区平林南1丁目5-15

お問い合わせ先：株式会社オオトモ「サポートセンター」 受付時間／10:00~12:00（土日、祝祭日及び当社指定日を除く） 13:00~16:00

TEL：06-6654-3169　FAX：06-6654-3309　E-mail：support@e-otomo.co.jp

メールでのお問い合わせの受付は24時間実施しておりますので、
お電話での連絡が難しい場合にはメールでのご連絡をお願い致します。